

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

**平成26年度～平成30年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」  
研究成果報告書概要**

1 学校法人名 学校法人 関西大学                      2 大学名 関西大学

3 研究組織名 データサイエンス研究センター

4 プロジェクト所在地 大阪府吹田市山手町 3-3-35

5 研究プロジェクト名 ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
矢田 勝俊	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部	教授

8 プロジェクト参加研究者数 26 名

9 該当審査区分 理工・情報      生物・医歯      人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
矢田 勝俊	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部・教授	プラットフォーム開発および研究総括	学際研究のためのプラットフォーム開発および研究総括
乙政 正太	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部・教授	コーポレートガバナンスにおける会計情報の有用性に関する実証研究	財務・金融関連情報のデータベースの活用
藤岡 里圭	商学部・教授	流通・経営チームの統括および百貨店の顧客分析に関する研究	顧客分析のラグジュアリーマーケットへの応用
中畠 道靖	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部・教授	サステナブル・マネジメントの体系化および事例研究の総括	学際研究のためのサステナブル・マネジメント・システムの開発
岡 照二	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部・准教授	サステナブル・マネジメントにおける企業マネジメントに関する研究	学際研究のためのサステナブル・マネジメント・システムにおける企業マネジメント手法の開発
岸谷 和広	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部・教授	消費者行動分析に基づく店頭管理の研究	消費者の行動から顧客分析を考察

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

木村 麻子	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部・教授	サステナブル・マネジメントにおけるサプライチェーンに関する研究	学際研究のためのサステナブル・マネジメント・システムにおけるサプライチェーン・マネジメント手法の開発
高井 啓二	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部・准教授	ビジネスデータの分析手法開発及びモデリングチーム統括	各チームが扱うデータ分析技術の基盤確立
宮崎 慧	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部・准教授	店舗実験計画の遂行および統計モデリング	統計モデリングを通じた消費者行動の理解促進
岩崎 拓也	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部・准教授	コーポレートガバナンスにおける会計情報の有用性に関する実証研究	財務・金融関連情報に関するプログラミング
千葉 貴宏	商学部・准教授 (前助教)	マーケティングサイエンスに基づく顧客行動モデリング	マーケティングサイエンスに基づく消費者行動モデルの高度化
村上 啓介	ソシオネットワーク戦略研究機構・商学部・准教授 (前助教)	計算処理の高速化のためのアルゴリズム開発	計算処理の高速化、アルゴリズム開発
(共同研究機関等) 里村 卓也	ソシオネットワーク戦略研究機構・慶應義塾大学・商学部・教授	経済学理論を応用した顧客行動モデリング	経済学理論による購買行動の理解促進
岡田 謙介	東京大学・大学院教育学研究科・准教授 (前専修大学・人間科学部・准教授)	心理学理論を背景とした顧客行動の統計モデリング	心理統計手法を通じた消費者行動の理解促進
佐野 夏樹	ソシオネットワーク戦略研究機構・総務省統計研究研修所・研究専門官 (前尾道市立大学・経済情報学部・准教授)	統計モデルの応用	時系列解析による行動分析
塩地 洋	京都大学・経済学部・教授	新興国自動車市場におけるラグジュアリーブランドの流通に関する研究	顧客分析を通じたラグジュアリーブランドの普及についての考察
ピエール=イブ、ドンゼ	ソシオネットワーク戦略研究機構・大阪大学・大学院経済学研究科・教授	ラグジュアリーブランド戦略とラグジュアリー時計の流通に関する研究	顧客分析を通じたラグジュアリーブランド戦略と流通システムに関する考察

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

鷺尾 隆	ソシオネットワーク戦略研究機構・大阪大学・産業科学研究所・教授	機械学習を用いた顧客行動の時系列モデリング	データマイニングアプリケーションの開発
清水 昌平	滋賀大学・データサイエンス学部・教授(前データサイエンス教育研究センター・准教授)	因果モデリングによるビジネスデータでの因果発見	ビジネスデータにおける因果構造の発見の支援
椎葉 淳	ソシオネットワーク戦略研究機構・大阪大学・大学院経済学研究科・教授	コーポレートガバナンスにおける会計情報の有用性に関する実証研究	財務・金融関連情報を利用した理論モデルの構築
廣瀬 慧	ソシオネットワーク戦略研究機構・九州大学・マス・フォア・インダストリ研究所・准教授	機械学習による現象理解とアルゴリズム開発	大規模計算における計算時間短縮のためのアルゴリズム開発
市川 晃平	ソシオネットワーク戦略研究機構・奈良先端科学技術大学院大学・情報科学研究科・准教授	分散処理技術を応用した計算処理の高速化	クラウドコンピューティングにおける高速 ASP システムの開発
首藤 昭信	東京大学・大学院経済学研究科・准教授	コーポレートガバナンスにおける会計情報の有用性に関する実証研究	財務・金融関連情報を利用した実証分析
左 毅	ソシオネットワーク戦略研究機構・大連海事大学・航海学院・教授(前名古屋大学・未来社会創造機構・特任助教)	マーケティング理論を応用した顧客購買行動の統計モデリング	ベイジアンネットワークを用いた顧客購買行動の理解促進
李 振	ソシオネットワーク戦略研究機構・東洋大学・経営学部・専任講師	マーケティングサイエンスに基づく消費者行動モデルおよび理論の開発	消費者行動モデルに基づく理論開発
武 博	ソシオネットワーク戦略研究機構・早稲田大学・人間科学学術院・助教(前関西大学PD)	行動科学に基づく消費者行動モデリングとその応用	消費者行動モデルに基づく理論開発

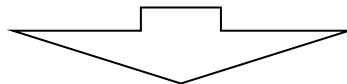
法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
マーケティング理論を応用した顧客購買行動の統計モデリング	株式会社ビデオリサーチソリューション推進局メディア・コミュニケーション事業推進部	猪狩 良介	マーケティングサイエンス手法を用いた顧客購買行動の理解促進

(変更の時期:平成27年 4月 1日)



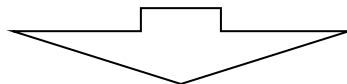
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	名古屋大学・未来社会創造機構・特任助教	左 毅	ベイジアンネットワークを用いた顧客購買行動の理解促進

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成28年 7月 1日)



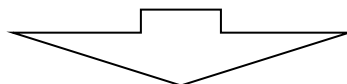
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	関西大学・商学部・助教	千葉 貴宏	マーケティングサイエンスに基づく消費者行動モデルの高度化

旧

プロジェクト外での研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成28年 7月 1日)



新

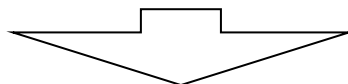
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	関西大学・商学部・助教	村上 啓介	計算処理の高速化、アルゴリズム開発

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成28年 7月 1日)



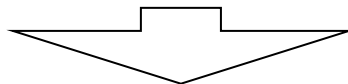
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	奈良先端科学技術大学院大学・情報科学研究科・准教授	市川 昊平	クラウドコンピューティングにおける高速ASPシステムの開発

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成28年 7月 1日)



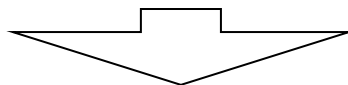
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
関西大学ポスト・ドクトラル・フェロー	東洋大学・経営学部・専任講師 (平成28年4月1日より)	李 振	消費者行動モデルに基づく理論開発

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成30年 4月 1日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
関西大学ポスト・ドクトラル・フェロー	早稲田大学・人間科学学術院・助教 (平成30年4月1日より)	武 博	消費者行動モデルに基づく理論開発

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

## 11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

### (1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究プロジェクトの目的は、多様なビジネス分野においてデータサイエンスの様々な技術を応用し、基礎技術・アプリケーションの開発、消費者行動のモデル開発、実践による検証というデータサイエンスプロセスを実現する総合研究拠点を形成することである。ビジネス分野におけるビッグデータ解析の実用化のためには、応用領域の専門知識と分析・モデリングの技術が必要不可欠である。本プロジェクトは、流通/経営、サステイナブル/マネジメント、アカウントティング/ファイナンス分野のそれぞれの専門家と情報技術/モデリングの研究者との共同研究を真に実現する体制を構築する。また、産学連携および国内外の優れた研究機関との連携のもとで NOE (Network of Excellence)の中核組織を指向する。国際連携および研究分野を大きく拡張し、当該分野における世界トップレベルの研究拠点を形成することが本研究プロジェクトの最終目的である。

本プロジェクトの初年度と平成 27 年度は、研究環境の準備と基礎研究を中心に進め、モデル構築のために国際ワークショップを開催して幅広く実験仮説のアイデアを集め、検討する。平成 28 年度は、理論モデルの構築ならびにデータ解析に取り組む。これと並行して平成 30 年度までに、国際会議の主催、各分野の実証結果をまとめた英文研究叢書の刊行を行い、研究成果の社会還元、情報発信とともに研究の総括を行う。

### (2) 研究組織

#### 1. 研究代表者の役割

研究代表者は本プロジェクトの研究目的を遂行するため、研究分野が異なるチームおよび研究者間で活発なコミュニケーションが行われるように研究メンバーの統括・管理を行う。具体的には、研究会やワークショップ、国際会議の開催など【別紙資料 P43～51】様々な機会を設け、共同研究の基盤構築と研究方向の確認、意思統一を図っている。また、プロジェクトの進捗状況に応じた予算配分の検討を行い、センターの推進委員会での合議を経て決定している。さらに、国際連携や産学連携において、各研究員と外部（海外研究機関、企業群）との橋渡し役も担っている。

#### 2. 各研究者の役割分担・責任体制

本研究プロジェクトでは、多様なビジネス分野においてデータサイエンスプロセスを実現するために、図 1 に示すような 3 つの応用領域ならびにモデリング、解析を担当する技術領域の専門家で構成される計 4 チームで研究（タスク）を統合していかなければならない。各研究者は、所属するチームの領域において少なくとも 1 つの専門領域を持ちながら、共同研究を行っている。流通/経営チーム（以下「流通 T」という）では、藤岡をチームリーダーとし、岸谷、塩地、ドンゼと共に消費財流通分野における消費者行動モデルの深化とビジネスモデルの有効性の検証を行っている。サステイナブル/マネジメントチーム（以下「環境 T」という）では、中畠がチームリーダーを担当し、木村、岡と共に環境負荷低減と企業価値向上の両立を達成するサステイナブルな企業活動を支える新たな理論、モデルの開発を行う。アカウントティング/ファイナンスチーム（以下「会計 T」という）では、乙政をチームリーダーとし、岩崎、椎葉、首藤と共に国内外に蓄積される長期間・多次元の会計・金融情報を基礎に経営者と株主の間の利害関係を明らかにし、新しい理論構築と実証分析を行う。情報技術/モデリングチーム（以下「情報 T」という）では、宮崎をチームリーダーとし、上述のビジネス 3 分野における多様なビッグデータに対して、先端の多次元・時系列モデルを適用し、さらなるモデル改善、実証を行い、実用化を念頭にした実装までを実現する。情報 T には、統計数理や機械学習、計算機科学など多様な専門技術に基づくアプローチが求められる。よって、それぞれの技術において優れた実績を持つ研究者、および PD による新しいモデリング手法、アルゴリズムの開発、それらの実装・公開やクラウド上での利用環境の構築が行われている。研究内容の性質上、大規模、かつ多次元のデータのハンドリングやモデリングが必要であり、情報 T は応用領域の 3 チームとの連携が必要不可欠である。そのため、センター長矢田、および副センター長高井は、

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

情報 T と他のチーム間の連携や統括、管理を行っている。矢田や情報 T が中心となり、実験仮説に関する議論や研究者間の意思の統一、進捗状況の報告が関西大学（大阪府吹田市）で平均月 2 回以上行われている【別紙資料 P43～49】。

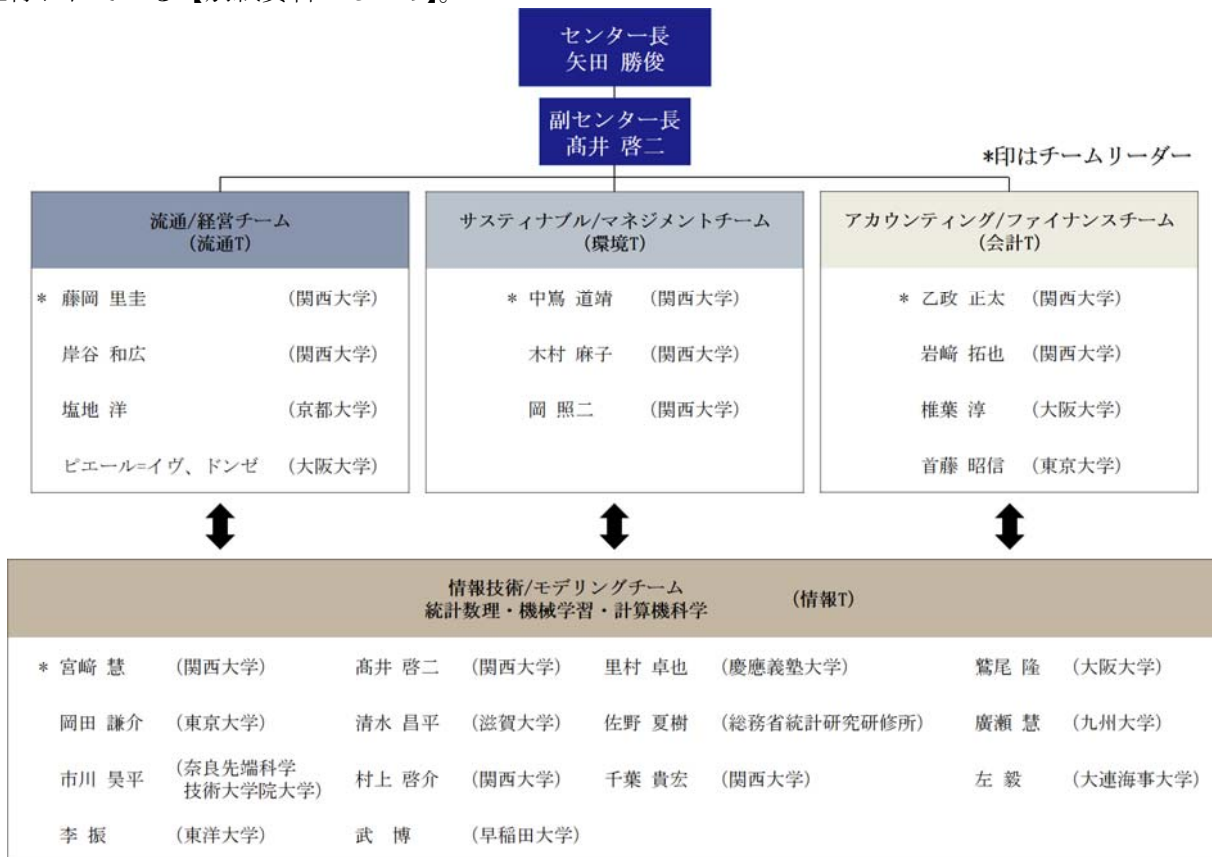


図 1：本研究プロジェクトの研究・責任体制

### 3. 研究プロジェクトに参加する研究者・大学院生・PD の状況

本プロジェクトは 26 名の研究員で組織され、その内訳は関西大学から 12 名、国内の他大学から 14 名となっている。各研究員は本研究センターの共同研究室、またはインターネット会議システムなどを利用して共同研究を行い、複数の共同研究に携わっている【別紙資料 P43～49】。また、研究センターでは事業開始より計 5 名の PD を任用し、それぞれ早稲田大学、東洋大学など 3 名が国内大学で研究職に就いており（内定含む）、当該領域の若手研究者の育成、研究推進を行っている。本プロジェクトでは関西大学商学研究科と連携し、平成 27 年度からデータサイエンティスト育成プログラムを運営してきた。データサイエンス研究センター（以下「DS ラボ」という）で開発・蓄積された研究方法や独自のデータセットを用いて、より実践的な教育プログラムが構築されており、同プログラムを履修する大学院生に DS ラボが主催する研究会や産学連携ワークショップを公開することで、他大学にはない即戦力を備えたデータサイエンティストの育成を実現している。さらに、これらの教育現場に PD ら若手研究者も自主的に参加することで、貴重な教育経験を積むことができ、研究力だけでなく、高度な教育力も備えた若手研究者の育成に貢献している。

### 4. 研究チーム間の連携状況

上述のようにビジネス分野の応用領域ごとに研究を行う 3 チームとデータサイエンスの基礎技術を扱う情報 T を組織することによって、本研究プロジェクトは基礎研究から実問題への応用、研究成果の社会還元までをスムーズに行えるよう研究者間の連携を効果的に維持している。具体的には、消費者行動モデルの開発に関する研究を一例とし、他の応用領域への基礎技術の適用可能性につい

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

でワークショップ、研究会など【別紙資料 P43～49】を通じて検討することで、共同研究を活発に行えるよう進めている。さらに、当プロジェクトが主催する国際ワークショップへ当該分野のトップレベルの研究者を招へいして共同研究を提案するとともに、データサイエンス分野の国内外の研究者と研究発展の可能性について議論する機会を設けている。このようにして多くの共同論文の発刊を可能としており、国際学術雑誌で特集号を組むなど共同研究の成果を発信している。

## 5.研究支援体制

本プロジェクトの研究支援は、母体であるソシオネットワーク戦略研究機構（以下 RISS という。）事務室が対応している。RISS 事務室には、研究所事務グループ長 1 名（他の事務室との兼務）、専任事務職員 2 名（うち 1 名は他の事務室との兼務）、契約職員 1 名、派遣職員 2 名、定時事務職員 8 名が配置され、母体である RISS の研究支援と合わせ、予算執行、研究資料作成、外部資金申請、外部広報等の研究支援を行っている。母体である RISS の運営委員会では、大学側から副学長、法人側から常任理事が出席構成員となっており、本センターの活動内容を含めた RISS 事業計画の検討が行われ、大学との研究支援体制が敷かれている。

## 6.共同研究機関等の連携状況

本プロジェクトの目的である「世界トップレベルの研究拠点」を構築するために、国外の研究機関との連携を行っている。英国オックスフォード大学との流通消費財に関するビッグデータ解析研究、独国プフォルツハイム大学とのサステイナブル/マネジメント研究、米国 NYU とのアカウンティングモデリング研究などと、国際ワークショップの開催【別紙資料 P50～51】を通じて共同研究を推進している。さらに共同研究だけではなく、データアーカイブの共同開発を含めた総合的な連携を、米国メリーランド大学、ヒューストン大学、イエール大学、コロンビア大学、ベルギーの KU ルーベン等と行っており、欧米を中心に研究機関・研究者と連携することにより、世界トップレベルの研究活動を行っている。

## (3)研究施設・設備等

### 1.研究施設の面積

本研究プロジェクトの母体である RISS の建物に、以下の研究スペースが確保されている。なお、当建物はセキュリティカードの利用により 24 時間 365 日の利用が可能な研究環境を整備している（表 1）。また、表 2 に示すように研究スペースは DS ラボの母体である RISS と共用で利用している。

### 2.主な研究装置、設備の名称及びその利用時間数

多次元・時系列データサイエンスクラウドシステム（情報処理関係設備）  
37,392 時間（平成 26 年 12 月 20 日設置～平成 31 年 3 月 31 日まで常時稼働。設置日及び法定停電日計 5 日間を除く）研究者の自由なデータベースの利用を図るため、24 時間の常時稼働を行っている。

表 1：研究環境

DS ラボセンター長室	39.60m <sup>2</sup>	DS ラボ研究室 1～2	各 19.80m <sup>2</sup>
DS ラボ共同研究室 1～2	各 39.60m <sup>2</sup>	DS ラボ実験室	39.60m <sup>2</sup>
DS ラボサーバ管理室	19.80m <sup>2</sup>	(合計 217.80m <sup>2</sup> )	

表 2：RISS との共同利用スペース

マルチメディア・ラボ	120.00m <sup>2</sup>	多次元・時系列データサイエンスクラウドシステム・サーバ・ネットワーク機器を設置 (合計 139.80m <sup>2</sup> )
サーバ室	19.80 m <sup>2</sup>	



法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び\*を付すこと。

＜現在までの進捗状況及び達成度＞

本プロジェクトの進捗状況は、研究領域によって当初の予定の変更が生じたが、全体的に順調に推移している。以下では各年度の研究内容にそって、進捗状況及び達成度を説明する。

1年目

初年度は本プロジェクトで実施されるデータ管理・解析環境の整備、ならびに各専門領域での理論検討に取り組み、申請時の計画内容をすべて実施することができた。

**1)データサイエンスクラウドシステムの構築**：構造の異なる大規模データを蓄積・管理し、データサイエンス分野の技術を多様なビジネス分野へ応用するために、我々が開発した **MUSASHI-ASP** を導入し、データ構造の設計、システム構築を行い、運用を開始した。各応用領域のデータを格納し、各研究員のニーズに応えることができる解析支援システムが運用されている。

**2)応用領域における理論、枠組みの検討**：研究会などを実施して各応用領域での共同研究の可能性について検討した。流通・経営分野では、これまでに取り組んできた顧客動線分析に加えて、**アイトラッキングデータを用いた消費者行動モデルの構築**などの先端手法を用いた研究に取り組み、データサイエンスを軸とした研究の応用例となることを目指すこととした。また、ラグジュアリー市場や自動車需要などの消費財流通について世界各国の年報からデータベースを構築し、経済モデルの開発にも取り組むこととした。サステナブル/マネジメント分野（以下、環境分野と記す）では、生産現場における作業時の環境や作業者による調整などから、生産過程で生じる**資材の無駄（マテリアルロス）の削減**のための知見を得ることを目指すこととした。アカウンティング/ファイナンス分野（以下、会計分野と記す）では、データマイニング技法を用いて**財務諸表データを分析**することで、企業収益予測の精度を高めることを目指すこととした。

**3)先端手法主導型の研究推進**：平成 27 年 2 月にアイトラッキングを用いた店舗実験のテストを実施した。収集したデータよりデータ構造や基本的な傾向を確認し、アイトラッキング技術を用いた研究の実現可能性を検討するための環境を構築した。

**4)本研究事業のキックオフミーティング**：平成 27 年 3 月に関西大学東京センター、および千里山キャンパスにて国際ワークショップ【別紙資料 P25】を開催した。国内研究者、各応用領域の著名な研究者が参加し、データサイエンス技術の応用可能性について議論した。

2年目

初年度の検討に基づいて、2 年目は各領域において産学連携をしながら企業データの収集、実験環境の整備に取り組んだ。応用領域によって進捗は異なるが、プロトタイプとなるモデルの開発など、共同研究を全体として順調に進めることができた。

**1)消費者行動モデル用データベースの構築**：初年度に実施したアイトラッキングを用いた初期店舗実験の結果に基づき、分析用データベースを構築した。また、初年度の計画通り、自動車保有台数の経済モデルを構築するために、世界各国の自動車保有台数について 1950 年代から現在までの年報を収集してデータベースを構築した。

アイトラッキングに関しては、平成 27 年 6 月 30 日、および 7 月 4 日に当研究プロジェクトが主催する国際ワークショップ【別紙資料 P26】へ当該分野のトップクラスの研究者を招へいして、仮説検証に基づく店舗実験とモデル構築の可能性について議論した。平成 28 年 3 月には、約 30 人の被験者を対象としてアイトラッキングを用いた店舗実験を実施した。初年度に収集したデータを処理した際、アイトラッキングデータを使用可能な状態に加工するために多大な時間を要することが明らかになった。したがって、店舗実験を実施して早期にデータ収集することで、3 年目に先端手法主導型の研究を実施するための準備を開始した。

**2)サステナブル/マネジメント用データベースの構築とモデル開発**：当初の計画では 2 年目に分析用データベースの構築を予定していた。しかしながら、より有意義な分析結果を導くために、分析

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

の対象とする企業の調査・選定やデータ提供の交渉に、計画より多くの期間を割いた。

**3)会計・金融情報用データベースの構築**：平成 26 年から過去 10 数年の財務諸表より企業収益予測モデルを構築するための変数を抽出して分析用データベースを構築した。スパースモデリングなどの近年注目を集めている手法を用いた変数選択およびモデル比較を行い、平成 28 年 3 月に開催した主催国際ワークショップ【別紙資料 P27】にてその結果について発表し、招へいした会計分野の研究者およびデータサイエンス分野の研究者と今後の展開について議論した。

**4)研究成果の発信**：消費者行動モデルに関する成果発表を中心にアメリカ、シンガポールなどで開催された ICDM、KES などの著名な国際会議において併設ワークショップや特別セッションを主催し成果発表を行い[\*20、23、24、25、58、550]、本研究プロジェクトの情報発信を行った【別紙資料 P50～51】。

### 3年目

流通・経営分野と会計分野における研究成果により計 10 本以上の論文を発表することができた。また、当該分野の研究論文を集め、国際学術雑誌で特集号を出版することで情報発信を行った【別紙資料 P21】。アイトラッキングなどの先端技術を用いた研究についても成果発表に向けた準備を進めており、概ね順調にプロジェクトを進めることができた。

**1)各応用領域における研究成果のとりまとめ**：流通・経営分野では、消費者行動モデルに関する成果発表[\*14、16、17、18、21、78、127]に加えて、自動車保有台数に関する経済モデル[\*19]など異なる分野に対する基礎技術の適用可能性を示すことができた。会計分野では、企業収益予測モデルの構築における変数選択の応用について成果発表した[\*15]。環境分野では、データベースを構築し、プロトタイプとなるモデルの開発まで進めている。

**2)先端手法主導型の研究実施**：2 年目の店舗実験で収集したアイトラッキングデータから消費者行動モデルの構築について検討し、平成 28 年 10 月に主催国際ワークショップ【別紙資料 P28】にて各分野への応用について国内外の研究者と議論した。

**3)研究成果の中間とりまとめ**：主催国際ワークショップ【別紙資料 P28～29】において国内外の研究者へ本プロジェクトの紹介と進捗状況の報告を行い、各応用領域における共同研究の可能性について議論した。また、3 年目に予定されていた英文研究叢書出版のかわりに国際学術雑誌で特集号を組むことができた【別紙資料 P21】。4 年目にも特集号【別紙資料 P22～23】を出版する準備を整えることができた。

### 4年目

各応用領域における共同研究について基礎研究を進めながら、産学連携や本研究センター主催の国際ワークショップを通して成果を発信し、技術の応用可能性について検討した。また、会計分野におけるアイトラッキング技術を用いた先駆的研究として、100 名を超える被験者の企業業績評価におけるアイトラッキングデータを収集し、その分析のためのデータベースを構築した。

**1)クラウドをベースにした ASP システムの構築**：我々が開発した MUSASHI-CLOUD[\*5]を導入し、各領域の産学連携の共同研究で利用できる低コストで大規模データの分散処理が可能な ASP システムを構築した。

**2)産学連携の推進**：本研究プロジェクトで開発したモデルを実装した ASP システムの企業利用を各領域において推進した。例えば、流通・経営分野では株式会社阪急オアシスへ MUSASHI-CLOUD を導入し、本研究プロジェクトで開発した消費者行動モデルを利用できるシステムを実装することで研究成果を還元した。

**3)研究成果の情報発信**：主催国際ワークショップ【別紙資料 P30】において国内外の研究者や企業へ本研究プロジェクトの成果報告を行い、情報基盤技術の応用など新たな研究領域における共同研究の可能性について議論した。また、アメリカ、カナダなどで開催された ICDM、SMC などの著名な国際会議において併設ワークショップや特別セッションを主催し各領域の共同研究の成果発表[\*5、7、11、12、13、146、149、226]を行った。国内では、流通・経営分野で RFID やアイトラッキ

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

ングなどのセンサーデバイスを用いた研究に関する特集号【別紙資料 P24】を出版し、国内でも先端手法主導型の研究を推進するための情報発信を行った。

## 5年目

本研究プロジェクトの成果の体系化として、流通分野との共同研究を取りまとめた研究書[\*507]を出版した。また、国際学術雑誌において、これまでに本研究プロジェクトが主催した国際会議の特別セッションや併設ワークショップで集めた先端手法主導型の研究に関する特集号を出版予定である。産学連携による共同研究では、さらなる発展を目的とした実験などを通じて、共同研究のための組織体制の構築を促進した。本研究プロジェクトの成果発信の場として国際会議を開催し、データサイエンスの研究拠点として本事業のプレゼンスを示した。

**1)研究成果の体系化：**メンバーを中心とする小規模な国際ワークショップを開催し、多様な研究の体系化を行った。例えば、流通チームでは、アリババや野村総合研究所の実務家を招へいし、本研究プロジェクトの成果について議論した。そして、本研究プロジェクトでは、国際会議の特別セッションや併設ワークショップを主催して多数の研究発表者を集めることができた。よって、5年目に予定していた英文研究叢書のかわりに、国際学術雑誌でこれまでの主催セッションなどへ参加した研究者を中心とする本研究プロジェクトに関する特集を組むこととした。特集号の出版は研究期間終了後に行われる予定である。このようにして、本研究事業の研究成果をまとめるとともに、海外へ示すことができた。

**2)産学連携による共同研究の発展：**継続的な産学連携による共同研究を推進できるように、各領域における産学連携の枠組み、組織体制の構築を促進した。例えば、コープさっぽろとの共同研究として宅配サービスにおけるカタログ注文を対象としたアイトラッキング調査を実施した。また、小売業界だけでなく、医療施設への配食など多様な分野でコープさっぽろとの共同研究を実施する体制を構築した。阪急オアシスとの共同研究では、約90名のアイトラッキングと動線データを収集することができた。調査結果より、フロアレイアウトや売場を改善するための知見を得ることができた。このようにして、本研究プロジェクトは多様な業界を含む研究領域をデータサイエンスという軸でまとめ、領域間の相乗効果を狙うものであり、そのための組織作りを積極的に行っている。

**3)データサイエンスの研究拠点形成：**本研究プロジェクトの研究成果を発信する最終的な場として国際会議を開催した【別紙資料 P31】。データサイエンスに関連する国内外の研究者を招へいし、当該領域における本事業のプレゼンスを示した。ICDM、SMCなどの著名な国際会議における特別セッションや併設ワークショップを主催し、国内外の研究者に向けた成果発表、および議論も行った[\*2、3、4、108、217、218、219]。また、本研究プロジェクトの研究成果を基礎に新しい教育プログラムの構築に取り組んでおり、これを開設して若手研究者の育成を積極的に行う予定である。

## 年度別の研究内容と達成状況のまとめ

### 平成 26 年度(1 年目)

研究内容	達成状況
データサイエンスクラウドシステムの構築	計画どおり達成した
応用領域における理論、枠組みの検討	計画どおり達成した
先端手法主導型の研究推進	計画どおり達成した
本研究事業のキックオフミーティング	計画どおり達成した

1年目の研究内容は計画どおり達成した。3つの応用領域における理論、枠組みについて検討し、MUSASHI-ASPを導入して、各応用領域のデータを格納し、各研究員のニーズに応えることができる解析支援システムの運用を開始した。このシステムへ、アイトラッキングを用いた初期店舗実験で収集したデータを格納し、アイトラッキング技術を用いた研究の実現可能性の検討も開始した。キックオフミーティング【別紙資料 P25】では検討した各応用領域における理論、枠組みや先端手法主導型の研究について発表し、以降の研究方向について議論した。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

## 平成 27 年度(2 年目)

研究内容	達成状況
消費者行動モデル用データベースの構築	計画どおり達成した
サステイナブル/マネジメント用データベースの構築とモデル開発	3年目に達成した
会計・金融情報用データベースの構築	計画どおり達成した
研究成果の発信	計画どおり達成した

2年目の研究内容は、環境分野の分析用データベース構築を除いて、計画どおり達成した。流通・経営分野と会計分野の分析用データベースの構築を順調に進めることができ、主催国際ワークショップ【別紙資料 P26～27】にてモデルのプロトタイプを発表し、招へいたした研究者と今後の展開について議論した。環境分野のデータベースの構築に関しては、分析の対象とする企業の調査・選定やデータ提供の交渉に多くの時間を割いたため、その構築は3年目に行われることとなった。研究成果の発信は ICDM、KES などの著名な国際会議の併設ワークショップや特別セッションを開催し、消費者行動モデルに関する成果発表を中心に本研究プロジェクトの情報発信を行った。特に、顧客動線分析に関する研究については、国際会議のベストペーパー賞【別紙資料 P34】を受賞するなど非常に高い評価を得た。

## 平成 28 年度(3 年目)

研究内容	達成状況
各応用領域における研究成果のとりまとめ	概ね計画どおり達成した
先端手法主導型の研究実施	計画どおり達成した
研究成果の中間とりまとめ	計画どおり達成した

3年目の研究内容は概ね計画どおり達成した。流通・経営分野と会計分野における共同研究を順調に進めており、3年目の時点で計10本以上の論文を発表することができた。特に、小売業分野における消費者行動モデルについて国際会議のベストペーパー賞【別紙資料 P35】を受賞するなど非常に高い評価を得た。先端手法主導型の研究として、アイトラッキングデータから消費者行動モデルの構築や他の領域への応用について検討し、主催国際ワークショップ【別紙資料 P28～29】にて国内外の研究者と議論した。上述のように共同研究の進捗が順調であることから、研究成果の中間とりまとめとして当初予定していた英文叢書の発刊を行わず、代わりに国際学術雑誌で特集号【別紙資料 P21～23】を組むことで本研究プロジェクトの情報発信を行った。

## 平成 29 年度(4 年目)

研究内容	達成状況
クラウドをベースにした ASP システムの構築	計画どおり達成した
産学連携の推進	計画どおり達成した
研究成果の情報発信	計画どおり達成した

4年目の研究内容は計画どおり達成した。MUSASHI-CLOUD を導入し、クラウドをベースに本研究プロジェクトで開発したモデルを解析に利用できる ASP システムを構築した。このシステムは応用領域や企業のセキュリティ、ニーズに応じた実装を行えるものであり、株式会社オアシスなどの企業で採用し、運用を開始している。環境分野の共同研究では、生産現場におけるマテリアルロスの削減に対する先端手法主導型の研究の有用性を明らかにし、企業との共同研究の成果発表について議論した。流通・経営分野と会計分野の研究成果は、主催国際ワークショップ【別紙資料 P30】や国際会議にて発表が行われた。さらに、国内でセンサーデバイスを用いた先端手法主導型の研究の特集号を組む【別紙資料 P24】など、データサイエンスの研究拠点として積極的に情報発信した。4年目に予定していた店舗実験は、データ収集の困難さ、および研究領域に与えるインパクトを考慮して、会計分野に関するアイトラッキングを用いた調査実験に変更した。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

## 平成 30 年度(5 年目)

研究内容	達成状況
研究成果の体系化	概ね計画どおり達成した
産学連携による共同研究の発展	計画どおり達成した
データサイエンスの研究拠点形成	計画どおり達成した

5年目の研究内容は概ね計画どおり達成した。5年間全体としてのプロジェクトの研究内容も同時に計画どおり達成した。流通分野の共同研究については、既に MacMillan 社から”Global Luxury”として研究書[\*507]を出版し、体系化を達成している。また環境分野の産学連携の共同研究の成果発表に向けて論文執筆に着手している。各研究領域における先端手法主導型の研究成果や本研究プロジェクトが主催した国際会議の特別セッションや併設ワークショップで行われた研究発表については、国際学術雑誌における特集を組むことで体系化を達成する。すでに、特集号を出版するための準備は整っており、研究期間終了後に発刊される予定である。会計分野のアイトラッキングを用いた研究は、ビジュアルマーケティングや会計分野の著名な研究者との共同研究として、国際雑誌論文へ投稿する準備を進めている。流通・経営分野や環境分野において本研究プロジェクトで構築した産学連携の共同研究体制は、プロジェクト終了後も継続して実施できるよう組織作りを行っており、今後も新たな研究領域における成果を生み出すことが期待される。特に、阪急オアシスとの共同研究における実験では、アイトラッキングと顧客動線データを同時に収集することができた。これらのデータを融合した分析は、実店舗における顧客の購買行為を従来よりも明確にし、モデルの精度を高めるために有効と考えられる。このような研究は国内外でも取り組まれていないものであり、当該領域のフロンティア研究として大きな発展が期待されるものである。本プロジェクトの研究成果の総まとめと今後の研究方針について国際会議 IABD2018【別紙資料 P31】を開催して議論した。この会議でデータサイエンスに関連する国内外の研究者を招へいし、データサイエンスの研究拠点として本事業のプレゼンスを示した。

## ＜優れた成果が上がった点＞

学術的貢献、産学連携、研究拠点形成という観点から、本プロジェクトの特に優れた研究成果として、1)データサイエンスを実践するための基盤技術の開発、2)先端手法主導型の研究実施、3)産学連携と研究成果の社会還元、4)データサイエンスの研究拠点形成の4つの成果を紹介する。

**1)データサイエンスを実践するための基盤技術の開発：**最新のセンサーデバイスで収集したデータや実際のビジネスで扱われる多次元時系列データを用いたモデル開発技術は、さらなる開拓が求められる領域である。本研究プロジェクトでは、スパースモデリングなどの近年注目を集めている手法の応用や新たな指標の開発に取り組み、多様な応用領域におけるデータサイエンスの実現可能性を示した。特に、PDの金子の研究[\*21、547]は事象の複雑さを表す指標であるフラクタル理論を顧客動線の評価に適用し、従来用いられてきた滞在時間や移動距離などのデバイスの精度が安定しないため実用できるレベルになかった指標と比較して、フラクタル次元が店内購入行動を理解する重要な指標であることを明らかにした。当該論文[\*547]は、国際会議 APWC on CSE2015 にてベストペーパー賞【別紙資料 P34】を授与され、学術的に高い評価を得た。

**2)先端手法主導型の研究実施：**上述のセンサーデータや多次元時系列データに関する基盤技術を用いてデータから因果関係を推論していく先端手法主導型の研究を多様な応用領域において取り組み、その有効性を明らかにするとともに、これらの技術における同じ枠組みを様々な研究領域に応用できることを示した。本プロジェクトでは、流通/経営分野におけるアイトラッキングデータを用いた消費者行動モデルの開発[\*1、209、223]の枠組みを、会計分野における投資家の意思決定へ財務諸表の見方が与える効果を説明するモデルの構築に応用した。また、多次元時系列データを用いた予測モデルの枠組みを売上や経済の推移[\*19、58、146、507]、企業収益[\*13、15]、マテリアルロスの発生量など様々な問題へ適用し、先端手法主導型の研究の有効性を示した。特に、李の研究[\*17]

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

はスーパーマーケットで販売されているプライベートブランド商品（小売企業独自で開発したブランド商品）がナショナルブランド商品（メーカーが開発したブランド商品）に与える効果を説明する消費者行動モデルを開発し、POS データを用いて定量的にその効果を明らかにした。当該論文[\*17]は、国際会議 ICAMA2016 にてベストペーパー賞【別紙資料 P35】を授与され、学術的に高い評価を得た。

**3)産学連携と研究成果の社会還元：**本研究プロジェクトで開発した先端手法主導型の研究によるモデル構築技術を応用し、産学連携の共同研究で実際のビジネスにおけるデータサイエンスを実現した。さらに、データサイエンスを実践するためのクラウドをベースにした ASP システムである MUSASHI-CLOUD を構築し株式会社オアシスなどの協力企業へのシステムの実装を行った。生産現場におけるマテリアルロスの削減についてもまた、協力企業へ先端手法主導型の研究を実践するための指針を示し、研究成果を還元することができた。本研究プロジェクトで構築した産学連携による共同研究の枠組み、組織体制は、多様な業界を含む研究領域をデータサイエンスという軸でまとめ、今後も継続的に領域間の相乗効果を生み出すことが期待される。

**4)データサイエンスの研究拠点形成：**本研究プロジェクトは、ビジネス分野の多様な応用領域におけるデータサイエンスの研究成果について各研究領域における国内外の著名な研究者と議論することで、新たな研究領域の開拓、さらなる研究の発展を実現することができた。例えば、アイトラッキングを用いた消費者行動モデルの分野で著名な研究者であるメリーランド大学の Wedel 教授を招聘した国際ワークショップ、および共同研究は、会計分野におけるアイトラッキングを用いた先駆的研究に着手するきっかけとなった。また、本研究プロジェクトのメンバーが中心となって編集したセンサーデバイス・マーケティングの特集【別紙資料 P24】は、国内で十分に進んでいるとは言い難い先端技術を用いたモデル開発の先駆的研究として当該研究領域の発展に大きく貢献した。組織的な連携としても、英国オックスフォードや米国 NYU に加え、ベルギー KU ルーベン、米国のコロンビア大学、イエール大学、メリーランド大学、ヒューストン大学などと新たに連携し、センサーデータに関連した共同データアーカイブの設計を行うに至った。このようにして、本研究プロジェクトは世界トップレベルのデータサイエンスの研究拠点として国内外の研究者に多大な影響を与え、当該研究領域の発展に寄与した。

### ＜課題となった点＞

本プロジェクトを遂行する上で課題となった点は、1)新たな応用領域における産学連携の研究実施、2)アイトラッキング調査実験におけるデータ収集の困難さの2点である。

**1)新たな応用領域における産学連携の研究実施：**環境分野における共同研究では、企業選定やデータベースの構築に多大な時間を費やしたため、研究成果の発表が計画より遅れることとなった。これは、新たな領域のデータを取り扱う際、提供されたデータの基礎分析や分析に用いる項目の検討が必要となるからである。本研究プロジェクトでは、先端手法主導型アプローチの有用性を適宜示しながら企業との議論を重ねることで、分析に有用な項目を明らかにすることができた。今後は、この共同研究で得たノウハウに基づき、新たな領域における産学連携の共同研究を迅速に進めることができる研究計画を立案することで対処する。

**2)アイトラッキング調査実験におけるデータ収集の困難さ：**平成 28 年 3 月に実施した店舗実験より、分析に適したデータを収集するための被験者の募集が非常に困難であることがわかった。実際、派遣会社を通じた被験者の募集は、派遣会社の登録者と店舗を利用する顧客が大きく異なるため、適切な被験者を集めることが困難であった。また、店頭や知人に対して調査を依頼するには多大な時間と労力が必要であり、調査期間の長期化による実施店舗への負担も生じることから、分析に十分な数のデータを集めることは難しい。したがって、マーケティング分野におけるアイトラッキングを用いた多数の研究と同じように実験室実験による調査や、すでに収集したデータを用いて消費者行動モデルの構築に取り組み、平成 29 年度に予定していた店舗実験を変更して会計分野に関するアイトラッキングを用いた調査実験を行った。店舗実験の実施については、調査実験のモニター協力

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

を顧客に依頼できる体制を持つ企業との共同研究を進めており、この産学連携の研究体制を構築することで、データ収集の困難さを解決した。

#### <自己評価の実施結果と対応状況>

本プロジェクトの属する組織 (RISS) 内にセンターの推進委員会を設置し、予算配分、研究方針、人事関連の決定を合議の上で行っている。本プロジェクトの研究員は本学のみならず他大学にも多く所属しているため、全体で会合を持つことは難しかったが、平成 29 年 11 月に東京大学医科学研究所で開催した国際ワークショップなどの場において、他大学に所属する研究員も含めて、本プロジェクトの研究計画が順調に推移していることを確認し、注意すべき課題などは挙げられなかった。

さらに、副学長が部会長を務める本学研究推進委員会「外部資金審査・評価部会」による事業 2 年目の研究進捗状況チェックにおいて、本プロジェクトの研究活動は着実に進捗しており、情報チームと各応用領域の 3 チームの計 4 チームでの共同研究が順調に進んでいると評価された。また、本プロジェクト 5 年目の最終評価において、同部会より最上位の評価点 4 を得た。同評価において意見のあった、アイトラッキングを用いた調査実験等の個人データについては、本学の研究倫理規程に基づき適切に取り扱っている【別紙資料 P7】。

#### <外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

客観性を担保するために、センターの推進委員会において承認された学識経験者と企業実務家の計 3 名の外部評価委員から、平成 28 年度と平成 30 年度の 2 度評価を受けた。平成 28 年度は、3 つの応用領域における共同研究等プロジェクトの達成度と成果について高い評価を受けた【別紙資料 P9～14】。平成 30 年度は、国際連携、研究成果の発信、産学連携を通じた研究の推進について高い評価を受けた【別紙資料 P15～20】。いずれの評価においても研究計画が順調に推移していることが確認され、克服すべき課題などの指摘はなかった。

#### <研究期間終了後の展望>

本研究プロジェクト終了後は、小売業分野の消費者行動モデルの開発に焦点を当て、ビッグデータを用いたイノベーションプロセスを理解し、効果的な実装技術の開発戦略を提案する新規の研究プロジェクトに挑戦する。この新規プロジェクトでは、本研究プロジェクトの施設・設備・計算資源・人的資源をもとに、イノベーションを実現するための情報基盤技術の開発、およびその応用に取り組む。また、会計や環境分野において開拓した新たな研究領域について、本研究プロジェクトで構築した共同研究の体制を継続し、さらなる発展を目指す。さらに、本研究プロジェクトで構築した産学連携の共同研究の体制をもとに、産学連携によるプロジェクト型学習 (PBL) やインターンシップを軸とした新たなデータサイエンティスト育成プログラムの開設に挑戦する。このようにして、多様な研究領域におけるデータサイエンスの研究拠点である本研究プロジェクトの強みを活かしたプロジェクトの推進を計画している。

#### <研究成果の副次的効果>

本研究プロジェクトの活動と成果はメディア【別紙資料 P36～42】を通じて多くの企業に周知されており、開発したモデルを実装したシステムの企業利用について国際ワークショップなど【別紙資料 P25～31】を開催して情報発信している。また、それらの研究枠組み、それぞれのモデルは他分野にも注目を集めており、例えば、医療関係でもその応用が検討されている【\*237】。また、本研究プロジェクトで蓄積された研究方法や研究データはデータサイエンティストの育成に大きな貢献をもたらしており、関西大学商学研究科に開設されたデータサイエンティスト育成プログラムがより高度な教育システムへと生まれ変わる予定である。具体的には、深層学習を含めたより高度なカリキュラムの拡充、トップスクールからの招へい教授の授業を含めた教育のグローバル化への対応を実現し、新しい商学研究科のコースを設置する予定である。これによって、他大学にはないビジネススクールを中心としたデータサイエンティスト育成プログラムの教育基盤に貢献できるものと期待される。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

(1) データサイエンス (2) ビジネス応用 (3) 産学連携

(4) ビッグデータ (5) 消費者行動モデル (6) サステナブル/マネジメント

(7) アカウンティング/ファイナンス (8) 文理融合

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付すこと。

### 1. 研究員の研究発表状況

#### <雑誌論文>

矢田 勝俊

	著者名	論文表題	雑誌名(巻)	ページ	発行年	査読
* 1	金子雄太, 石橋健, 矢田勝俊	<u>視線追跡データ取得の ための店舗実験と消費 者行動の分析—消費者 の注視情報から購買傾 向を探る—</u>	公益社団法人 日本経営工学会 「経営システム」 (第28巻第2 号)	103-108	平成31年	無
* 2	Xi Zhong, Ken Ishibashi, Katsutoshi Yada	<u>An Empirical Study of the Relationship Among Self-Control, Price Promotions and Consumer Purchase Behavior</u>	Proceedings of 2018 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC)	1863-1868	平成30年	有
* 3	Yi Zuo, Katsutoshi Yada, Tieshan Li, Phillip Chen	<u>Application of Network Analysis Techniques for Customer In-store Behavior in Supermarket</u>	Proceedings of 2018 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC)	1857-1862	平成30年	有
* 4	Katsutoshi Yada, Yi Sun, Bo Wu	<u>The Short-Term Impact of an Item-Based Loyalty Program</u>	Proceedings of 2018 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC)	1842-1847	平成30年	有



法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
* 5	<u>Katsutoshi Yada</u> , <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u> , <u>Kohei Ichikawa</u>	<u>A framework of ASP for shopping path analysis</u>	Proceedings of IEEE Asia- Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (IEEE APWC on CSE 2017)	49-54	平成 30 年	有
6	金子雄太, 石橋健, <u>矢田勝俊</u>	視線追跡データを用いた消費者の店舗内購買行動の分析	経営情報学会 PACIS2018 全国研究発表大会要旨集	103-106	平成 30 年	有
* 7	Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi Yada</u>	<u>Do Sales Promotions Affect Dynamic Changes in Sales Outcomes: Estimation of Dynamic State of Product Sales</u>	In Proceedings of the 4th Asia Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2017	1-8	平成 29 年	有
8	石橋健, <u>宮崎慧</u> , <u>矢田勝俊</u>	店舗内の時系列な行動が購買行動に与える効果に関する研究	オペレーションズ・リサーチ (経営の科学) vol.62, no.12	789-794	平成 29 年	無
9	<u>左毅</u> , <u>矢田勝俊</u>	ベイジアンネットワークを用いた消費者行動モデルの構築実験	オペレーションズ・リサーチ (経営の科学) vol.62, no.12	795-800	平成 29 年	有
10	Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi Yada</u>	スケールの階層性から探るスーパーマーケットの消費者行動	オペレーションズ・リサーチ (経営の科学) vol.62, no.12	807-814	平成 29 年	無
* 11	Wai Tik So, <u>Katsutoshi Yada</u>	<u>A Framework of Recommendation System Based on In-store Behavior</u>	Proceedings of the 4th Multidisciplinary International Social Networks Conference,	1-4	平成 29 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
* 12	Yuta Kaneko, Shinya Miyazaki, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	<u>The Influence of</u> <u>Customer Movement</u> <u>between Sales Areas on</u> <u>Sales Amount: A</u> <u>Dynamic Bayesian</u> <u>Model of the In-store</u> <u>Customer Movement and</u> <u>Sales Relationship</u>	Procedia Computer Science, vol.112	1845-1854	平成 29 年	有
* 13	Ken Ishibashi, <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> <u>Shota</u> <u>Otomasa</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	<u>Model selection for</u> <u>financial statement</u> <u>analysis: Comparison of</u> <u>models developed by</u> <u>using data mining</u> <u>technique</u>	Proceedings of IEEE International Conference on System, Man, and Cybernetics	81-86	平成 29 年	有
* 14	<u>Natsuki Sano</u> , Reo Tsutsui, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , Tomomichi Suzuki	<u>Clustering of Customer</u> <u>Shopping Paths in</u> <u>Japanese Grocery Stores</u>	Procedia Computer Science, 2016, Vol. 96	1314-1332	平成 28 年	有
* 15	Ken Ishibashi, <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> <u>Shota</u> <u>Otomasa</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	<u>Model selection for</u> <u>financial statement</u> <u>analysis: Variable</u> <u>selection with data</u> <u>mining technique</u>	Procedia Computer Science, 2016, Vol. 96	1681-1690	平成 28 年	有
* 16	<u>Zhen Li</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	<u>Complementary</u> <u>Relationship between</u> <u>Private Brands and</u> <u>National Brands:</u> <u>Empirical Evidence</u> <u>Based on POS Data</u>	Proc. of 2016, 38th ISMS Marketing Science Conference	31-47	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
* 17	<u>Zhen Li</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	<u>Does the Existence of Private-Label Brands Really Impede National Brands Sales? Empirical Evidence Based on POS Data</u>	Proc. Of 2016, 3rd International Conference of Asian Marketing Associations	1-17	平成 28 年	有
* 18	Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	<u>A Deep Learning Approach for the Prediction of Retail Store Sales</u>	Proc. of the 2016 IEEE 16th International Conference on Data Mining Workshops	531-537	平成 28 年	有
* 19	<u>Zhen Li</u> , Ken Ishibashi, Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Hiromi Shioji</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	<u>Vehicle Ownership and Economic Development</u>	Proc. of 3rd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering	171-180	平成 28 年	有
* 20	<u>Zhen Li</u> , Ken Ishibashi, <u>Keiji Takai</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	<u>Shop area visit ratio, stay time and sales outcomes in depth analysis based on RFID data</u>	Proceedings of 2015 2nd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (APWC on CSE 2015),	1-7	平成 28 年	有
* 21	Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	<u>Fractal Dimension of Shopping Path: Influence on Purchase Behavior in a Supermarket</u>	Procedia Computer Science, 2016, vol.96	1764-1771	平成 28 年	有
22	<u>Yi Zuo</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Using Statistical Learning Theory for Purchase Behavior Prediction via Direct Observation of In-store Behavior	2015 2nd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (APWC on CSE 2015)	1-6	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
* 23	Ken Ishibashi, Kei Miyazaki, Katsutoshi Yada	<u>Verification of effect on next purchase when many vice category products are brought</u>	Procedia Computer Science	1780-1787	平成 27 年	有
* 24	Yuta Kaneko, Katsutoshi Yada	<u>Visualization System for Shopping Path</u>	Proc. of the 19th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	1772-1779	平成 27 年	有
* 25	Natsuki Sano, Natsumi Machino, Katsutoshi Yada, Tomomichi Suzuki	<u>Recommendation system for grocery store considering data sparsity</u>	Proc. of the 19th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	1406-1413	平成 27 年	有
26	Natsuki Sano, Katsutoshi Yada	The Influence of Sales Areas and Bargain Sales on Customer Behavior in a Grocery Store	Neural Computing and Applications Vol. 26 (2)	355-361	平成 27 年	有
27	Natsuki Sano, Katsutoshi Yada, Tomomichi Suzuki	Category Evaluation Method for Business Intelligence Using a Hierarchical Bayes Model	Proc. of 13th IEEE International Conference on Cognitive Informatics & Cognitive Computing	400-407	平成 26 年	有
28	Natsuki Sano, Syusuke Tamura, Katsutoshi Yada, Tomomichi Suzuki	Evaluation of Price Elasticity and Brand Loyalty in Milk Products	Proc. of 18th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	1482-1487	平成 26 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
29	Yi Zuo, A.B.M. Shawkat Ali, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Consumer Purchasing Behavior Extraction Using Statistical Learning Theory	Procedia Computer Science	1464-1473	平成 26 年	有

乙政 正太

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
30	<u>乙政正太</u>	大規模データとしての 会計情報と経営者報酬 研究	会計 第 193 巻第 1 号	38-51	平成 30 年	無
31	Ken Ishibashi, <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> <u>Shota</u> <u>Otomasa</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Comparison of models developed by using data mining technique	Proceedings of IEEE International Conference on System, Man, and Cybernetics	81-86	平成 29 年	有
32	<u>乙政正太</u>	最近の不正会計事件か ら学ぶべきこと - 指 名委員会等設置会社の コーポレート・ガバナ ンスー	会計, 第 189 巻第 5 号	28-40	平成 28 年	無
33	<u>乙政正太</u>	経営者報酬とコーポレ ート・ガバナンスの関 係 - 機関設計の選択 の相違から見た場合 -	会計, 第 190 巻第 6 号	30-42	平成 28 年	無
34	Ken Ishibashi, <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> <u>Shota</u> <u>Otomasa</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Variable selection with data mining technique	Procedia Computer Science, Vol. 96	1681-1690	平成 28 年	有
35	<u>乙政正太</u>	役員報酬システム改革 と実証会計研究につい て	会計, 第 188 巻第 6 号 (12 月)	44-56	平成 27 年	無

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
36	<u>Takuya Iwasaki</u> <u>Shota Otomasa</u> <u>Atsushi Shiiba</u> <u>Akinobu Shuto</u>	The Role of Accounting Conservatism in Executive Compensation Contracts	Social Science Research Network	1-53	平成 27 年	有
37	<u>Shota Otomasa</u> <u>Atsushi Shiiba</u> <u>Akinobu Shuto</u>	Management Earnings Forecasts as a Performance Target in Executive Compensation Contracts	Social Science Research Network	1-69	平成 27 年	有
38	<u>乙政正太</u>	経済ニュースを読み解く会計：適時開示情報と株式市場の反応	会計人コース Vol. 51 (2)	61-63	平成 27 年	無
39	<u>乙政正太</u>	経済ニュースを読み解く会計：実質無借金企業と財務戦略	会計人コース Vol. 50 (1)	120-122	平成 27 年	無
40	<u>乙政正太</u> <u>首藤昭信</u> <u>椎葉淳</u> <u>岩崎拓也</u>	経営者報酬と利益ベンチマークの未達の関係	国民経済雑誌 第 209 巻第 4 号	61-74	平成 26 年	有

藤岡 里圭

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
41	<u>Donzé Pierre-Yves</u> <u>Fujioka Rika</u>	Luxury Business	Oxford Research Encyclopedias Business and Management,	1-24	平成 29 年	有
42	<u>藤岡里圭</u>	The Development of Department Stores in Japan: 1900s-1930s	Japanese Research in Business History, Vol. 31	11-27	平成 26 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

中畷 道靖

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
43	中畷道靖, 飛田甲次郎	マテリアルフローコスト会計 (MFCA) およびスループット会計 (TA) による新たな管理会計の再構築に向けて: 機会原価概念の新たな展開	関西大学商学論集 第 63 巻第 1 号	1-12	平成 30 年	無
44	<u>Asako Kimura,</u> Hiroyuki Suzuki, <u>Michiyasu Nakajima</u>	The Role and Development of Sustainability Management Control Systems in the Context of New Product Development	Proceedings at 2018 CSEAR North America Conference	—	平成 30 年	有
45	<u>Asako Kimura,</u> Hiroyuki Suzuki, <u>Michiyasu Nakajima</u>	Sustainability Management Control Systems in the Context of New Product Development: A Case Study of a Japanese Electronics Company	Proceedings of Melco Management Accounting Seminar	1-21	平成 29 年	無
46	岡照二, <u>中畷道靖</u>	環境会計から自然資本会計への新たな展開-新たな価値評価に向けて-	原価計算研究第 41 巻第 2 号	134-145	平成 29 年	有
47	<u>Asako Kimura,</u> Stephen Jollands, <u>Michiyasu Nakajima</u>	The multiple effects of calculative devices: From Management Control to Management Controlling	Proceedings at 2017 Management Control Association Conference	—	平成 29 年	有
48	中畷道靖, Bernd Wagner	サステナビリティマネジメント手法としてのマテリアルフローコスト会計 (MFCA) の新たな可能性に向けて: ISO14051 と ISO14052 の国際規格を参考に	日本 LCA 学会誌 Vol.12(2)	54-59	平成 28 年	無

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
49	<u>中寫道靖</u>	東芝の環境経営に関する環境管理会計研究-新たな管理会計研究の可能性-	原価計算研究第40巻第2号	23-30	平成28年	無
50	<u>Michiyasu Nakajima, Asako Kimura</u>	How will MFCA make Usefulness on Sustainable Engineering? : Based on practical experiences in Japanese and Southwestern Asian companies	Proceedings of The 2016 International Conference on Industrial Engineering and Operations Management	—	平成28年	有
51	<u>中寫道靖, 木村麻子, 國部克彦, 伊坪徳宏, 山田哲男</u>	低炭素型サプライチェーン経営へのMFCA導入の課題	低炭素型サプライチェーン経営: MFCA と LCA の統合, 中央経済社	95-112	平成27年	無
52	<u>中寫道靖, 木村麻子, 國部克彦, 伊坪徳宏, 山田哲男</u>	MFCA のマネジメントシステム化の方向性	低炭素型サプライチェーン経営: MFCA と LCA の統合, 中央経済社	113-122	平成27年	無

## 岡 照二

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
53	<u>岡照二</u>	気候変動に伴う企業グループの環境管理会計の展望	管理会計学	—	平成31年	無
54	<u>岡照二, 中寫道靖</u>	環境会計から自然資本会計への新たな展開-新たな価値評価に向けて-	原価計算研究第41巻第2号	134-145	平成29年	有
55	<u>岡照二, 西谷公孝</u>	カーボン SBSC フレームワークの構築とその有効性の検証	社会関連会計研究第27号	1-15	平成27年	有



法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

岸谷 和広

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
56	<u>Kazuhiro</u> <u>Kishiya</u>	Examining the Influence of Social Capital on e-WOM Behavior and Brand Experience for SNS Platform	American Marketing Association Summer Educator's Conference Proceeding	F19-24	平成 29 年	有
57	<u>Kazuhiro</u> <u>Kishiya</u> , Gordon E. Miracle	A Two-Nation Experiment to Investigate the Relationships among National Culture, Individual-Level Cultural Variables and Consumer Attitudes toward Advertising Websites and the Brand	International Journal Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms, Vol.5(2)	33-52	平成 28 年	有
* 58	<u>Kazuhiro</u> <u>Kishiya</u> , Gordon E. Miracle	<u>Examining the Relationships Among National Culture, Individual-Level Cultural Variable and Consumer Attitudes</u>	Procedia Computer Science(60)	1715-1719	平成 27 年	有

木村 麻子

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
59	<u>Asako</u> <u>Kimura</u> , Hiroyuki Suzuki, <u>Michiyasu</u> <u>Nakajima</u>	The Role and Development of Sustainability Management Control Systems in the Context of New Product Development	Proceedings at 2018 CSEAR North America Conference	—	平成 30 年	有
60	<u>Asako</u> <u>Kimura</u> , Hiroyuki Suzuki, <u>Michiyasu</u> <u>Nakajima</u>	Sustainability Management Control Systems in the Context New Product Development: A Case Study of a Japanese Electronics Company	Proceedings of Melco Management Accounting Seminar	1-21	平成 29 年	無

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
61	木村麻子, 堺昌彦	戦略経営におけるブランド・マネジメントと管理会計—日本企業の事例から	日本会計研究学会特別委員会 『戦略経営と管理会計に関する総合的研究 (最終報告)』 9月刊	148-163	平成 29 年	無
62	Asako Kimura, Stephen Jollands, Michiyasu Nakajima	The multiple effects of calculative devices: From Management Control to Management Controlling	Proceedings at 2017 Management Control Association Conference	—	平成 29 年	有
63	木村麻子	環境配慮型製品の開発プロセスと業績評価システム	青山学院大学経営学会 『青山経営論集』第 51 巻第 3 号	47-58	平成 28 年	無
64	木村麻子, 堺昌彦	戦略経営におけるブランド・マネジメントと管理会計	日本会計研究学会特別委員会 (小菅正伸主査) 『戦略経営と管理会計に関する総合的研究 中間報告書』	269-326	平成 28 年	無
65	木村麻子, 挽文子, 田中優希, 西村三保子, 宮本京子	実証的研究 (2)	日本会計研究学会スタディグループ (北村敬子主査) 『わが国における女性会計学者の現状と課題』	65-73	平成 28 年	無
66	木村麻子, 小林由典	東芝グループにおける環境経営の構築と涵養	日本原価計算研究学会 『原価計算研究』第 40 巻第 2 号	10-22	平成 28 年	無

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
67	<u>Michiyasu Nakajima,</u> <u>Asako Kimura,</u> Bernd Wagner	Introduction of material flow cost accounting to the supply chain: a questionnaire study on the challenges of constructing a low-carbon supply chain to promote resource efficiency	Journal of Cleaner Production, vol.108	1302-1309	平成 27 年	有
68	<u>中島道靖,</u> <u>木村麻子,</u> <u>國部克彦,</u> <u>伊坪徳宏,</u> <u>山田哲男</u>	低炭素型サプライチェーン経営への MFCA 導入の課題	低炭素型サプライチェーン経営: MFCA と LCA の統合, 中央経済社	95-112	平成 27 年	無
69	<u>中島道靖,</u> <u>木村麻子,</u> <u>國部克彦,</u> <u>伊坪徳宏,</u> <u>山田哲男</u>	MFCA のマネジメントシステム化の方向性	低炭素型サプライチェーン経営: MFCA と LCA の統合, 中央経済社	113-122	平成 27 年	無

高井 啓二

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
70	<u>Katsutoshi Yada,</u> <u>Kei Miyazaki,</u> <u>Keiji Takai,</u> <u>Kohei Ichikawa</u>	A framework of ASP for shopping path analysis	Proceedings of IEEE Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (IEEE APWC on CSE 2017)	49-54	平成 30 年	有
71	<u>Keiji Takai</u>	On the use of the selection matrix in the maximum likelihood estimation of normal distribution models with missing data	Communications in Statistics : Theory and Methods	1-16	平成 29 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
72	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , Ken Ishibashi, Bo Wu, Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u>	The global distribution of watches: a network analysis of trade relations	Proceedings of the 17th IEEE International Conference on Data Mining Workshop (ICDMW2017)	605-611	平成 29 年	有
73	Kenichi Hayashi, <u>Keiji Takai</u>	Finite-sample analysis of impacts of unlabeled data and their labeling mechanisms in linear discriminant analysis	Communications in Statistics - Simulation and Computation	184-203	平成 29 年	有
74	<u>Keiji Takai</u> , Kenichi Hayashi	Effects of unlabeled data on classification error in normal discriminant analysis	Journal of Statistical Planning and Inference	66-83	平成 26 年	有

宮崎 慧

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
75	<u>Katsutoshi Yada</u> , <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u> , <u>Kohei Ichikawa</u>	A framework of ASP for shopping path analysis	Proceedings of IEEE Asia- Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (IEEE APWC on CSE 2017)	49-54	平成 30 年	有
76	<u>Pierre-Yves Donz</u> , Ken Ishibashi, Bo Wu, Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u>	Global Distribution of Watches: A Network Analysis of Trade Relations	Data Mining Workshops (ICDMW), 2017 IEEE International Conference	605-611	平成 29 年	有
77	石橋健, 宮崎慧, <u>矢田勝俊</u>	店舗内の時系列な行動が購買行動に与える効果に関する研究	オペレーションズ・リサーチ (経営の科学) vol.62, no.12	789-794	平成 29 年	無

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
* 78	宮崎慧, 星野崇宏	商品カテゴリー購買と 複数ブランド購買の段 階型同時分析モデル	行動計量学	167-180	平成 28 年	有
79	Ken Ishibashi, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Verification of effect on next purchase when many vice category products are brought	Procedia Computer Science, 60	1780-1787	平成 27 年	有
80	<u>Kei Miyazaki</u>	Examining brand-switching behavior using latent class dynamic multinomial probit models with random effects	Behaviormetrika, 42(1)	1-18	平成 27 年	有

岩崎 拓也

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
81	Ken Ishibashi, <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> , <u>Shota</u> <u>Otomasa</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Comparison of models developed by using data mining technique	Proceedings of IEEE International Conference on System, Man, and Cybernetics	81-86	平成 29 年	有
82	Ken Ishibashi, <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> , <u>Shota</u> <u>Otomasa</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Variable selection with data mining technique	Procedia Computer Science	1681-1690	平成 28 年	有
83	<u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> , <u>Shota</u> <u>Otomasa</u> , <u>Atsushi</u> <u>Shiiba</u> , <u>Akinobu</u> <u>Shuto</u>	The Role of Accounting Conservatism in Executive Compensation Contracts	Social Science Research Network	1-53	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
84	<u>Akinobu</u> <u>Shuto</u> <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u>	The Effect of Institutional Factors on Discontinuities in Earnings Distribution Public Versus Private Firms in Japan	Journal of Accounting, Auditing and Finance, Vol. 30 (3)	283-317	平成 27 年	有
85	<u>乙政正太</u> , <u>首藤昭信</u> , <u>椎葉淳</u> , <u>岩崎拓也</u>	経営者報酬と利益ベンチマークの未達の関係	国民経済雑誌 第 209 巻第 4 号	61-74	平成 26 年	有
86	<u>Akinobu</u> <u>Shuto</u> <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u>	Stable Shareholdings, the Decision Horizon Problem and Earnings Smoothing	Journal of Business Finance and Accounting, Vol. 41 (9-10)	1212-1242	平成 26 年	有

千葉 貴宏

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
87	Hikaru Nozaki, Hitomi Fukui, Makoto Okazaki, <u>Takahiro</u> <u>Chiba</u>	How Brand Collaborations Change Customers' Self-Brand Connections to High-Priced Brand	American Marketing Association Summer Educators' Conference Proceedings (Vol. 28)	B-32-B-37.	平成 29 年	有
88	<u>Takahiro</u> <u>Chiba</u>	Are Superior Services Always Good for Satisfaction Formation?	Serviceology for Smart Service System: Selected Papers of the 3rd International Conference on Serviceology	207-212	平成 28 年	有
89	<u>千葉貴宏</u>	従業員行動への複雑な情報処理を考慮したサービスの失敗に対する顧客反応モデル	『商学論集』第 61 巻第 3 号	13-24	平成 28 年	無

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

村上 啓介

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
90	<u>Keisuke</u> <u>Murakami</u>	A Generalized Model and a Heuristic Algorithm for the Large-Scale Covering Tour Problem	RAIRO-Operations Research	Forthcoming	発刊準備中	有
91	<u>Keisuke</u> <u>Murakami</u>	Iterative Column Generation Algorithm for Generalized Multi-Vehicle Covering Tour Problem,	Asia-Pacific Journal of Operational Research	Forthcoming	発刊準備中	有
92	<u>Keisuke</u> <u>Murakami</u> , Takeaki Uno	Optimization Algorithm for k-Anonymization of Datasets with Low Information Loss	International Journal of Information Security	Forthcoming	発刊準備中	有
93	<u>Keisuke</u> <u>Murakami</u>	A New Model and Approach to Electric and Diesel-Powered Vehicle Routing	Transportation Research Part E: Logistics and Transportation Review, Vol.107	23-37	平成 29 年	有
94	<u>Keisuke</u> <u>Murakami</u>	Formulation and algorithms for route planning problem of plug-in hybrid electric vehicles	Operational Research	1-23	平成 28 年	有

里村 卓也

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
95	佐藤栄作, <u>里村卓也</u> , 野際大介, 中村博, 守口 剛	実務における品揃え操作影響評価のための購買行動モデルの拡張と実証分析	流通情報(523)	52-73	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

岡田 謙介

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
96	北條大樹, <u>岡田謙介</u>	評定尺度における反応傾向を考慮した係留寸描データのベイズ的項目反応モデル	データ分析の理論と応用	—	平成 29 年	有
97	北條大樹, <u>岡田謙介</u>	ロジスティック型項目反応理論モデルにおける JAGS と Stan を用いた推定の比較評価	専修人間科学論集心理学篇 第 7 巻	25-33	平成 29 年	無
98	<u>Kensuke Okada</u> , Takahiro Hoshino	Researchers' choice of the number and range of levels in experiments affects the resultant variance-accounted-for effect size	Psychonomic Bulletin & Review	1-30	平成 28 年	有
99	<u>Kensuke Okada</u>	Negative estimate of variance-accounted-for effect size: How often it is obtained, and what happens if it is treated as zero	Behavior Research Methods.	1-9	平成 28 年	有
100	<u>Kensuke Okada</u> , Michael D. Lee	A Bayesian approach to modeling group and individual differences in multidimensional scaling	Journal of Mathematical Psychology vol.70	35-44	平成 28 年	有
101	Takashi Kusumi, Hiroshi Yama, <u>Kensuke Okada</u> , Satoru Kikuchi, Takahiro Hoshino	A national survey of psychology education programs and their content in Japan	Japanese Psychological Research vol.58	4-18	平成 28 年	有
102	小林哲朗, <u>岡田謙介</u>	特集「計量政治学と行動計量学の接点」にあたって	行動計量学 43 巻	111-112	平成 28 年	無



法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
103	岡田謙介	ベイズ推定による情報仮説の評価：その理論と各種モデルへの応用について	専修人間科学論集心理学篇 第6巻	9-17	平成28年	無
104	岡田謙介	心理学と心理測定における信頼性について：Cronbachの $\alpha$ 係数とは何なのか、何でないのか	教育心理学年報	71-83	平成27年	無
105	Kensuke Okada	Bayesian meta-analysis of Cronbach's alpha to evaluate informative hypotheses	Research Synthesis Methods	1-14	平成27年	有
106	Yusuke Takahashi, Kensuke Okada, Takahiro Hoshino, Tokie Anme	Developmental trajectories of social skills during early childhood and links to parenting practices in a Japanese sample	PLoS One, 10(8): e0135357	1-14	平成27年	有
107	波田野結花, 吉田弘道, 岡田謙介	教育心理学研究における p 値と効果量による解釈の違い	教育心理学研究, 63	151-161	平成27年	有

佐野 夏樹

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
* 108	Natsuki Sano, Yusuke Ariyoshi, Sari Aoki	<u>Social Media Marketing for Regional Activation: Case Study on the Onomichi Vacant Housing Renewal Project</u>	Proc. of 5th Asia-Pacific World Congress on Computing Science 2018	Forthcoming	平成30年	有
109	Yuki Bando, Natsuki Sano, Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Improving Adaptive Pairing Method in Incomplete Paired Comparison Design	Total Quality Science Vol.3, No.2	59-68	平成30年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
110	Kenta Yoshida, Tatsuya Iwasawa, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Construction of Defect Detection System for Image Data Using Machine Learning and Image Processing	Total Quality Science Vol.3, No.2	46-58	平成 30 年	有
111	Bin-Yu Peng, So-Tsung Chou, Chou-Yuan Lee, Kuo-Chung Chu, <u>Natsuki Sano</u> , Zne-Jung Lee	An Integrated Analytics Model Applied to Power Consumption	Proc. of The 10th International Conference on Advanced Computational Intelligence 2018	4	平成 30 年	有
112	<u>Natsuki Sano</u> , Tomomichi Suzuki	Efficient hyper parameter selection for support vector regression using orthogonal array	International Journal of Computational Intelligence Studies, Vol.6, No.2	40-51	平成 29 年	有
113	Tatsuya Iwasawa, Kenta Yoshida, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Defect Detection for Improving Inspection Process Using Orthogonal Array: A Case Study of Cylindrical Metal Products	Total Quality Science Vol.3, No.1	11-21	平成 29 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
114	Ryo Suzuki, Masaya Saito, Yuzuru Hayashi, Mithuo Saito, Takehiko Yajima, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka	Statistical analysis of influenza propagation pattern using prescription data from Tochigi Prefecture	Total Quality Science Vol.3, No.1	35-45	平成 29 年	有
115	<u>Natsuki Sano</u> , Fuminori Kimura	Estimation of customer questionnaire responses from purchase transaction data using canonical correlation analysis	Procedia Computer Science 2017 (Proc. of 21th International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering Systems) Vol.112	1855-1862	平成 29 年	有
116	<u>Natsuki Sano</u> , Yuki Mori, Tomomichi Suzuki	Defect Detection Using Unanimous Vote Among Mahalanobis Classifiers for Each Color Component	The Review of Socionetwork Strategies Vol.12, No.2	1-11	平成 29 年	有
117	Mirai Tanaka, Takashi Yamashita, <u>Natsuki Sano</u> , Aya Ishigaki, Tomomichi Suzuki	Mathematical optimization approach for estimating the quantum yield distribution of a photochromic reaction in a polymer	American Institute of Physics Advances, Vol.7( 1 )	1-11	平成 29 年	有
118	Yue Li, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	A Study on the Measurement Precision of the Binary Data	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2016	—	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
119	Kenta Yoshida, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Defect Detection for Image Data Using Machine Learning and Image Processing	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2016	—	平成 28 年	有
120	Yuki Bando, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Evaluation of Relationship between Pairing and Number of Rounds in Swiss System Tournament	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2016	—	平成 28 年	有
121	Tatsuya Iwasawa, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Defect Detection from Image Data with Feature Extraction using Orthogonal Array	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2016	—	平成 28 年	有
122	Junya Ono, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Analysis of Winning Percentage in Sports Based on a Statistical Model	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2016	—	平成 28 年	有
123	Ryo Suzuki, Yuzuru Hayashi, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Statistical Analysis of Influenza Spreading Pattern Using Pharmaceutical Data in Tochigi Prefecture, Japan	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2016	—	平成 28 年	有
124	<u>Natsuki Sano</u> , Reo Tsutsui, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , Tomomichi Suzuki	Clustering of Customer Shopping Paths in Japanese Grocery Stores	Proc. of 20th International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering Systems	1314-1322	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
125	<u>Natsuki Sano</u> , Yuki Mori, Tomomichi Suzuki	Defect Detection Using Two-dimensional Moving Range Filter and Unanimous Vote among Color Component Classifiers	Proc. of the The 3rd Multidisciplinary International Social Networks Conference on Social Informatics 2016	1-4	平成 28 年	有
126	Tomomichi Suzuki, Tatsuya Iwasawa, Kenta Yoshida, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka	Integrating Statistical and Machine Learning Approaches in Improving Inspection Process	Proc. of XIIth International Workshop on Intelligent Statistical Quality Control 2016	251-259	平成 28 年	有
* 127	<u>Natsuki Sano</u>	<u>Estimation of Customer Behavior in Sales Areas in a Supermarket Using a Hidden Markov Model</u>	International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms, Vol. 5(2)	135-145	平成 28 年	有
128	Wataru Hasegawa, <u>Natsuki Sano</u> , Tomomichi Suzuki	Clarification of the Relationship between the State of Elderly and Provided Care to Assist Designing Care Plans	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2015	—	平成 27 年	有
129	<u>Natsuki Sano</u> , Natsumi Machino, <u>Katsutoshi Yada</u> , Tomomichi Suzuki	Recommendation system for grocery store considering data sparsity	Proc. of the 19th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	1406-1413	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
130	<u>Natsuki Sano</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	The Influence of Sales Areas and Bargain Sales on Customer Behavior in a Grocery Store	Neural Computing and Applications Vol. 26 (2)	355-361	平成 27 年	有
131	Ryosuke Ikeda, <u>Natsuki Sano</u> , Akira Kotani, Yuzuru Hayashi, Tomomichi Suzuki	The Relationship between Academic Achievement in the Chemistry and Experimental Ability	Proc. of Asian Network for Quality Congress 2014	—	平成 26 年	有
132	<u>Natsuki Sano</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , Tomomichi Suzuki	Category Evaluation Method for Business Intelligence Using a Hierarchical Bayes Model	Proc. of 13th IEEE International Conference on Cognitive Informatics & Cognitive Computing	400-407	平成 26 年	有
133	Tomomichi Suzuki, Yusuke Tsutsumi, <u>Natsuki Sano</u>	International Standardization in Capability of Detection	Proc. of Advanced Mathematical and Computational Tools in Metrology and Testing 2014	—	平成 26 年	有
134	<u>Natsuki Sano</u> , Syusuke Tamura, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , Tomomichi Suzuki	Evaluation of Price Elasticity and Brand Loyalty in Milk Products	Proc. of 18th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	1482-1487	平成 26 年	有
135	<u>Natsuki Sano</u> , Kaori Higashinaka, Tomomichi Suzuki	Efficient Parameter Selection for Support Vector Regression Using Orthogonal Array	Proc. of 2014 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics	2285-2290	平成 26 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

塩地 洋

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
136	<u>Hiroshi Shioji</u>	Examining the Realignment Strategies of Automotive Production bases in Southeastasia: the case of Japanese Automakers	International Journal Automotive Technology and Management Vol.18, No.4,	329-334	平成 30 年	有
137	<u>塩地洋</u>	太平洋島嶼国の車両放置問題解決のために—解体事業の採算性の改善を中心に—	アジア経営研究 第 24 号	75-93	平成 30 年	有
138	<u>塩地洋</u>	太平洋島嶼国の車両放置問題解決のために—車両放置が発生する原因解明を中心に—	『産業学会研究 年報』 第 33 号	—	平成 30 年	有
139	<u>塩地洋</u> , 富山栄子	ブラジル自動車産業の概括的検討—市場・生産規模は大きい、国際競争力が脆弱	赤門マネジメント・レビュー15 巻 8 号	389-410	平成 28 年	有
140	<u>塩地洋</u>	アセアン統合に伴う自動車生産拠点再編を考える	日本自動車工業会 JAMAGAZINE 第 50 号	9-14	平成 28 年	無
141	<u>塩地洋</u>	新興国におけるモータリゼーションの析出方法—標準保有台数と Sカーブを指標として	アジア経営研究 第 22 号	45-58	平成 28 年	有
142	<u>Hiroshi Shioji</u> , Eiko Toyama	Hyundai Motor Company's "Selective Focus ed Local Adaptation Strategy" from the Perspective of Global Marketing	The Northeast Asian Economic Review Vol. 3(2)	69-80	平成 27 年	有
143	<u>塩地洋</u>	アセアン統合に伴う自動車生産拠点再編を考える—日系自動車メーカーを中心に—	『産業学会研究 年報』 第 30 号	31-46	平成 27 年	有
144	<u>塩地洋</u>	自動車産業における部品国産化ライフサイクル	『アジア経営研究』 第 21 号	11-25	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

ピエール=イヴ、ドンゼ

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
145	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , <u>Fujioka, Rika</u>	Luxury Business	Oxford Research Encyclopedias Business and Management,	1-24	平成 29 年	有
* 146	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , Ken Ishibashi, Bo Wu, Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u>	<u>The global distribution of watches: a network analysis of trade relations</u>	Proceedings of the 17th IEEE International Conference on Data Mining Workshop (ICDMW2017)	605-611	平成 29 年	有
147	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , Thierry Theurillat	Selling luxury watches in Asia: the changing position of independent distributors	Marketing Review St. Gallen, vol. 33(5)	50-57	平成 28 年	有

鷺尾 隆

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
148	Patrick Blobaum, Dominik Janzing, <u>Takashi Washio</u> , <u>Shohei Shimizu</u> and Bernhard Scholkopf	Analysis of cause-effect inference by comparing regression errors	PeerJ Computer Science 5:e169	1-29	平成 31 年	有
* 149	<u>Takashi Washio</u>	<u>Measurement Oriented Machine Learning for Advanced Sensing Technologies</u>	Proceedings of IEEE Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (IEEE APWC on CSE 2017)	15	平成 30 年	有



法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
150	Patrick Blöbaum, <u>Shohei Shimizu,</u> <u>Takashi Washio.</u>	A novel principle for causal inference in data with small error variance	Proc. 25 th European Symposium on Artificial Neural Networks, Computational Intelligence and Machine Learning (ESANN2017)	347-352	平成 29 年	有
151	Marina Demeshko, <u>Takashi Washio,</u> Yoshinobu Kawahara, Yuriy Pepyolyshev	A Novel Continuous and Structural VAR Modeling Approach and Its Application to Reactor Noise Analysis	ACM Trans. on Intelligent Systems and Technology (TIST), Vol. 7 (2)	1-22	平成 28 年	有
152	Kai Ming Ting, <u>Takashi Washio,</u> Jonathan R. Wells Sunil Aryal	Defying the gravity of learning curve: a characteristic of nearest neighbour anomaly detectors	Machine Learning, Vol.106 (1)	55-91	平成 28 年	有
153	Keisuke Nagata, Yoshinobu Kawahara, <u>Takashi Washio,</u> Akira Unami	Toxicogenomic prediction with graph-based structured regularization on transcription	Fundam. Toxicol. Sci. Vol.3 (2)	39-46	平成 28 年	有
154	Satoshi Hara, Takafumi Ono, Ryo Okamoto, <u>Takashi Washio,</u> Shigeki Takeuchi	Quantum-state anomaly detection for arbitrary errors using a machine-learning technique	Phys. Rev. A vol.94(4):042341	042341	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
155	Makusu Tsutsui, Yuhui He, Kazumichi Yokota, Akihide Arima, Sadato Hongo, Masateru Taniguchi, <u>Takashi</u> <u>Washio</u> , Tomoji Kawai	Particle Trajectory-Dependent Ionic Current Blockade in Low-Aspect-Ratio Pores	ACS Nano, American Chemical Society, 10 (1)	803-809	平成 28 年	有
156	安並一浩, <u>鷺尾隆</u>	太陽光発電出力変動分 析のための時空間減衰 モデルを用いた相互相 関関数推定手法	電気学会誌論文 誌 B (電力・エネ ルギー部門誌) , IEEE Transactions on Power and Energy, Vol.135(10)	613-623	平成 28 年	有
157	<u>鷺尾隆</u>	機械学習による情報論 的量子状態の異常検知	人工知能 30 巻 2 号(2015)	217-223	平成 27 年	有
158	Marina Demeshko, Abdelhamid Dokhane, <u>Takashi</u> <u>Washio</u> , Hakim Ferroukhi, Yoshinobu Kawahara, Carlos Aguirre	Application of Continuous and Structural ARMA Modeling for Noise Analyses of a BWR Coupled Core and Plant Instability Event	Annals of Nuclear Energy, Elsevier, Vol.75, pp.645-657, DOI information: 10.1016/j.anucene. 2014.08.045 (2015)	645-657	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
159	Keisuke Nagata, <u>Takashi Washio</u> , Yoshinobu Kawahara, Akira Unami	Toxicity prediction from toxicogenomic data based on class association rule mining	Toxicology Reports, Vol.1, pp.1133-1142, DOI:10.1016/j.toxr ep. 2014.10.014 (2014)	1133-1142	平成 26 年	有
160	安並一浩, <u>鷺尾隆</u>	堺太陽光発電所の実測 データに基づく PV 分 布の平滑化効果への影 響分析	電気学会論文誌 B (電力・エネルギー 部門誌), IRRJ Transactions on Power and Energy, Vol. 134 (10), pp.856-865, DOI:10.1541/ieejp es.134.856 (2014)	856-865	平成 26 年	有
161	Jonathan R. Wells, Kai Ming Ting, <u>Takashi Washio</u>	A new approach to nearest neighbour density estimator	Pattern Recognition, Elsevier(47), DOI: 10.1016	2702-2720	平成 26 年	有

清水 昌平

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
162	Patrick Bobaum, Dominik Janzing, <u>Takashi Washio</u> , <u>Shohei Shimizu</u> , Bernhard Scholkopf	Analysis of cause-effect inference by comparing regression errors	PeerJ Computer Science 5:e169	1-29	平成 31 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
163	Patrick Blöbaum, <u>Shohei Shimizu</u> , <u>Takashi Washio</u> .	A novel principle for causal inference in data with small error variance	Proc. 25 th European Symposium on Artificial Neural Networks, Computational Intelligence and Machine Learning (ESANN2017)	347-352	平成 29 年	有
164	Patrick Blöbaum, <u>Shohei Shimizu</u>	Estimation of interventional effects of features on prediction	Proc. 2017 IEEE Machine Learning for Signal Processing Workshop (MLSP2017)	—	平成 29 年	有
165	Jongchan Lee, Tetsuto Himeno, <u>Shohei Shimizu</u> , Takuma Tanaka, Akimichi Takemura	Visualizing Shiga Prefecture using RESAS: cloud-based analysis system with government open big data	Proc. 2nd International Conference on Big Data, Cloud Computing, and Data Science (BCD2017)	—	平成 29 年	有
166	<u>Shohei Shimizu</u>	Non-Gaussian structural equation models for causal discovery	Statistics and Causality: Methods for Applied Empirical Research (Proc. Conference on Statistics and Causality 2014)	153-184	平成 28 年	有
167	Patrick Blöbaum, <u>Shohei Shimizu</u> , <u>Takashi Washio</u> .	Discriminative and generative models in causal and anticausal settings	Proc. Second Workshop on Advanced Methodologies for Bayesian Networks (AMBN2015)	209-221	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
168	<u>Shohei Shimizu</u>	A non-Gaussian approach for causal discovery in the presence of hidden common causes	Proc. Second Workshop on Advanced Methodologies for Bayesian Networks (AMBN2015)	222-233	平成 27 年	有
169	<u>Shohei Shimizu</u> , Kenneth Bollen	Bayesian estimation of causal direction in acyclic structural equation models with individual-specific confounder variables and non-Gaussian distributions	Journal of Machine Learning Research	2629-2652	平成 26 年	有

## 椎葉 淳

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
170	岩崎拓哉, <u>乙政正太</u> , <u>椎葉淳</u> , 首藤昭信	The Role of Accounting Conservatism in Executive Compensation Contracts	Journal of Business, Finance, and Accounting 45(9-10)	1139-1163	平成 30 年	有
171	布施匡章, <u>椎葉 淳</u>	IT 投資の効果を高める要因としてのインタangibleブルズの役割—アンケート調査に基づく分析—	『IT 経営ジャーナル』第 10 号	16-22	平成 30 年	無
172	小野慎一郎, <u>椎葉淳</u> , 村宮克彦	組替財務諸表に基づく ROE 予測の有効性	国民経済雑誌 第 218 巻第 1 号	59-79	平成 30 年	無
173	三輪一統, <u>椎葉淳</u>	新規参入企業に対するプレアナウンスメントの戦略的効果	現代ディスクロージャー研究	1-36	平成 28 年	有
174	<u>椎葉淳</u>	業績目標としての経営者予想利益—契約理論に基づく理論研究の展開—	立命館経営学 第 54 巻第 5 号	37-52	平成 28 年	無
175	<u>椎葉淳</u>	コスト構造と企業リスク：近年の理論・実証研究からの示唆	管理会計学 第 24 巻第 2 号	19-32	平成 28 年	無

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
176	椎葉淳, 奥田真也	営業部門における業績 評価と ICT の関係につ いて	メルコ管理会計 第 9 号-I	15-28	平成 28 年	無
177	高橋邦丸, 椎葉淳, 佐々木郁子	需要の不確実性とコス ト構造－日本企業デー タを用いた分析－	青山経営論集 第 51 巻第 3 号	152-167	平成 28 年	有
178	<u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> <u>Shota</u> <u>Otomasa</u> <u>Atsushi</u> <u>Shiiba</u> <u>Akinobu</u> <u>Shuto</u>	The Role of Accounting Conservatism in Executive Compensation Contracts	Social Science Research Network	1-53	平成 27 年	有
179	<u>Shota</u> <u>Otomasa</u> <u>Atsushi</u> <u>Shiiba</u> <u>Akinobu</u> <u>Shuto</u>	Management Earnings Forecasts as a Performance Target in Executive Compensation Contracts	Social Science Research Network	1-69	平成 27 年	有
180	乙政正太, 首藤昭信, 椎葉淳, 岩崎拓也	経営者報酬と利益ベン チ マークの未達の関係	国民経済雑誌 第 209 巻第 4 号	61-74	平成 26 年	有

廣瀬 慧

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
181	<u>Kei Hirose</u> Yukihiro Ogura, Hidetoshi Shimodaira	Estimating Scale-Free Networks via the Exponentiation of Minimax Concave Penalty.	Journal of the Japanese Society of Computational Statistics, in press.	—	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
182	<u>Kei Hirose</u> , Sunyong Kim, Yutaka Kano, Miyuki Imada, Manabu Yoshida, Masato Matsuo	Full information maximum likelihood estimation in factor analysis with a large number of missing values.	Journal of Statistical Computation and Simulation, in press. Vol. 86 (1)	91-104	平成 27 年	有
183	<u>Kei Hirose</u> , Michio Yamamoto	Sparse estimation via nonconcave penalized likelihood in a factor analysis model.	Statistics and Computing, 25(5)	863-875	平成 27 年	有
184	<u>Kei Hirose</u> , Michio Yamamoto	Estimation of an oblique structure via penalized likelihood factor analysis.	Computational Statistics & Data Analysis	79, 120-132	平成 26 年	有
185	<u>廣瀬慧</u>	Lasso タイプの正則化 法に基づくスパース推 定法を用いた超高次元 データ解析	京都大学 数理解 析研究所講究録	—	平成 26 年	無

市川 昊平

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
186	<u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u> , <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u>	A framework of ASP for shopping path analysis	Proceedings of IEEE Asia- Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (IEEE APWC on CSE 2017)	49-54	平成 30 年	有
187	Kar-Long Chan, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Yasuhiro Watashiba, Putchong Uthayopas, Hajimu Iida	A Hybrid-Streaming Method for Cloud Gaming: To Improve the Graphics Quality delivered on Highly Accessible Game Contents	International Journal of Serious Games, Vol. 4, No. 2	75-86	平成 29 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
188	<u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Pongsakorn U-chupala, Che Huang, Chawanat Nakasan, Te-Lung Liu, Jo-Yu Chang, Li-Chi Ku, Whey-Fone Tsai, Jason Haga, Hiroaki Yamanaka, Eiji Kawai, Yoshiyuki Kido, Susumu Date, Shinji Shimojo, Philip Papadopoulos, Mauricio Tsugawa, Matthew Collins, Kyuhoo Jeong, Renato Figueiredo, Jose Fortes	PRAGMA-ENT: An International SDN Testbed for a Cyberinfrastructure in the Pacific Rim	Concurrency And Computation: Practice And Experience, Wiley InterScience	1-8	平成 28 年	有
189	Chawanat Nakasan, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Hajimu Iida, Putchong Uthayopas	A Simple Multipath OpenFlow Controller using topology-based algorithm for Multipath TCP	Concurrency And Computation: Practice And Experience, Wiley InterScience	1-8	平成 28 年	有



法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
190	柏崎礼生, 北口善明, <u>市川晃平</u> , 近堂徹, 中川郁夫, 菊池豊, 下條真司	広域分散仮想化環境の 展開・運用・管理コス トの定量的評価	インターネット と運用技術シン ポジウム 2016 論 文集	18-25	平成 28 年	有
191	柏崎礼生, 西内一馬, 北口善明, <u>市川晃平</u> , 近堂徹, 中川郁夫, 菊池豊	ネットワーク災害訓練 のシナリオ記述コスト を低減するインターフ ェイスの設計と実装	インターネット と運用技術シン ポジウム 2016 論 文集	33-40	平成 28 年	有
192	Kar-Long Chan, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Yasuhiro Watahshiba, Putchong Uthayopas, Hajimu Iida	A Hybrid Game Contents Streaming Method: Improving Graphic Quality Delivered on Cloud Gaming	15th International Conference on Entertainment Computing	149-160	平成 28 年	有
193	Ikuo Nakagawa, Hiroki Kashiwazaki, Shinji Shimojo, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Tohru Kondo, Yoshiaki Kitaguchi, Yutaka Kikuchi, Shigetoshi Yokoyama, Shunji Abe	A design and implementation of global distributed POSIX file system on the top of multiple independent cloud services	5th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI)	867-872	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
194	Susumu Date, Hirotake Abe, Dashdavaa Khureltulga, Keichi Takahashi, Yoshiyuki Kido, Yasuhiro Watashiba, Pongsakorn U-chupala, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Hiroaki Yamanaka, Eiji Kawai, Shinji Shimojo	SDN-accelerated HPC Infrastructure for Scientific Research	International Journal of Information Technology, Vol. 22(1)	89-96	平成 28 年	有

首藤 昭信

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
195	<u>Shota</u> <u>Otomasa</u> , <u>Atsushi</u> <u>Shiiba</u> , <u>Akinobu</u> <u>Shuto</u>	Management earnings forecasts as a performance target in executive compensation contracts	Journal of Accounting Auditing and Finance	1-52	平成 29 年	有
196	Song Mingzi, Naoto Oshiro, <u>Akinobu</u> <u>Shuto</u>	Predicting accounting fraud: Evidence from Japan	The Japanese Accounting Review	—	平成 29 年	有
197	<u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> , <u>Shota</u> <u>Otomasa</u> , <u>Atsushi</u> <u>Shiiba</u> , <u>Akinobu</u> <u>Shuto</u>	The Role of Accounting Conservatism in Executive Compensation Contracts	Social Science Research Network	1-53	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
198	<u>Shota</u> <u>Otomasa</u> , <u>Atsushi</u> <u>Shiiba</u> , <u>Akinobu</u> <u>Shuto</u>	Management Earnings Forecasts as a Performance Target in Executive Compensation Contracts	Social Science Research Network	1-69	平成 27 年	有
199	<u>Akinobu</u> <u>Shuto</u> , <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u>	The Effect of Institutional Factors on Discontinuities in Earnings Distribution Public Versus Private Firms in Japan	Journal of Accounting, Auditing and Finance, Vol. 30 (3)	283-317	平成 27 年	有
200	首藤昭信, 北村敬子編 著	公正価値情報の実証的評価	財務報告における公正価値測定	277-294	平成 26 年	無
201	乙政正太, 首藤昭信, 椎葉 淳, 岩崎拓也	経営者報酬と利益ベンチマークの未達の関係	国民経済雑誌 第 209 巻第 4 号	61-74	平成 26 年	有
202	<u>Akinobu</u> <u>Shuto</u> , <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u>	Stable Shareholdings, the Decision Horizon Problem and Earnings Smoothing	Journal of Business Finance and Accounting, Vol. 41 (9-10)	1212-1242	平成 26 年	有

## 左 毅

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
203	<u>Yi Zuo</u> , Yuya Kajikawa	Toward a Theory of Industrial Supply Networks: A Multi-Level Perspective via Network Analysis	Entropy, 19(8)	382	平成 29 年	有
204	左毅, 矢田勝俊	ベイジアンネットワークを用いた消費者行動モデルの構築実験	Journal of the Operations Research Society of Japan, 62(12)	795-800	平成 29 年	有
205	Xuanang Feng, <u>Yi. Zuo</u> , Eisuke Kita, Fumiya Saito	Personal Authentication Using a Kinect Sensor	The Review of Socionetwork Strategies, 11(2)	201-215	平成 29 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
206	<u>Yi Zuo</u> , Yuya Kajikawa	An Exploratory Look at Supply Chains in Japan from Multiscale Network Perspectives	The Review of Socionetwork Strategies, 11(2)	111-128	平成 29 年	有
207	Hideyuki Sugiura, Masahiro Nagao, <u>Yi Zuo</u> , Eisuke Kita	Grammatical Evolution Using Two-dimensional Gene for Symbolic Regression: An Advanced Improvement with Conditional Statement Grammar	International Journal of Computational Intelligence Studies vol.5	103-119	平成 28 年	有
208	<u>Yi Zuo</u>	Prediction of Consumer Purchase Behavior Using Bayesian Network: An Operational Improvement and New Results Based on RFID Data	International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms	85-105	平成 28 年	有

## 李 振

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
* 209	<u>李振</u>	<u>視線追跡データに基づいたネットワーク外部性の検証</u>	オペレーションズ・リサーチ Vol. 62, No. 12	782 - 788	平成 29 年	有
210	<u>Zhen Li</u>	Consumer Online Purchase Intention and Product Class	Journal of Business Administration, Vol. 89	119 - 130	平成 29 年	無
211	<u>Zhen Li</u> , Ken Ishibashi, Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Hiroshi Shioji</u> , <u>Katsutoshi Yada</u>	Vehicle Ownership and Economic Development	Proc. of 3rd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering	171-180	平成 28 年	有
212	<u>Zhen Li</u> , <u>Katsutoshi Yada</u>	Does the Existence of Private-Label Brands Really Impede National Brands Sales? Empirical Evidence Based on POS Data	Proc. of 3rd International Conference of Asian Marketing Associations	1-17	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
213	<u>Zhen Li</u> , Lin Huang, Chao Fan	Does Increasing Volume of Online Reviews Really Help Sales? An In-depth Analysis Based on Web Crawling	Proc. of 38th ISMS Marketing Science Conference	1-15	平成 28 年	有
214	<u>Zhen Li</u> , <u>Katsutoshi Yada</u>	Complementary Relationship between Private Brands and National Brands: Empirical Evidence Based on POS Data	Proc. of 38th ISMS Marketing Science Conference	31-43	平成 28 年	有

武 博

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
215	<u>Katsutoshi Yada</u> , Yi Sun, <u>Bo Wu</u>	The Short-Term Impact of an Item-Based Loyalty Program	Proceedings of 2018 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC)	1842-1847	平成 30 年	有

猪狩 良介

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
216	片柳伊佐, <u>猪狩良介</u>	テレビ CM クリエイティブの分類と広告効果の関係性～ブランド浸透度別の比較～	日経広告研究所報 Vol.276	18-25	平成 26 年	無

## &lt;学会発表&gt;

矢田 勝俊

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
* 217	Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi Yada</u>	<u>Bayesian Hidden Markov Model for Evaluating the Influence of In-Store Stationary Time of Customers on their Purchase Behavior</u>	The 5th Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2018(APWC on CSE 2018)	Fiji	平成 30 年 12 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
* 218	Ken Ishibashi, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	<u>Assessment of Effect of POP on Purchase Behavior: Comparison of Effectiveness of Eye-tracking Data and Shopping Path Data</u>	The 5th Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2018(APWC on CSE 2018)	Fiji	平成 30 年 12 月
* 219	Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> Wataru Ihara Ryunosuke Odagiri	<u>How Game Users Consume Virtual Currency: The Relationship Between Consumed Quantity, Inventory, and Elapsed Time since Last Consumption in the Mobile Game World</u>	2018 IEEE 18th International Conference on Data Mining Workshops	Singapore	平成 30 年 11 月
220	Xi Zhong, Ken Ishibashi, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	An Empirical Study of the Relationship Among Self-Control, Price Promotions and Consumer Purchase Behavior	2018 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC)	Miyazaki Japan	平成 30 年 10 月
221	<u>Yi Zuo</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , Tieshan Li, Phillip Chen	Application of Network Analysis Techniques for Customer In-store Behavior in Supermarket	2018 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC)	Miyazaki Japan	平成 30 年 10 月
222	<u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , Yi Sun, <u>Bo Wu</u>	The Short-Term Impact of an Item-Based Loyalty Program	2018 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC)	Miyazaki Japan	平成 30 年 10 月
* 223	金子雄太, 石橋健, 矢田勝俊	<u>視線追跡データを用いた消費者の店舗内購買行動の分析</u>	経営情報学会、PACIS2018 主催記念特別全国研究発表大会	神奈川、日本	平成 30 年 6 月
224	<u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u> , <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u>	A framework of ASP for shopping path analysis	The 4th Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2017	Mana Island Resort and Spa, Fiji	平成 29 年 12 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
225	Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Do Sales Promotions Affect Dynamic Changes in Sales Outcomes: Estimation of Dynamic State of Product Sales	The 4th Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2017	Mana Island Resort and Spa, Fiji	平成 29 年 12 月
* 226	Bo Wu, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	<u>The Effect of Crowding on Visit Ratio at an Product Area: Based on RFID Data in a Japanese Supermarket</u>	The 4th Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2017	Mana Island Resort and Spa, Fiji	平成 29 年 12 月
227	Wai Tik So, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	A Framework of ASP for shopping path analysis	The 4th Multidisciplinary International Social Networks Conference	Bangkok, Thailand	平成 29 年 7 月
228	Ken Ishibashi, <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> <u>Shota</u> <u>Otomasa</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Comparison of models developed by using data mining technique	IEEE International Conference on System, Man, and Cybernetics	Banff, Canada	平成 29 年 10 月
229	Yuta Kaneko, Shinya Miyazaki, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	The Influence of Customer Movement between Sales Areas on Sales Amount: A Dynamic Bayesian Model of the In-store Customer Movement and Sales Relationship	21st International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	Marseille, France	平成 29 年 9 月
230	Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	A Deep Learning Approach for the Prediction of Retail Store Sales	2016 IEEE 16th International Conference on Data Mining Workshops	World Trade Center Barcelona, Spain	平成 28 年 12 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
231	<u>Zhen Li</u> Ken Ishibashi, Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Hiromi Shioji</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Vehicle Ownership and Economic Development	2016 3rd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (APWC on CSE 2016)	Sofitel Fiji Resort & Spa, Denarau Island, Fiji	平成 28 年 12 月
232	<u>Yi Zuo</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , A B M Shawkat Ali	Prediction of Consumer Purchasing in a Grocery Store Using Machine Learning Techniques	2016 3rd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (APWC on CSE 2016)	Sofitel Fiji Resort & Spa, Denarau Island, Fiji	平成 28 年 12 月
233	<u>Zhen Li</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Does the Existence of Private-Label Brands Really Impede National Brands Sales? Empirical Evidence Based on POS Data	3rd International Conference of Asian Marketing Associations	Beijing, China	平成 28 年 10 月
234	Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Fractal Dimension of Shopping Path: Influence on Purchase Behavior in a Supermarket	20th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems, KES2016	York, United Kingdom	平成 28 年 9 月
235	<u>Yi Zuo</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , Eisuke Kita	Impact of Analog-to-digital Conversion on Predictive Performance: A Case Study of Bayesian Network vs. Support Vector Machine in Purchase Behavior Prediction	2016 World Congress on Computational Mechanics, Seoul Korea	Seoul, Korea	平成 28 年 7 月



法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
236	<u>Zhen Li</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Complementary Relationship between Private Brands and National Brands: Empirical Evidence Based on POS Data	38th ISMS Marketing Science Conference	Shanghai, China	平成 28 年 6 月
* 237	津本周作, <u>矢田勝俊</u> , 福井健一, 小野田崇, 阿部明典, 中嶋宏	<u>データマイニングの応用</u>	第 20 回日本医療 情報学会 春季学 術大会	島根県	平成 28 年 6 月
238	Suguru Shibasaki, <u>Keiji Takai</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Self-control and consumer behavior	International Marketing Trends Conference	Venice, Italy	平成 28 年 1 月
239	Zhen Li, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Why Do Retailers End Price Promotions: A Study on Duration and Profit Effects of Promotion	2015 IEEE International Workshop on Data Mining for Service	Atlantic City, NJ, USA	平成 27 年 11 月
240	Ken Ishibashi, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Verification of effect on next purchase when many vice category products are brought	19th International Conference on Knowledge-Based and Intellegent Information & Engineering Systems - KES 2015	Marina Bay Sands Hotel, Singapore	平成 27 年 9 月
241	Yuta Kaneko, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Visualization System for Shopping Path	19th International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering Systems - KES 2015	Marina Bay Sands Hotel, Singapore	平成 27 年 9 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
242	<u>Katsutoshi Yada</u>	How Does Purchase of a Product Affect the Next Purchase?	14th International Marketing Trends Program Conference	Paris, France	平成 27 年 1 月
243	<u>矢田勝俊</u>	ビジネスにおけるビッグデータの利活用 – 流通小売業の現場から –	CREST 戦略的創造研究推進事業	港区, 東京都	平成 26 年 11 月
244	<u>Katsutoshi Yada</u>	Big Data and Marketing	IEEE APWC on CSE 2014	Nadi, Fiji	平成 26 年 11 月
245	Yi Zuo, <u>Katsutoshi Yada</u>	Using Bayesian Network for Purchase Behavior Prediction from RFID Data	The 2014 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics	San Diego, CA, USA	平成 26 年 10 月
246	Yi Zuo, A.B.M. Shawkat Ali, <u>Katsutoshi Yada</u>	Consumer Purchasing Behavior Extraction Using Statistical Learning Theory	18th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	Gdynia, Poland	平成 26 年 9 月
247	<u>Natsuki Sano,</u> <u>Katsutoshi Yada,</u> Tomomichi Suzuki	Category Evaluation Method for Business Intelligence Using a Hierarchical Bayes Model	13th IEEE International Conference on Cognitive Informatics & Cognitive Computing	Singapore	平成 26 年 8 月
* 248	<u>矢田勝俊</u>	<u>購買行動研究の最前線</u>	オギノ FSP 研究会	甲府市, 山梨県	平成 26 年 5 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

乙政 正太

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
249	Ken Ishibashi, <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> <u>Shota</u> <u>Otomasa</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Comparison of models developed by using data mining technique	IEEE International Conference on System, Man, and Cybernetics	Banff, Canada	平成 29 年 10 月
250	<u>乙政正太</u>	大規模データとしての会計情報と経営者報酬研究	日本会計研究学会	広島大学	平成 29 年 9 月
251	Ken Ishibashi, <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> <u>Shota</u> <u>Otomasa</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Variable selection with data mining technique	20th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	York, UK	平成 28 年 9 月
252	<u>乙政正太</u>	最近の不正会計事件から学ぶべきこと - 指名委員会等設置会社である東芝を例として-	日本会計研究学会 第 63 回関西西部会	大阪市立大学	平成 27 年 12 月
253	<u>Shota</u> <u>Otomasa</u> <u>Atsushi</u> <u>Shiiba</u> <u>Akinobu</u> <u>Shuto</u>	The Sensitivity of Directors' Cash Compensation to the Performance Measures of Forecast-based Benchmark	Handai Accounting Research Seminar (HARS)	大阪大学	平成 27 年 3 月
254	<u>乙政正太</u>	現代会計研究会 「経営者の利益予想に対する現金報酬の感応度」	現代会計フォーラム	東京大学	平成 27 年 1 月
255	<u>乙政正太</u>	特別プロジェクト報告 「東日本大震災のディスクロージャー問題に関する実証研究」	日本ディスクロージャー研究学会 第 9 回研究大会	名古屋大学	平成 26 年 5 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

藤岡 里圭

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
256	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , <u>Rika Fujioka</u>	The formation and the development of the Japanese apparel industry (1945-1990)	European Business History Association 22nd Annual Congress	Ancona, Italy	平成 30 年 9 月
257	藤岡里圭, 金子雄太, 李振	日本におけるラグジュアリー市場の拡大と百貨店	日本商業学会関西西部会 4 月例会	大阪市立大学文化交流センター	平成 30 年 4 月
258	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , <u>Rika Fujioka</u>	The Globalization of the Luxury Industry (1970-2010)	XVIIth World Economic History Congress	国立京都国際会館	平成 27 年 8 月
259	<u>Rika Fujioka</u>	European Department Store's Response to the Fashion Globalization	Global Luxury and Fashion Business International Workshop	京都大学	平成 27 年 2 月
260	<u>Rika Fujioka</u>	The Role of Japanese Department Stores in Introducing Affordable Luxury Goods into Japan	Global Luxury: Organizational change and emerging markets in the luxury industry since the 1970s	Neuchâtel, Switzerland.	平成 26 年 11 月

中畷 道靖

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
261	<u>Michiyasu Nakajima</u>	Sustainability Management integrated with SDGs, based on MFCA Information	EcoBalance Conference 2018	Tokyo	平成 30 年 10 月
262	<u>Asako Kimura</u> , Hiroyuki Suzuki, <u>Michiyasu Nakajima</u>	The Role and Development of Sustainability Management Control Systems in the Context of New Product Development	2018 CSEAR North America Conference	Canada, TED ROGERS SCHOOL OF MANAGEMENT	平成 30 年 6 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
263	<u>Asako</u> <u>Kimura,</u> Hiroyuki Suzuki, <u>Michiyasu</u> <u>Nakajima</u>	Balancing between Environmental and Economic Rationality: Role of Environmental Manager	CSEAR Conference 2017	St. Andrews University	平成 29 年 8 月
264	<u>Asako</u> <u>Kimura,</u> Hiroyuki Suzuki, <u>Michiyuki</u> <u>Nakajima</u>	Sustainability Management Control Systems in the Context of New Product Development: A case study on a Japanese	The 29th International Congress on Social and Environmental Accounting Research	University of St Andrews Scotland	平成 29 年 8 月
265	<u>Shoji Oka,</u> <u>Michiyasu</u> <u>Nakajima</u>	The Present and Future Possibilities of Natural Capital Accounting in Japanese Companies	29th International Congress on Social and Environmental Accounting Research	St Andrews, Scotland	平成 29 年 8 月
266	<u>Asako</u> <u>Kimura,</u> Hiroyuki Suzuki, <u>Michiyuki</u> <u>Nakajima</u>	Sustainability Management Control Systems in the Context of New Product Development: A Case Study of a Japanese Electronics Company	Melco Management Accounting Seminar	Fukuoka University	平成 29 年 7 月
267	<u>中  島  道  靖</u>	欧州の環境経営の最新動向	第 8 回 MFCA 大会 (日本 MFCA フォーラム)	東京ビックサイト	平成 28 年 12 月
268	<u>Asako</u> <u>Kimura,</u> <u>Michiyasu</u> <u>Nakajima</u>	The Development of Corporate Performance Information on Sustainability: Practice in Japanese Company	EcoBalance 2016	Kyoto Terssa Japan	平成 28 年 10 月
269	<u>Michiyasu</u> <u>Nakajima,</u> <u>Shoji Oka</u>	New Corporate Information on Sustainability Performance, especially on Natural Capital Accounting in Japanese Companies	EcoBalance 2016	Kyoto Terssa Japan	平成 28 年 10 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
270	Bernd Wagner, <u>Michiyasu Nakajima</u>	Future Potentials on Corporate Sustainability Performance Information to Financial Market	EcoBalance 2016	Kyoto Terssa Japan	平成 28 年 10 月
271	<u>Michiyasu Nakajima</u>	Resource Efficiency Management in Japanese Companies	Ringvorlesung: Ressourceneffizienz und Nachhaltigkeit	Hochschule Pforzheim, Germany	平成 28 年 4 月
272	<u>中畠道靖</u>	環境経営における環境管理会計の意義	日本原価計算研究学会 2015 年度産学連携コストフォーラム	関西大学東京センター	平成 28 年 3 月
273	<u>Michiyasu Nakajima, Asako Kimura</u>	How will MFCA make Usefulness on Sustainable Engineering? : Based on practical experiences in Japanese and Southwestern Asian companies	The 2016 International Conference on Industrial Engineering and Operations Management	JW Marriott Hotel, Kuala Lumpur, Malaysia	平成 28 年 3 月
274	<u>Michiyasu Nakajima</u>	Material Flow Cost Accounting needs to collaborate with Data Science to establish Sustainable Management	APWC on CSE Paper ID # 44, Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2015	Shangri-La Fijian Resort, Fiji	平成 27 年 12 月
275	<u>Michiyasu Nakajima</u>	The Development of Environmental Management Accounting :Based on Material Flow Cost Accounting Practices	Management Accounting and Made in China 2025	hanghai national Accounting Institute, China	平成 27 年 11 月
276	<u>中畠道靖, 木村麻子, 岡照二</u>	日本企業における環境経営の意義と課題：東芝へのインタビューを通して	日本管理会計学会 2015 年度全国大会	近畿大学	平成 27 年 8 月
277	<u>岡照二, 中畠道靖</u>	自然資本情報の企業経営における意義と開示情報としての可能性	日本社会関連会計学会 西日本部会	名城大学	平成 27 年 6 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

## 岡 照二

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
278	<u>岡照二</u>	(統一論題報告) 気候変動に伴う企業グループの環境管理会計の展望	日本管理会計学会 2018 年度全国大会	慶應義塾大学	平成 30 年 8 月
279	<u>Shoji Oka</u> , <u>Michiyasu Nakajima</u>	The Present and Future Possibilities of Natural Capital Accounting in Japanese Companies	29th International Congress on Social and Environmental Accounting Research	St Andrews, Scotland	平成 29 年 8 月
280	<u>Michiyasu Nakajima</u> , <u>Shoji Oka</u>	New Corporate Information on Sustainability Performance, especially on Natural Capital Accounting in Japanese Companies	EcoBalance2016	京都府	平成 28 年 10 月
281	<u>岡照二</u> , <u>中嶋道靖</u>	環境会計から自然資本会計への新たな展開：新たな価値評価に向けて	日本原価計算研究学会 第 42 回全国大会	東京都	平成 28 年 8 月
282	<u>中嶋道靖</u> , <u>木村麻子</u> , <u>岡照二</u>	日本企業における環境経営の意義と課題：東芝へのインタビューを通して	日本管理会計学会 2015 年度全国大会	近畿大学	平成 27 年 8 月
283	<u>岡照二</u> , <u>中嶋道靖</u>	自然資本情報の企業経営における意義と開示情報としての可能性	日本社会関連会計学会 西日本部会	名城大学	平成 27 年 6 月

## 岸谷 和広

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
284	<u>Kazuhiro Kishiya</u>	Examining the Influence of Media Usage on Product Placement Effectiveness	2018 American Academy of Advertising Annual Conference	ニューヨーク	平成 30 年 3 月
285	<u>Kazuhiro Kishiya</u>	Examining the Influence of Social Capital on e-WOM Behavior and Brand Experience for SNS Platform	2017 American Marketing Association Summer Educator's Conference	サンフランシスコ	平成 29 年 8 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
286	<u>Kazuhiro</u> <u>Kishiya</u>	Antecedent and Consequences of Value on Embedded Brand Sites on SNSs	16th International Conference on Research in Advertising (ICORIA)	ゲント	平成 29 年 6 月
287	<u>岸谷和広</u>	インターネット媒体における広告効果研究	多国籍企業学会 西部部会	関西大学	平成 28 年 12 月
288	<u>岸谷和広</u>	オンラインと消費者行動	日本商業学会 関西西部部会	大阪文化交流センター	平成 27 年 9 月
289	<u>Kazuhiro</u> <u>Kishiya</u> , Gordon E. Miracle	Examining the Relationships Among National Culture, Individual-Level Cultural Variable and Consumer Attitudes	Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems 19th Annual Conference, KES-2015,	Singapore, Singapore	平成 27 年 9 月
290	<u>岸谷和広</u>	ソーシャルメディア研究の新視点	日本商業学会 全国研究報告会	和歌山大学	平成 26 年 12 月

木村 麻子

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
291	<u>Asako</u> <u>Kimura</u> , Hiroyuki Suzuki, <u>Michiyasu</u> <u>Nakajima</u>	The Role and Development of Sustainability Management Control Systems in the Context of New Product Development	2018 CSEAR North America Conference	Canada, TED ROGERS SCHOOL OF MANAGEMENT	平成 30 年 6 月
292	<u>木村麻子</u> , 北田皓嗣	サステナビリティマネジメントコントロールの構造とその運用	日本原価計算研究学会 2017 年度関東・関西合同部会	ホテルヴィレッジ (栃木)	平成 30 年 3 月
293	<u>Asako</u> <u>Kimura</u> , Hiroyuki Suzuki, <u>Michiyasu</u> <u>Nakajima</u>	Balancing between Environmental and Economic Rationality: Role of Environmental Manager	CSEAR Conference 2017	St. Andrews University	平成 29 年 8 月



法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
294	<u>Asako</u> <u>Kimura</u> Hiroyuki Suzuki, <u>Michiyuki</u> <u>Nakajima</u>	Sustainability Management Control Systems in the Context of New Product Development: A case study on a Japanese	the 29th International Congress on Social and Environmental Accounting Research	University of St Andrews Scotland	平成 29 年 8 月
295	<u>Asako</u> <u>Kimura</u> Hiroyuki Suzuki, <u>Michiyuki</u> <u>Nakajima</u>	Sustainability Management Control Systems in the Context of New Product Development: A Case Study of a Japanese Electronics Company	Melco Management Accounting Seminar	Fukuoka University	平成 29 年 7 月
296	<u>Asako</u> <u>Kimura</u> <u>Michiyasu</u> <u>Nakajima</u>	The Development of Corporate Performance Information on Sustainability: Practice in Japanese Company	EcoBalance 2016	Kyoto Terssa Japan	平成 28 年 10 月
297	<u>Asako Kimura</u>	The Inter- Organizational Cultivation and Penetration of Sustainability Management: The case of Japanese manufacturing company	Centre for Social and Environmental Accounting Research, 28th International Congress	St. Andrews	平成 28 年 8 月
298	<u>木村麻子</u> , <u>小林由典</u>	東芝グループにおける 環境経営の構築と実践	日本原価計算研 究学会 2015 年度 コストフォーラ ム	関西大学	平成 28 年 3 月
299	<u>堺昌彦</u> , <u>木村麻子</u>	制度論的視点からのマ ネジメントコントロ ールシステム：ブランド マネジャー制に対応す る マネジメントコン トロールシステムの設 計に向けて	日本会計研究学 会 第 74 回全国大会	神戸大学	平成 27 年 9 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
300	木村麻子, 挽文字, 田中優希, 西村三保子, 宮本京子	わが国における女性会計学者の現状と課題 (中間報告)	日本会計研究学会 第 74 回全国大会	神戸大学	平成 27 年 9 月
301	中畠道靖, 木村麻子, 岡照二	日本企業における環境経営の意義と課題：東芝へのインタビューを通して	日本管理会計学会 2015 年度全国大会	近畿大学	平成 27 年 8 月
302	木村麻子	MFCA 分析による環境意識の醸成：サプライチェーンへの拡張を含めて	DBS 会計研究会	同志社大学ビジネススクール	平成 27 年 7 月

高井 啓二

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
303	<u>Katsutoshi Yada</u> , <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u> , <u>Kohei Ichikawa</u>	A framework of ASP for shopping path analysis	IEEE Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (IEEE APWC on CSE 2017)	Mana Island Resort and Spa, Fiji	平成 29 年 12 月
304	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , Ken Ishibashi, Bo Wu, Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u>	Global Distribution of Watches: A Network Analysis of Trade Relations	The 2017 IEEE ICDM Workshop on Data Mining for Services	New Orleans, USA	平成 29 年 11 月
305	林賢一, <u>高井啓二</u>	MAR データにおける変数の部分集合に対する情報量規準	統計関連学会連合大会 2016	金沢大学, 石川県	平成 28 年 9 月
306	<u>高井啓二</u>	非単調欠測データに対する正規分布モデルの最尤推定量について	日本行動計量学会 第 43 回大会	首都大学東京	平成 27 年 9 月
307	<u>高井啓二</u>	欠測データ解析入門	日本行動計量学会 第 17 回春の合宿セミナー	東京大学	平成 27 年 3 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
308	<u>高井啓二</u>	MAR と独立性の関係	2014 年度統計関連学会 連合大会	東京大学	平成 26 年 9 月
宮崎 慧					
	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
309	<u>Katsutoshi Yada,</u> <u>Kei Miyazaki,</u> <u>Keiji Takai,</u> <u>Kohei Ichikawa</u>	A framework of ASP for shopping path analysis	IEEE Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (IEEE APWC on CSE 2017)	Mana Island Resort and Spa, Fiji	平成 29 年 12 月
310	<u>Pierre-Yves Donzé,</u> Ken Ishibashi, Bo Wu, Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki,</u> <u>Keiji Takai</u>	Global Distribution of Watches: A Network Analysis of Trade Relations	The 2017 IEEE ICDM Workshop on Data Mining for Services	New Orleans, USA	平成 29 年 11 月
311	<u>宮崎慧</u>	製品カテゴリーと複数ブランド購買の段階型同時分析動的モデルの拡張と識別性について	行動計量学会第 45 回大会	静岡県立大学	平成 29 年 9 月
312	<u>宮崎慧,</u> 猪狩良介, 星野崇宏	直接効用関数による購買選択行動モデルの新しい推定法の提案	日本マーケティング・サイエンス学会 第 100 回研究大会	ホテル阪急エキスポパーク	平成 28 年 11 月
313	<u>宮崎慧</u>	段階推定のマーケティングへの応用について	日本行動計量学会 第 44 回大会	札幌学院大学	平成 28 年 8 月
314	Ken Ishibashi, <u>Kei Miyazaki,</u> <u>Katsutoshi Yada</u>	Verification of effect on next purchase when many vice category products are brought	19th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems - KES 2015	Marina Bay Sands Hotel, Singapore	平成 27 年 9 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

岩崎 拓也

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
315	Ken Ishibashi, <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> , <u>Shota</u> <u>Otomasa</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Comparison of models developed by using data mining technique	IEEE International Conference on System, Man, and Cybernetics	Banff, Canada	平成 29 年 10 月
316	Ken Ishibashi, <u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> , <u>Shota</u> <u>Otomasa</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Variable selection with data mining technique	20th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	York, UK	平成 28 年 9 月
317	<u>Takuya</u> <u>Iwasaki</u> , Norio Kitagawa, <u>Akinobu</u> <u>Shuto</u>	The effect of product market competition on discretionary management forecasts	The International Accounting Section of the American Accounting Association	California, USA	平成 27 年 1 月

千葉 貴宏

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
318	Hikaru Nozaki, Hitomi Fukui, Makoto Okazaki, <u>Takahiro</u> <u>Chiba</u>	How Brand Collaborations Change Customers' Self-Brand Connections to High-Priced Brand	2017 American Marketing Association Summer Marketing Educators' Conference	San Francisco Marriott Marquis, San Francisco, California (CA), United States of America	平成 29 年 8 月
319	Haruka Arimoto, Eitaro Miura, Shiori Watanabe, <u>Takahiro</u> <u>Chiba</u>	Consumer Attitudes Toward Celebrity Advertising: Analysis Through Balance Theory	The 3rd World Conference on Media and Mass Communication 2017 (MEDCOM2017)	Dorsett Grand Subang, Kuala Lumpur, Malaysia	平成 29 年 4 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
320	<u>千葉貴宏</u>	サービスの再購買意図形成における諸概念の検討と新モデルの開発	日本商業学会 (関西西部会報告会)	神戸大学学友会大阪クラブ 大阪凌霜クラブ セミナールーム	平成 28 年 10 月

村上 啓介

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
321	<u>村上啓介</u>	時間制約付きハブ配置 配送計画問題に対する アプローチ	計測自動制御学 会システム・情報 部門学術講演会 2016	滋賀県	平成 28 年 12 月

里村 卓也

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
322	<u>Takuya</u> <u>Satomura</u>	A Duration Model of Customers' Repeated Usage of Multiple Services	40th Annual ISMS Marketing Science Conference	Temple University/ Philadelphia, USA	平成 30 年 6 月
323	<u>里村卓也</u>	複数サービス利用間隔 モデルによる顧客来店 行動の分析	日本マーケティング・サイエンス 学会第 103 回研究 大会	大阪経済大学, 大阪	平成 30 年 6 月
324	<u>Takuya</u> <u>Satomura</u>	A Duration Model of Customers' Repeated Usage of Multiple Services	40th Annual ISMS Marketing Science Conference	Temple University Philadelphia, USA	平成 30 年 6 月
325	<u>里村卓也</u>	行動・心理データの融 合による顧客行動分析	日本商業学会関 東部会研究会	専修大学	平成 29 年 3 月
326	<u>里村卓也</u>	行動・心理データの融 合による顧客行動分析	南山大学経営研 究センターワー クショップ「消費 者行動」	南山大学	平成 29 年 3 月
327	<u>Takuya</u> <u>Satomura</u>	Evaluation of Topic Quality for Shopper Insights	International Workshop on Marketing Science and Service Research	Tokyo University	平成 28 年 12 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
328	河塚悠, 河股久司, <u>里村卓也</u> , 守口剛, 白井康之	リンク分析アルゴリズムを応用した”早慶らしさ”の数量化	日本マーケティング・サイエンス学会 第100会研究大会	大阪大学	平成28年11月
329	<u>Takuya</u> <u>Satomura</u> , Daisuke Nogiwa, Eisaku Sato, Hiroshi Nakamura, Tsuyoshi Moriguchi	消費者選択行動モデルを利用した購買トピックの分析	2016年度統計関連学会 連合大会	金沢大学	平成28年9月
330	<u>Takuya</u> <u>Satomura</u> , Daisuke Nogiwa, Eisaku Sato, Hiroshi Nakamura, Tsuyoshi Moriguchi	Latent Purchase Topic Models For Turning Purchase Data Into Shopper Insights	ISMS Marketing Science Conference	Fudan University, Shanghai, China	平成28年6月
331	<u>里村卓也</u> , 野際大介, 佐藤栄作, 中村博, 守口剛	Latent Purchase Topic Models For Turning Purchase Data Into Shopper Insights	第99回日本マーケティング・サイエンス学会 第99回研究大会	東北大学	平成28年6月
332	<u>里村卓也</u> , 野際大介, 佐藤栄作, 中村博	購買履歴データを用いた顧客別購買トピックの分析	第50回消費者行動研究コンファレンス	神戸大学	平成27年6月
333	<u>里村卓也</u>	消費者の離散・連続選択モデルの研究	南山大学経営研究センター消費者行動ワークショップ	南山大学,名古屋 市	平成27年3月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
334	里村卓也, 野際大介, 佐藤栄作, 中村博	チャンネル別の特性を考慮した カテゴリ購買経験分析とトピックモデルによる購買テーマ分析	経営科学系研究部会連合協議会 主催平成 26 年度データ解析コンペティション成果報告会	リクルート GINZA 8 ビル, 中央区,東京都	平成 27 年 3 月

## 岡田 謙介

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
335	北條大樹, 岡田謙介	反応傾向バイアスに対処するための新たな係留寸描法データ分析モデル	日本計算機統計学会第 30 回シンポジウム講演論文集, 11-14	静岡県	平成 28 年 11 月
336	岡田謙介, 星野崇宏	実験条件を増やすと効果量は小さくなる—「効果量ハッキング」の危険性とその対処法について—	日本教育心理学会第 58 回総会発表論文集, 564	香川大学	平成 28 年 10 月
337	岡田謙介	心理学・行動科学におけるベイジアンモデリング	日本行動計量学会第 44 回大会チュートリアルセミナー	札幌学院大学	平成 28 年 8 月
338	Kensuke Okada, Michael D. Lee, Joachim Vandekerckhove	Modeling number of answered items in Large-scale online surveys	Abstract Booklet of the 49th Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology, 42-43	New Jersey, USA	平成 28 年 8 月
339	T. Tanaka, Machia Okubo, Yoshihiko Kunisato, Kensuke Okada	A hierarchical diffusion model account of the gaze cueing paradigm	Abstract Booklet of the 49th Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology, 63	New Jersey, USA	平成 28 年 8 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
340	Daiki Hojo, <u>Kensuke Okada</u>	Bayesian multidimensional item response models for measuring response styles using anchoring vignettes	Abstract Booklet of the 49th Annual Meeting of the Society for Mathematical Psychology, 65	New Jersey, USA	平成 28 年 8 月
341	北條大樹, <u>岡田謙介</u>	係留寸描法データのベイズ多次元 IRT モデル	日本行動計量学会第 44 回大会発表論文抄録集, CA1-10	札幌学院大学	平成 28 年 8 月
342	高橋雄介, <u>岡田謙介</u>	調査データの回答バイアスの補正方法としての係留寸描法の有効性	2016 年度人工知能学会全国大会論文集, 3B3-NFC-05a-2	北九州国際会議場	平成 28 年 6 月

佐野 夏樹

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
343	<u>佐野夏樹</u>	モデルの判別精度によるグローバルリコーディングの有用性評価	科研費研究集会「政府統計マイクロデータの構造化と研究利用プラットフォームの形成」	統計数理研究所(東京都立川市)	平成 31 年 1 月
344	<u>Natsuki Sano</u> , Sari Aoki, Yusuke Ariyoshi	Social Media Marketing for Regional Activation: Case Study on the Onomichi Vacant Housing Renewal Project	5th Asia-Pacific World Congress on Computing Science 2018	Fiji	平成 30 年 12 月
345	Bin-Yu Peng, So-Tsung Chou, Chou-Yuan Lee, Kuo-Chung Chu, <u>Natsuki Sano</u> , Zne-Jung Lee	An Integrated Analytics Model Applied to Power Consumption	The 10th International Conference on Advanced Computational Intelligence 2018	Xiamen City Hotel (Xiamen, China)	平成 30 年 3 月



法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
346	<u>Natsuki Sano</u> , Fuminori Kimura	Estimation of customer questionnaire responses from purchase transaction data using canonical correlation analysis	21th International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering Systems	Aix-Marseille University (Marseille, France)	平成 29 年 9 月
347	Yue Li, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	A Study on the Measurement Precision of the Binary Data	Asian Network for Quality Congress 2016	Far East Federal University, Vladivostok, Russia	平成 28 年 9 月
348	Kenta Yoshida, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Defect Detection for Image Data Using Machine Learning and Image Processing	Asian Network for Quality Congress 2016	Far East Federal University, Vladivostok, Russia	平成 28 年 9 月
349	Yuki Bando, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Evaluation of Relationship between Pairing and Number of Rounds in Swiss System Tournament	Asian Network for Quality Congress 2016	Far East Federal University, Vladivostok, Russia	平成 28 年 9 月
350	Tatsuya Iwasawa, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Defect Detection from Image Data with Feature Extraction using Orthogonal Array	Asian Network for Quality Congress 2016	Far East Federal University, Vladivostok, Russia	平成 28 年 9 月
351	Junya Ono, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Analysis of Winning Percentage in Sports Based on a Statistical Model	Asian Network for Quality Congress 2016	Far East Federal University, Vladivostok, Russia	平成 28 年 9 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
352	Ryo Suzuki, Yuzuru Hayashi, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka, Tomomichi Suzuki	Statistical Analysis of Influenza Spreading Pattern Using Pharmaceutical Data in Tochigi Prefecture, Japan	Asian Network for Quality Congress 2016	Far East Federal University, Vladivostok, Russia	平成 28 年 9 月
353	<u>Natsuki Sano</u> , Reo Tsutsui, <u>Katsutoshi Yada</u> , Tomomichi Suzuki	Clustering of Customer Shopping Paths in Japanese Grocery Stores	20th International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering Systems	Park Inn by Radisson, York, UK	平成 28 年 9 月
354	<u>Natsuki Sano</u> , Yuki Mori, Tomomichi Suzuki	Defect Detection Using Two-dimensional Moving Range Filter and Unanimous Vote among Color Component Classifiers	The 3rd Multidisciplinary International Social Networks Conference on Social Informatics 2016	Kean University, New Jersey, USA	平成 28 年 8 月
355	Tomomichi Suzuki, Tatsuya Iwasawa, Kenta Yoshida, <u>Natsuki Sano</u> , Mirai Tanaka	Integrating Statistical and Machine Learning Approaches in Improving Inspection Process	XIIth International Workshop on Intelligent Statistical Quality Control 2016	Helmut Schmidt University, Hamburg, Germany	平成 28 年 8 月
356	Wataru Hasegawa, <u>Natsuki Sano</u> , Tomomichi Suzuki	Clarification of the Relationship between the State of Elderly and Provided Care to Assist Designing Care Plans	Asian Network for Quality Congress 2015	Chientan Activity Center, Taipei, Taiwan	平成 27 年 9 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
357	<u>Natsuki Sano</u> , Natsumi Machino, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , Tomomichi Suzuki	Recommendation system for grocery store considering data sparsity	19th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems – KES 2015	Marina Bay Sands Hotel , Singapore	平成 27 年 9 月
358	鈴木知道, <u>佐野夏樹</u> , 片倉彰優, 宮沢麗	質的データの測定精度 評価に関する研究	日本品質管理学 会 第 107 回研究発表 会	東京(杉並区), (社)日本科学 技術連盟	平成 27 年 5 月
359	<u>佐野夏樹</u> , 東中薫, 鈴木知道	直交表を用いたサポ ートベクター回帰の効率 的なハイパーパラメ ータ設定	日本品質管理学 会 第 107 回研究発表 会	東京(杉並区), (社)日本科学 技術連盟	平成 27 年 5 月
360	池田亮介, <u>佐野夏樹</u> , 小谷明, 林譲, 鈴木知道	回帰 2 進木法を用いた 学力と実験能力の関係 性に関する研究	日本品質管理学 会 第 44 回年次大会 研究発表会	東京都市大学, 東京, 日本	平成 27 年 5 月
361	<u>佐野夏樹</u> , 山中正彦	製品カテゴリーの基盤 分類と時系列動向	日本マーケティ ング・サイエンス 学会 第 96 回研究大会	筑波大学, 東 京, 日本	平成 26 年 11 月
362	<u>Natsuki Sano</u> , Kaori Higashinaka, Tomomichi Suzuki	Efficient Parameter Selection for Support Vector Regression Using Orthogonal Array	2014 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics	San Diego, USA	平成 26 年 11 月
363	Tomomichi Suzuki, Yusuke Tsutsumi, <u>Natsuki Sano</u>	International Standardization in Capability of Detection	Advanced Mathematical and Computational Tools in Metrology and Testing 2014	St. Petersburg, Russia	平成 26 年 9 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
364	<u>Natsuki Sano</u> , Syusuke Tamura, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , Tomomichi Suzuki	Evaluation of Price Elasticity and Brand Loyalty in Milk Products	18th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	Gdynia, Poland	平成 26 年 9 月
365	Ryosuke Ikeda, <u>Natsuki Sano</u> , Akira Kotani, Yuzuru Hayashi, Tomomichi Suzuki	The Relationship between Academic Achievement in the Chemistry and Experimental Ability	Asian Network for Quality Congress 2014	Singapore	平成 26 年 8 月
366	<u>Natsuki Sano</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , Tomomichi Suzuki	Category Evaluation Method for Business Intelligence Using a Hierarchical Bayes Model	13th IEEE International Conference on Cognitive Informatics & Cognitive Computing	Singapore	平成 26 年 8 月

## 塩地 洋

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
367	<u>塩地洋</u>	深刻化する太平洋島嶼 国放置車両問題	アジア経営学会第 25 回全国大会自 由論題	同志社大学	平成 30 年 9 月
368	<u>塩地洋</u>	国際比較歴史分析によ る自動車部品国産化ラ イフサイクル	経営史学会第 54 回全国大会自由 論題	京都大学	平成 30 年 9 月
369	<u>塩地洋</u>	輸出主導型育成めざす モロッコ自動車産業： 国際比較による特質分 析-	多国籍企業研究 会 第 11 回全国大会	関西大学	平成 30 年 7 月
370	<u>塩地洋</u>	輸出主導型育成めざす モロッコ自動車産業－ 国際比較による特質分 析－	26th International Colloquium of GERPISA	ブラジル・サン パウロ大学	平成 30 年 6 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
371	<u>塩地洋</u>	Abandoned Vehicles Problem in Pacific Ocean Islands Countries	日本経営学会関西西部会	日本経営学会関西西部会	平成 30 年 5 月
372	<u>塩地洋</u>	フィジー放置車両調査 (2018 年 3 月)報告	アジア経営学会西部部会	近畿大学	平成 30 年 4 月
373	<u>塩地洋</u>	Used Vehicles Distribution in China	JICA マレーシア環境配慮・資源循環型自動車リサイクルシステム構築のための技術者,経営者,行政官育成研修プログラム	金沢市	平成 29 年 12 月
374	<u>塩地洋</u>	太平洋島嶼国における放置車両問題の解決に向けて	京都大学東アジア経済研究センターアジア自動車シンポジウム	京都大学	平成 29 年 11 月
375	<u>塩地洋</u>	1970 年代～2000 代のトヨタ自動車の中国事業一元トヨタ自動車中国事務所総代表服部悦雄氏口述記録に基づく分析	経営史学会全国大会	福井県立大学	平成 29 年 10 月
376	<u>塩地洋</u>	自動車産業における部品国産化ライフサイクル	自動車国際フォーラム	東京	平成 29 年 10 月
377	<u>塩地洋</u>	太平洋島嶼国における放置車両問題の解決に向けて	アジア経営学会全国大会	東北大学	平成 29 年 9 月
378	<u>塩地洋</u>	輸出国との協力による自動車リサイクルプロセスの新しい国際分業－太平洋島嶼国における放置車両問題の解決に向けて	太平洋諸島学会研究大会	東京大学	平成 29 年 7 月
379	<u>塩地洋</u>	自動車産業における部品国産化ライフサイクル	多国籍企業学会全国大会	日本大学	平成 29 年 7 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
380	<u>塩地洋</u>	太平洋島嶼国における 放置車両問題の解決に 向けて	産業学会全国大 会(於機械振興協 会)	産業学会全国 大会(於機械振 興協会)	平成 29 年 6 月
381	<u>塩地洋</u>	Parts Localization Lifecycle in the Auto Industry	25th International Colloquium of GERPISA	ランス・パリ カッション大 学	平成 29 年 6 月
382	<u>塩地洋</u>	新興国におけるモータ リゼーション	アジア経営学会 全国大会	立命館大学, 茨 木市	平成 27 年 9 月
383	<u>Hiromi Shioji</u>	Luxury Vehicle Market in Brazil: The Different Type of the Development	WORLD ECONOMIC HISTORY CONFERENCE	国立国際会議 場, 京都市	平成 27 年 8 月
384	Eiko Tomiyama, <u>Hiromi Shioji</u>	Hyundai Motor's "Selective Focused Local Adaptation Strategy" and the Product Planning and Development Process	23rd Gerpisa International Colloquium	Ecole Nomale Supérieure de Cachan, パリ, フランス:	平成 27 年 6 月
385	<u>Hiromi Shioji</u>	Competitiveness of the Japanese, Korean, and Chinese Automobile Industries	INNOVATION IN THE EAST ASIAN AUTOMOTIVE INDUSTRY	University of Duisburg-Essen デュースブル グ, ドイツ	平成 27 年 6 月
386	<u>塩地洋</u>	新興国におけるモータ リゼーション	アジア経営学会 中部部会	龍谷大学, 京都 市	平成 27 年 4 月

ピエール＝イヴ、ドンゼ

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
387	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , <u>Rika Fujioka</u>	The formation and the development of the Japanese apparel industry (1945-1990)	European Business History Association 22nd Annual Congress	Ancona, Italy	平成 30 年 9 月
388	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , Ken Ishibashi, Bo Wu, Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u>	Global Distribution of Watches: A Network Analysis of Trade Relations	The 2017 IEEE ICDM Workshop on Data Mining for Services	New Orleans, USA	平成 29 年 11 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
389	<u>Pierre-Yves Donzé</u>	Global value chains and fashion accessories: the case of the US watch company Fossil	First World Congress of Business History	Bergen, Norway	平成 28 年 8 月
390	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , Ben Wubs	LVHM: Storytelling and Organizing Creativity in Luxury and Fashion	Joint conference of the Association of Business Historians (ABH) and the Gesellschaft für Unternehmensgeschichte (GUG)	Berlin, Germany	平成 28 年 5 月
391	<u>Pierre-Yves Donzé</u>	Introduction	Global Luxury: Organizational Change and Emerging Markets in the Luxury Industry since the 1970s	Neuchatel, Switzerland	平成 26 年 11 月

鷺尾 隆

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
392	Yuka Yoneda, Mahito Sugiyama, <u>Takashi Washio</u>	Learning Graph Representation via Formal Concept Analysis	Thirty-second Conference on Neural Information Processing Systems (NIPS) 2018 Workshop	Montréal, Canada	平成 30 年 12 月
393	米田友花, 杉山磨人, <u>鷺尾隆</u>	近傍法と形式概念解析を用いた階層的構造の学習	社団法人電子情報通信学会, 2018 年 IBIS ワークショップ予稿	北海道大学工学部	平成 30 年 11 月
394	<u>Takashi Washio</u>	Measurement Oriented Machine Learning for Advanced Sensing Technologies	4th Asia-Pacific World Congress on Computing Science 2017 (APWC on CSE 2017)	Mana Island Resort & Spa, Fiji	平成 29 年 12 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
395	<u>鷺尾隆</u>	機械学習の現状と先端IoTセンシングへの適用展望	日本オペレーションズ・リサーチ学会 2017年秋季研究発表会	関西大学 千里山キャンパス	平成 29 年 9 月
396	Hiroki Fukuda, <u>Takashi Washio</u> , Masafumi Kitakaze	How to mathematize the relationship between the clinical factors and outcomes in patients with heart failure – Proposal of precise medicine	第 81 回日本循環器学会学術集会	石川県立音楽堂	平成 29 年 3 月
397	Shigeki Takeuchi, <u>Takashi Washio</u>	Quantum state estimation and discrimination	SPIE Photonics West OPTO: Advances in Photonics of Quantum Computing, Memory, and Communication X	California, United States	平成 29 年 2 月
398	<u>Takashi Washio</u>	Potential Social Impact of Compact and Smart Sensors in IoT Era	Proc. of HICCS: The 50th Hawaii International Conference on System Sciences	Hawaii, United States	平成 29 年 1 月
399	<u>Takashi Washio</u>	Comparative Research on Social Risk Reduction by Smart Hazard Monitoring Sensors	Proc. of HICCS: The 50th Hawaii International Conference on System Sciences	Hawaii, United States	平成 29 年 1 月
400	<u>Takashi Washio</u>	Defying the Gravity of Learning Curves: Are More Samples Better for Nearest Neighbor Anomaly Detectors?	SISAP 2016: 9th International Conference on Similarity Search and Applications	National Institute of Informatics (NII), Tokyo	平成 28 年 10 月



法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
401	安並一浩, <u>鷺尾隆</u>	太陽光発電出力推定手法の精度向上に向けた取り組み	平成 28 年度電力技術・電力系統技術合同研究会, セッション名称: 【分散電源】再エネ出力予測	福井大学	平成 28 年 9 月
402	<u>Takashi</u> <u>Washio</u>	NanoScale and Ultratrace Sensing for IoT using Machine Learning	KES2016: 20th Annual Conference on Knowledge Based and Intelligent Information & Engineering Systems	York, United Kingdom	平成 28 年 9 月
403	安並一浩, <u>鷺尾隆</u>	太陽光発電出力のサンプル値を用いた太陽光発電出力推定手法	平成 28 年電気学会 電力・エネルギー部門大会 (第 27 回)	九州工業大学 戸畑キャンパス	平成 28 年 9 月
404	谷口正輝, 川合知二, 筒井真楠, 横田一道, <u>鷺尾隆</u>	1 分子 DNA シークエンサーが生み出すビッグデータ	第 30 回人工知能学会 全国大会 (2016)	北九州国際会議場	平成 28 年 6 月
405	馬場祥人, 杉山磨人, <u>鷺尾隆</u>	サンプリングを用いた精度保証つき頻出パターンマイニング	第 30 回人工知能学会 全国大会 (2016)	北九州国際会議場	平成 28 年 6 月
406	原聡, 小野貴史, 岡本亮, <u>鷺尾隆</u> , 竹内繁樹	機械学習を用いた量子状態異常検知	第 30 回人工知能学会 全国大会 (2016)	北九州国際会議場	平成 28 年 6 月
407	岡滉, 河原吉伸, <u>鷺尾隆</u>	大規模スイッチング線形動的システムの確率的変分推論	第 30 回人工知能学会 全国大会 (2016)	北九州国際会議場	平成 28 年 6 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
408	吉田剛, <u>鷺尾隆</u> , 石井陽, 川合知二, 谷口正輝, 筒井真楠, 横田一道	機械学習を用いたナノデバイス出力パルス波形による生体識別技術の開発	第 30 回人工知能学会 全国大会 (2016)	北九州国際会議場	平成 28 年 6 月
409	宮澤桂, 河原吉伸, <u>鷺尾隆</u>	潜在グループ正則化学習におけるグループ構造の自動発見	第 30 回人工知能学会 全国大会 (2016)	北九州国際会議場	平成 28 年 6 月
410	<u>鷺尾隆</u>	機械学習による先端センシングデバイスの実現	日本計算機統計学会 第 30 回大会	ハートピア京都	平成 28 年 5 月
411	Takeshi Yoshida, <u>Takashi Washio</u> , Akira Ishii, Tomoji Kawai, Masateru Taniguchi, Makusu Tsutsui, Kazumichi Yokota	Identification of Microorganisms Using Machine Learning Based on Nanopore Sensing Output	ImPACT Mitata PM International Symposium on InSECT 2016	名古屋大学	平成 28 年 4 月
412	谷口正輝, 横田一道, 筒井真楠, <u>鷺尾隆</u> , 川合知二	ナノバイオデバイスと機械学習の融合による細菌・ウイルス識別	日本化学会 第 96 春季年会 (2016)	同志社大学 京田辺キャンパス	平成 28 年 3 月
413	安並一浩, <u>鷺尾隆</u>	PV 発電出力推定手法の推定精度と時間分解能の関係	平成 28 年電気学会 全国大会論文集	東北大学 川内北キャンパス	平成 28 年 3 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
414	Sunil Aryal, Kai Ming Ting, Gholamreza Haffari, <u>Takashi</u> <u>Washio</u>	Beyond tf-idf and cosine distance in documents dissimilarity measure	In Information Retrieval Technology Volume 9460 of the series Lecture Notes in Computer Science: Proceedings of the 11th Asia Information Retrieval Societies Conference (AIRS 2015)	Queensland, Australia	平成 27 年 12 月
415	Kazuhiro Yasunami, <u>Takashi</u> <u>Washio</u>	Applicability of a PV Power Output Estimation Method using Low Sampling Rates	The Proceedings of International Workshop on Time Series Data Analysis and its Applications (TSDAA 2015)	Keio University, Kanagawa	平成 27 年 11 月
416	Kazuhiro Yasunami, <u>Takashi</u> <u>Washio</u>	An Accuracy Evaluation of PV Power Output Estimation Method Using Covariance between Solar Radiation Intensity and Power Flow	Proc. of IEEE Power and Energy Society ISGT (Innovative Smart Grid Technology) Asia 2015	Bangkok, Thailand	平成 27 年 11 月
417	Kazuhiro Yasunami, <u>Takashi</u> <u>Washio</u>	An Estimation Method of PV Power Output in Electric Power Systems by using Covariance between Solar Radiation Intensity and Power Flow	International Conference on Electrical Engineering (ICEE) 2015	The University of Hong Kong, Pokfulam, Hong Kong	平成 27 年 7 月
418	岡滉, 河原吉伸, 鷺尾隆	市場機構の変化を考慮 したポートフォリオ選 択	第 9 回人工知能学 会 全国大会 (2015)	函館未来大学	平成 27 年 5 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
419	馬場祥人, 杉山麿人, <u>鷺尾隆</u>	サンプリングを用いた 高速頻出パターンマイ ニング	第9回人工知能学 会 全国大会 (2015)	函館未来大学	平成 27 年 5 月
420	Sunil Aryal, Kai Ming Ting, Gholamreza Haffari, <u>Takashi</u> <u>Washio</u>	mp-dissimilarity: A data dependent dissimilarity measure	ICDM2014:IEEE International Conference on Data Mining, DM570 (2014)	Shenzhen, China	平成 26 年 12 月
421	Hideaki Suwa, Atsushi Nakano, Akira Hunada, Takahiro Ohara, Yasuo Sugano, Takuya Hasegawa, Hideaki Kanzaki, Toshihisa Anzai, <u>Takashi</u> <u>Washio</u> , Masafumi Kitakaze	The impact of the plasma BNP levels for the prediction of re-hospitalization in the management of patients with heart failure	心不全学会大会, O-108 (2014)	大阪府	平成 26 年 10 月
422	安並一浩, <u>鷺尾隆</u>	太陽光発電出力変動分 析のための相互関係 数推定手法の検証	平成 26 年電気学 会電力・エネルギ ー部門大会, Vol. 9 (6), pp.11-12 (2014)	京都府	平成 26 年 9 月
423	Demeshko Marina, <u>Washio</u> <u>Takashi</u> Kawahara Yoshinobu, Pepyolshev Yuriy	Application of a Continuous Time Structural ARMA Modeling to Stability Analysis of a Nuclear Reactor	第 28 回人工知能 学会 全国大会, 2G1-4 (2014)	愛媛県	平成 26 年 5 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
424	掃部健, 河原吉伸, <u>鷺尾隆</u>	構造正則化学習を用いた混雑シーンにおける異常検知	第 28 回人工知能学会 全国大会, 2F3-3 (2014)	愛媛県	平成 26 年 5 月
425	河原吉伸, 岡田省吾, 武田朗子, <u>鷺尾隆</u>	Componentwise カーネル学習を用いたポートフォリオ選択	第 28 回人工知能学会 全国大会, 2F3-5 (2014)	愛媛県	平成 26 年 5 月
426	田中直樹, <u>清水昌平</u> , <u>鷺尾隆</u>	潜在クラスが存在する場合のベイズ的アプローチによる非ガウス因果構造推定法	第 28 回人工知能学会 全国大会, 2G1-3 (2014)	愛媛県	平成 26 年 5 月
427	Sunil Aryal, Kai Ming Ting, Jonathan Wells, <u>Takashi Washio</u>	Improving iForest with relative mass	PAKDD2014: The 18th Pacific-Asia Conference on Knowledge Discovery and Data Mining, pp.510-521 (2014)	Tainan, Taiwan	平成 26 年 5 月
428	Patrick Blöbaum, <u>Shohei Shimizu</u> , <u>Takashi Washio</u>	A performance comparison of generative and discriminative models in causal and anticausal problems	Seventeenth International Conference on Artificial Intelligence and Statistics, L008 (2014)	Reykjavik, Iceland	平成 26 年 4 月

清水 昌平

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
429	<u>清水昌平</u>	因果探索入門	日本行動計量学会 第 20 回春の合宿セミナー	滋賀	平成 30 年 2 月
430	<u>清水昌平</u>	因果探索への招待	電子情報通信学会 IA(インターネットアーキテクチャ)/IN(情報ネットワーク)併催研究会	広島	平成 29 年 12 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
431	<u>清水昌平</u>	機械学習による因果仮説探索.	メディカルデータサイエンス人材育成プログラム キックオフシンポジウム「健康医療イノベーションにおける観察研究の意義と活用」	大阪	平成 29 年 11 月
432	<u>Shohei Shimizu</u>	Causal discovery and prediction mechanisms	France/Japan Machine Learning Workshop	Paris, France	平成 29 年 9 月
433	<u>清水昌平</u>	統計的因果推論への招待 - 因果構造探索を中心に	システム制御情報学会・計測自動制御学会 チューリヤル講座 2017, 大阪.	大阪	平成 29 年 7 月
434	<u>清水昌平</u>	因果推論入門-因果構造探索を中心に	情報処理学会連続セミナー 2017 「イノベーション最前線: 2020 年を超えて生き抜くための技術を探る」 第 2 回「人工知能の基盤技術」, 東京.	東京	平成 29 年 7 月
435	<u>清水昌平</u>	AI 最前線	陵水会大阪支部総会	大阪	平成 29 年 7 月
436	芳賀麻誉美, <u>清水昌平</u>	関係流動性と消費者自民族中心主義の因果構造分析～非ガウス性を使った因果推論	日本マーケティング・サイエンス学会 第 100 回研究大会	大阪府	平成 28 年 11 月
437	<u>Shohei Shimizu</u>	A non-Gaussian approach for causal structure learning in the presence of hidden common causes	CRM Workshop: Statistical Causal Inference and its Applications to Genetics	Montreal, Canada	平成 28 年 7 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
438	<u>Shohei Shimizu</u>	A non-Gaussian model for causal discovery in the presence of hidden common causes	Munich Workshop on Causal Inference and Information Theory	Munich, Germany	平成 28 年 5 月
439	<u>清水昌平</u>	因果探索: 基本から最近の発展までを概説	第 23 回情報論的学習理論と機械学習研究会 (IBISML)	東京都	平成 28 年 3 月
440	<u>Shohei Shimizu</u>	Non-Gaussian structural equation models for causal discovery	2016 Probabilistic Graphical Model Workshop: Sparsity, Structure and High-dimensionality, Institute of Statistical Mathematics	Tokyo, Japan	平成 28 年 3 月
441	<u>Shohei Shimizu</u>	因果探索: 観察データから因果仮説を探索する	日本社会心理学会第 3 回春の方法論セミナー	東京都	平成 28 年 3 月
442	<u>清水昌平</u>	因果探索と非ガウス性	第 11 回協定講座シンポジウム: 計算科学とビジュアル・アナリティクス	神戸市	平成 28 年 3 月
443	<u>Shohei Shimizu</u>	Statistical estimation of causal directions based on observational data	The 3rd CiNet Conference - Neural Mechanism of Decision Making: Achievements and New Directions	Osaka, Japan	平成 28 年 2 月
444	<u>Shohei Shimizu</u>	Non-Gaussian methods for causal discovery	International Workshop on Causal Inference	Tokyo, Japan	平成 28 年 1 月
445	<u>清水昌平</u>	因果探索: データから因果の方向性等を調べる	日本行動計量学会 第 43 回大会	東京都	平成 27 年 9 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
446	<u>清水昌平</u>	非ガウス性を利用した因果構造探索	2015年日本生態学会関東地区会シンポジウム「非ガウス性／非線形性／非対称性からの因果推論手法：その使いどころ・原理・実装を学ぶ」	東京都	平成27年8月
447	田中直樹, <u>清水昌平</u> , <u>鷺尾隆</u>	潜在クラスが存在する場合のベイズ的アプローチによる非ガウス因果構造推定法	第28回人工知能学会全国大会, 2G1-3 (2014)	愛媛県	平成26年5月
448	Patrick Blöbaum, <u>Shohei Shimizu</u> , <u>Takashi Washio</u>	A performance comparison of generative and discriminative models in causal and anticausal problems	Seventeenth International Conference on Artificial Intelligence and Statistics, L008 (2014)	Reykjavik, Iceland	平成26年4月

## 椎葉 淳

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
449	三輪一統, 村上裕太郎, <u>椎葉淳</u> , 田口聡志	Contract Rigidity and Timeliness of Accounting Information	30th Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues	San Francisco, California, U.S.A.	平成30年11月
450	小野慎一郎, <u>椎葉 淳</u> , 村宮克彦	会計測定とバリュートラップ	日本経営財務学会・第42回全国大会	一橋大学	平成30年10月
451	<u>Atsushi Shiiba</u>	A Theory of Tax Avoidance and Geographic Segment Disclosure	日本ディスクロージャー研究学会 第2回 JARDIS ワークショップ	北九州市立大学	平成29年3月
452	Ikuko Sasaki, Kunimaru Takahashi, <u>Atsushi Shiiba</u>	The Supplier-Customer Relationship and Cost Structure in Japan	25th Asian-Pacific Conference on International Accounting Issues	Maui, Hawaii	平成28年11月



法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
453	Yoshikazu Ishinagi, <u>Atsushi Shiiba</u>	Manager's Forecasting Strategy and Project Complexity	Asia-Pacific Management Accounting Association, The 8th Annual Forum	Sherwood Taipei, Taipei, Taiwan	平成 28 年 10 月
454	Yutaro Murakami, <u>Atsushi Shiiba</u>	Voluntary Disclosure and Value Relevance of Segment Information	American Accounting Association, Annual Meeting	New York, U.S.A.	平成 28 年 8 月
455	村宮克彦, <u>椎葉淳</u>	What Moves Firm Values?	日本ディスクロ ージャー研究学 会 第 1 回 JARDIS ワ ークショップ	県立広島大学	平成 28 年 3 月
456	<u>椎葉淳</u>	コスト構造と企業リス ク：近年の理論・実証 研究からの示唆	2015 年度管理会 計学会 全国大会	近畿大学 東大阪キャン パス	平成 27 年 8 月
457	<u>椎葉淳</u>	コスト構造と企業リス ク	管理会計学会	近畿大学 東大阪キャン パス	平成 27 年 8 月
458	<u>Shota</u> <u>Otomasa</u> , <u>Atsushi</u> <u>Shiiba</u> , <u>Akinobu</u> <u>Shuto</u>	The Sensitivity of Directors' Cash Compensation to the Performance Measures of Forecast-based Benchmark	Handai Accounting Research Seminar (HARS)	大阪大学	平成 27 年 3 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

廣瀬 慧

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
459	Sadanobu Mizusako, Hiromichi Nagao, <u>Kei Hirose</u> , Masayuki Kano, Muneo Hori, Shinichi Sakai, Shigeki Nakagawa, Ryou Honda, Hisanori Kimura, Naoshi Hirata	Data-driven imaging of seismic wave field in the Tokyo metropolitan area based on lasso.	AOGS (Asia Oceania Geosciences Society) 12th Annual Meeting	Suntec Singapore Convention and Exhibition Centre, Singapore	平成 27 年 8 月
460	Sadanobu Mizusako, Hiromichi Nagao, Masayuki Kano, <u>Kei Hirose</u> , Muneo Hori	Imaging ground motions in the Tokyo metropolitan area from MeSO-net seismograms based on LASSO.	The 4th International Symposium on Data Assimilation	RIKEN AICS, Kobe, Japan	平成 27 年 2 月
461	<u>Kei Hirose</u> , Michio Yamamoto	Estimation of factor correlation in penalized likelihood factor analysis.	The 7th International Conference of the ERCIM WG on COMPUTING & STATISTICS (ERCIM 2013)	University of Pisa, Italy	平成 26 年 12 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
462	Sadanobu Mizusako, Hiromichi Nagao, Masayuki Kano, <u>Kei Hirose</u> , Muneo Hori	Imaging ground motions in the Tokyo metropolitan area based on MeSO-net using lasso.	AGU (American Geophysical Union) Fall Meeting	Moscone Convention Center, San Francisco, USA	平成 26 年 12 月
463	<u>Kei Hirose</u> , Micho Yamamoto (招待講演)	Extension of Rotation Technique via Penalization in Factor Analysis Model.	International Conference on Advances in Interdisciplinary Statistics and Combinatorics (AISC 2014)	Greensboro, USA	平成 26 年 10 月
464	<u>Kei Hirose</u> , Michio Yamamoto	Lasso-type penalized maximum likelihood factor analysis via nonconvex penalties.	The 3rd Institute of Mathematical Statistics Asia Pacific Rim Meeting (APRM 2014)	Howard International House, Taipei	平成 26 年 7 月

市川 昊平

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
465	Kundjanasith Thonglek, <u>Kohei Ichikawa</u> , Chatchawal Sangkeetrakarn	Auto-Scaling Apache Spark Cluster using Deep Reinforcement Learning	International Conference on Optimization and Learning 2019	Bangkok, Thailand	平成 31 年 1 月
466	佐伯幸郎, 福安直樹, 神田哲也, 市川昊平, 吉田真一, 中村匡秀, 楠本真二	自動発注問題を題材とした実践的人材育成コースにおける授業改善の報告	第 5 回 実践的 IT 教育シンポジウム (rePiT2019)	松山市	平成 31 年 1 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
467	Panida Khuphiran, Pattara Leelaprute, Putchong Uthayopas, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Wassapon Watanakeesun torn	Performance Comparison of Machine Learning Models for DDoS Attacks Detection	The 22nd International Computer Science and Engineering Conference (ICSEC 2018)	Chiang Mai, Thailand	平成 30 年 11 月
468	<u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Atsuko Takefusa, Yoshiyuki Kido, Yasuhiro Watahshiba, Susumu Date	Integrating PRAGMA-ENT and Inter-Cloudusing Dynamic L2VLAN Service	The 35th PRAGMA workshop	Penang, Malaysia	平成 30 年 10 月
469	Wassapon Watanakeesun torn, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Jason Haga, Gerald Pao, Erik Saberski	rEDM Code Acceleration with ABCI Supercomputer	The 35th PRAGMA workshop	Penang, Malaysia	平成 30 年 10 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
470	Sachio Saiki, Naoki Fukuyasu, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Tetsuya Kanda, Masahide Nakamura, Shinsuke Matsumoto, Shinichi Yoshida, Shinji Kusumoto	A Study of Practical Education Program on AI, Big Data, and Cloud Computing through Development of Automatic Ordering System	The 3rd IEEE/ACIS International Conference on Big Data, Cloud computing, and Data Science Engineering (BCD 2018)	Tottori, Japan	平成 30 年 7 月
471	<u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u> , <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u>	A framework of ASP for shopping path analysis	IEEE Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (IEEE APWC on CSE 2017)	Mana Island Resort and Spa, Fiji	平成 29 年 12 月
472	神田哲也, 福安直樹, 佐伯幸郎, <u>市川晃平</u> , 中村匡秀, 楠本真二	自動発注問題を題材と したビッグデータ・AI 技術に対する実践的人 材育成コースの設計	日本ソフトウェ ア科学会第 34 回大会	横浜市	平成 29 年 9 月
473	柏崎礼生, 北口善明, <u>市川晃平</u> , 近堂徹, 中川郁夫, 菊池豊, 下條真司	広域分散仮想化環境の 展開・運用・管理コス トの定量的評価	インターネット と運用技術シン ポジウム 2016	広島県	平成 28 年 12 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
474	柏崎礼生, 西内一馬, 北口善明, <u>市川昊平</u> , 近堂徹, 中川郁夫, 菊池豊	ネットワーク災害訓練 のシナリオ記述コスト を低減するインターフ ェイスの設計と実装	インターネット と運用技術シン ポジウム 2016	広島県	平成 28 年 12 月
475	Kar-Long Chan, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Yasuhiro Watahshiba, Putchong Uthayopas, Hajimu Iida	A Hybrid Game Contents Streaming Method: Improving Graphic Quality Delivered on Cloud Gaming	15th International Conference on Entertainment Computing	Vienna	平成 28 年 9 月
476	Wassapon Watanakeesun torn, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Putchong Uthayopass	An Implementation of OpenFlow Network Monitoring and Visualization Tools	PRAGMA31 Workshop	Bangkok	平成 28 年 9 月
477	Chawanat Nakasan, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Hajimu Iida	Implementing and Testing Ceph Distributed File System with Multipath TCP	PRAGMA31 Workshop	Bangkok	平成 28 年 9 月
478	Pongsakorn U-chupala, Yasuhiro Watahshiba, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Susumu Date, Hajimu Iida	Container Rebalancing: Towards Proactive Linux Containers Placement Optimization in a Data Center	PRAGMA31 Workshop	Bangkok	平成 28 年 9 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
479	Ikuo Nakagawa, Hiroki Kashiwazaki, Shinji Shimojo, <u>Kohei</u> <u>Ichikawa</u> , Tohru Kondo, Yoshiaki Kitaguchi, Yutaka Kikuchi, Shigetoshi Yokoyama, Shunji Abe	A design and implementation of global distributed POSIX file system on the top of multiple independent cloud services	5th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI)	Kumamoto	平成 28 年 7 月

首藤 昭信

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
480	<u>Akinobu</u> <u>Syutou</u>	Managerial discretion over their initial earnings forecasts	中央大学企業研 究所 公開研究会	中央大学	平成 27 年 7 月
481	<u>Akinobu</u> <u>Syutou</u>	The role of accounting conservatism in executive compensation contracts	神戸大学経済経 営研究所セミナ ー (TJAR Workshop 共催)	神戸大学	平成 27 年 7 月
482	<u>Akinobu</u> <u>Syutou</u>	Managerial discretion over their initial earnings forecasts	早稲田大学プロ ジェクト研究所 会計研究所セミ ナー	早稲田大学 11 号館 703 号 室	平成 27 年 7 月
483	<u>Akinobu</u> <u>Syutou</u>	The role of accounting conservatism in executive compensation contracts	東京大学 現代会計フォー ラム	東京大学	平成 27 年 6 月
484	<u>Akinobu</u> <u>Syutou</u>	Managerial discretion over their initial earnings forecasts	東京大学 現代会計フォー ラム	東京大学	平成 27 年 5 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
485	<u>Shota</u> <u>Otomasa,</u> <u>Atsushi</u> <u>Shiiba,</u> <u>Akinobu</u> <u>Shuto</u>	The Sensitivity of Directors' Cash Compensation to the Performance Measures of Forecast-based Benchmark	Handai Accounting Research Seminar (HARS)	大阪大学	平成 27 年 3 月
486	<u>Takuya</u> <u>Iwasaki,</u> Norio Kitagawa, <u>Akinobu</u> <u>Shuto</u>	The effect of product market competition on discretionary management forecasts	The International Accounting Section of the American Accounting Association	California, USA	平成 27 年 1 月
487	<u>Akinobu</u> <u>Syutou</u>	Credibility of management earnings forecasts and future returns	American Accounting Association Annual Meeting	Atlanta, Georgia, USA	平成 26 年 8 月

## 左 毅

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
488	Jingjing Yang, Tieshan Li, <u>Yi Zuo,</u> C. L. Philip Chen, He Yang	Forecast application of time series model based on BLS in port cargo throughput	The 2018 International Conference on Security, Pattern Analysis, and Cybernetics (SPAC2018)	Shandong, China	平成 30 年 12 月
489	Ye Han, Tieshan Li, C. L. Philip Chen, <u>Yi Zuo</u>	Application of Broad Learning System for Container Number Identification	The 2018 International Conference on Security, Pattern Analysis, and Cybernetics (SPAC2018)	Shandong, China	平成 30 年 12 月
490	Junxia Liu, C. L. Philip Chen, Tieshan Li, <u>Yi Zuo,</u> Peichao He	The Application of Broad Learning System in Speaker Identification	The 3rd International Conference on Cognitive System and Information Processing (ICCSIP2018)	Beijing, China	平成 30 年 11 月



法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
491	<u>Yi Zuo,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada,</u> Tieshan Li, C. L. Philip Chen	Application of Network Analysis Techniques for Customer In-store Behavior in Supermarket	The 2018 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC2018)	Miyazaki, Japan	平成 30 年 10 月
492	Eisuke Kita, <u>Yi Zuo,</u> Fumiya Saito, Xuanang Feng	Personal Authentication with Face and Voice Features Extracted Through Kinect Sensor	2016 IEEE International Conference on Data Mining (ICDM2016)	Barcelona, Spain	平成 28 年 12 月
493	<u>Yi Zuo,</u> Yuya Kajikawa	An Analysis of Hierarchical Clustering for Supply Network at Central Region in Japan	2016 IEEE International Conference on Data Mining (ICDM2016)	Barcelona, Spain	平成 28 年 12 月
494	<u>Yi Zuo,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada,</u> A. B. M. Shawkat Ali	Prediction of Consumer Purchasing in a Grocery Store Using Machine Learning Techniques	2016 3rd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (APWC on CSE 2016)	Nadi, Fiji	平成 28 年 12 月
495	Xuanang Feng, Yuina Yazawa, <u>Yi Zuo,</u> Eisuke Kita	Control of Automatic Door by Using Kinect Sensor	2016 The 4th International Symposium on Computing and Networking	Hiroshima, Japan	平成 28 年 11 月
496	<u>Yi Zuo,</u> Yuya Kajikawa	Application of Social Network Analysis Techniques for Japanese Industrial Structure	2016 World Congress on Computational Mechanics	Seoul, Korea	平成 28 年 7 月
497	<u>Yi Zuo,</u> <u>Katsutoshi</u> <u>Yada,</u> Eisuke Kita	Impact of Analog-to-digital Conversion on Predictive Performance: A Case Study of Bayesian Network vs. Support Vector Machine in Purchase Behavior Prediction	2016 World Congress on Computational Mechanics	Seoul, Korea	平成 28 年 7 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

## 李 振

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
498	<u>Zhen Li</u>	New Consumer Science Study based on Objective Behavioral Data	International Workshop on Frontier of Marketing Sciecne	Taipei	平成 30 年 3 月
499	<u>Zhen Li</u> <u>Katsutoshi Yada</u>	Complementary Relationship between Private Brands and National Brands: Empirical Evidence Based on POS Data	38th ISMS Marketing Science Conference 38th ISMS Marketing Science Conference	Shanghai, China	平成 28 年 6 月
500	<u>Zhen Li</u> <u>Katsutoshi Yada</u>	Does the Existence of Private-Label Brands Really Impede National Brands Sales? Empirical Evidence Based on POS Data	2016 International Conference of Asian Marketing Associations	Beijing, China	平成 28 年 10 月
501	<u>Zhen Li</u> <u>Katsutoshi Yada</u>	Complementary Relationship between Private Brands and National Brands: Empirical Evidence Based on POS Data	38th ISMS Marketing Science Conference 38th ISMS Marketing Science Conference	Shanghai, China	平成 28 年 6 月
502	<u>Zhen Li</u> Lin Huang, Chao Fan	Does Increasing Volume of Online Reviews Really Help Sales? An In-depth Analysis Based on Web Crawling	38th ISMS Marketing Science Conference 38th ISMS Marketing Science Conference	Shanghai, China	平成 28 年 6 月

## 武 博

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
503	<u>Katsutoshi Yada</u> Yi Sun, <u>Bo Wu</u>	The Short-term Impact of an Item-based Loyalty Program	The 2018 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC2018)	Miyazaki	平成 30 年 10 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
504	Bo Wu, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	The Effect of Crowding on Visit Ratio at an Product Area: Based on RFID Data in a Japanese Supermarket	4th Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering	Mana Island, Fiji	平成 29 年 12 月

猪狩 良介

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
505	<u>猪狩良介</u> , 河原達也	購買プロセスにおけるメディアミックス広告効果の推定	日本行動計量学会	東北大学	平成 26 年 9 月

## &lt;図書&gt;

矢田 勝俊

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
506	<u>矢田勝俊</u> (分担執筆)	岩波データサイエンス vol.4	岩波書店	平成 28 年	144

藤岡 里圭

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
* 507	<u>Rika Fujioka</u> , <u>Zhen Li</u> , Yuta Kaneko	<u>Global Luxury</u>	Palgrave Macmillan	平成 29 年	287 (Chapter 12.担当)

中畠 道靖

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
508	國部克彦, <u>中畠道靖</u> ( <u>中畠道靖</u> , <u>木村麻子</u> )	マテリアルフローコスト会計の理論と実践 (MFC Aによる改善活動と予算管理)	同文館出版	平成 30 年	344 (41-53)
509	國部克彦, <u>中畠道靖</u> ( <u>岡照二</u> , <u>中畠道靖</u> ) 呉綺	マテリアルフローコスト会計の理論と実践 (中国における MFCA の展開)	同文館出版	平成 30 年	344 (253-269)
510	稲葉敦編著, <u>中畠道靖</u>	改訂版 演習で学ぶ LCA -ライフサイクル思考から、LCA の実務まで-	シーエーティ	平成 28 年	129 (89-90)

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

岡 照二

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
511	國部克彦, 中寫道靖 (岡照二, 中寫道靖) 吳綺	マテリアルフローコスト会計の理論と実践 (中国における MFCA の展開)	同文館出版	平成 30 年	344 (253-269)

岸谷 和広

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
512	岸谷和広 (6 章担当) 編著 石井淳蔵 廣田章光 坂田隆文	1 からのマーケティングデザイン	中央経済社	平成 28 年	240

木村 麻子

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
513	國部克彦, 中寫道靖 (中寫道靖, 木村麻子)	マテリアルフローコスト会計の理論と実践 (MFCA による改善活動と予算管理)	同文館出版	平成 30 年	344 (41-53)

高井 啓二

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
514	高井啓二, 星野崇宏, 野間久史(著) 星野崇宏, 岡田謙介(編)	欠測データの統計科学	岩波書店	平成 28 年	240

里村 卓也

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
515	里村卓也	マーケティング・モデル 第 2 版	共立出版	平成 27 年	188
516	里村卓也	マーケティング・データ分析の基礎	共立出版	平成 26 年	183

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

岡田 謙介

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
517	高井啓二, 星野崇宏, 野間久史(著) 星野崇宏, 岡田謙介(編)	欠測データの統計科学	岩波書店	平成 28 年	231
518	永野裕之(著) 岡田謙介(監 修)	統計学のための数学教室	ダイヤモンド社	平成 27 年	400

塩地 洋

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
519	塩地洋, 中山健一郎	委託生産・開発のマネジメント	中央経済社	平成 28 年	266

ピエール＝イヴ、ドンゼ

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
520	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , Bram Bouwens, Takafumi Kurosawa	Industries and Global Competition : A History of Business Beyond Borders,	New York: Routledge	平成 29 年	274
521	<u>Pierre-Yves Donzé</u>	L'invention du luxe: histoire de l'industrie horlogere a Geneve de 1815 a nos jours	Neuchatel	平成 29 年	224

鷺尾 隆

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
522	James Bailey, Latifur Khan, <u>Takashi Washio</u> , Gillian Dobbie, Joshua Zhexue Huang, Ruili Wang	Advances in Knowledge Discovery and Data Mining, vol 9652	Springer	平成 28 年	572

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

## 清水 昌平

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
523	<u>清水昌平</u>	統計的因果推論, 人工知能学大事典	共立出版	平成 29 年	430-432
524	<u>清水昌平</u>	統計的因果探索 (機械学習プロフェッショナルシリーズ 杉山将編)	講談社	平成 29 年	191
525	<u>清水昌平</u> (共著: 鈴木讓, 植野真臣, 黒木学, <u>清水昌平</u> , 湊真一, 石島正和, 樺島祥介, 田中和之, 本村陽一, 玉田嘉紀)	確率的グラフィカルモデル	共立出版	平成 28 年	292

## 李 振

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
526	長島直樹、 石田実、 <u>李振</u>	R で統計を学ぼう ― 文系のためのデータ分 析入門	中央経済社	平成 29 年	260 (第 3 部 9 ~13 章担当)
527	<u>Rika Fujioka</u> , <u>Zhen Li</u> , Yuta Kaneko	Global Luxury	Palgrave Macmillan	平成 29 年	287 (Chapter 12.担当)

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

## 2. PD の研究発表状況

## ＜雑誌論文＞

石橋 健 (PD)

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
528	金子雄太, <u>石橋健</u> , <u>矢田勝俊</u>	視線追跡データ取得のための店舗実験と消費者行動の分析—消費者の注視情報から購買傾向を探る—	公益社団法人 日本経営工学会「経営システム」(第 28 巻 第 2 号)	103-108	平成 31 年	無
529	<u>Ken Ishibashi</u>	Assessing Effect of POP Advertising on Decision-making of Product Purchase in Supermarket - Preliminary experiment by using eye-tracking	Proceedings of 4th Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering	41-48	平成 30 年	有
530	Xi Zhong, <u>Ken Ishibashi</u> , <u>Katsutoshi Yada</u>	An Empirical Study of the Relationship among Self-Control, Price Promotions and Consumer Purchase Behavior	Proceedings of 2018 IEEE International Conference on System, Man, and Cybernetics	1863-1868	平成 30 年	有
531	<u>石橋健</u> , <u>宮崎慧</u> , <u>矢田勝俊</u>	店舗内の時系列な行動が購買行動に与える効果に関する研究	オペレーションズ・リサーチ (経営の科学) vol.62, no.12	789-794	平成 29 年	無
532	<u>Ken Ishibashi</u> , <u>Takuya Iwasaki</u> , <u>Shota Otomasa</u> , <u>Katsutoshi Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Comparison of models developed by using data mining technique	Proceedings of IEEE International Conference on System, Man, and Cybernetics	81-86	平成 29 年	有
533	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , <u>Ken Ishibashi</u> , Bo Wu, Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u>	The global distribution of watches: a network analysis of trade relations	Proceedings of the 17th IEEE International Conference on Data Mining Workshop (ICDMW2017)	605-611	平成 29 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
534	<u>Ken Ishibashi</u> , <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Verification of effect on next purchase when many vice category products are brought	Procedia Computer Science	1780-1787	平成 27 年	有
535	石橋健, 古田均, 野村泰稔, 中津功一朗, 高橋亨輔	セルオートマトン PSO を用いた多重モード解析による構造物の信頼性解析	材料 (64)	190-195	平成 27 年	有
536	石橋健, 古田均, 野村泰稔, 中津功一朗, 高橋亨輔	粒子の自律性と相互作用に基づくセルオートマトン PSO の提案	情報処理学会論文誌 (55)	1378-1388	平成 26 年	有

## 金子 雄太 (PD)

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
537	<u>金子雄太</u> , 石橋健, <u>矢田勝俊</u>	視線追跡データ取得のための店舗実験と消費者行動の分析 -消費者の注視情報から購買傾向を探る-	公益社団法人 日本経営工学会「経営システム」(第 28 巻 第 2 号)	103-108	平成 31 年	無
538	<u>Yuta Kaneko</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Bayesian Hidden Markov Model for Evaluating the Influence of In-Store Stationary Time of Customers on their Purchase Behavior	In Proceedings of the 2018 IEEE 5th Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering	印刷中	平成 31 年	有
539	<u>Yuta Kaneko</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , Wataru Ihara, Ryunosuke Odagiri	How Game Users Consume Virtual Currency: The Relationship Between Consumed Quantity, Inventory, and Elapsed Time since Last Consumption in the Mobile Game World	In Proceedings of the 2018 IEEE 18th International Conference on Data Mining Workshops (ICDMW)	848-855	平成 31 年	有



法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
540	<u>Yuta Kaneko</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Do Sales Promotions Affect Dynamic Changes in Sales Outcomes: Estimation of Dynamic State of Product Sales	In Proceedings of the 4th Asia Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2017	1-8	平成 29 年	有
541	<u>Yuta Kaneko</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	スケールの階層性から探るスーパーマーケットの消費者行動	オペレーションズ・リサーチ (経営の科学) vol.62, no.12	807-814	平成 29 年	無
542	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , Ken Ishibashi, Bo Wu, <u>Yuta Kaneko</u> , <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u>	Global Distribution of Watches: A Network Analysis of Trade Relations	In Proceedings of the 2017 IEEE ICDM Workshop on Data Mining for Services	605-611	平成 29 年	有
543	<u>Yuta Kaneko</u> , Shinya Miyazaki, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	The Influence of Customer Movement between Sales Areas on Sales Amount: A Dynamic Bayesian Model of the In-store Customer Movement and Sales Relationship	Procedia Computer Science, vol.112	1845-1854	平成 29 年	有
544	<u>Zhen Li</u> , Ken Ishibashi, <u>Yuta Kaneko</u> , <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Hiromi Shioji</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Vehicle Ownership and Economic Development	Proc. of the 3rd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2016	171-180	平成 28 年	有
545	<u>Yuta Kaneko</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	A Deep Learning Approach for the Prediction of Retail Store Sales	Proc. of the 2016 IEEE 16th International Conference on Data Mining Workshops	531-537	平成 28 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
546	<u>Yuta Kaneko</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Fractal Dimension of Shopping Path: Influence on Purchase Behavior in a Supermarket	Procedia Computer Science, vol.96	1764-1771	平成 28 年	有
* 547	<u>Yuta Kaneko</u>	<u>Fractal analysis of a grocery store shopping path</u>	Proceedings of 2015 2nd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (APWC on CSE 2015),	1-7	平成 27 年	有
548	<u>Yuta Kaneko</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Visualization System for Shopping Path	Proc. of the 19th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	—	平成 27 年	有

李 振 (PD) ※平成 28 年 4 月 1 日より東洋大学・経営学部・専任講師

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
549	<u>Zhen Li</u> , Ken Ishibashi, <u>Keiji Takai</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Shop Area Visit Ratio, Stay Time, and Sales Outcomes: In-depth Analysis Based on RFID Data	Proc. of 2nd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering	1-7	平成 27 年	有
* 550	<u>Zhen Li</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	<u>Why Do Retailers End Price Promotions: A Study on Duration and Profit Effects of Promotion</u>	Proc. of IEEE 15th International Conference on Data Mining Workshops	328-335	平成 27 年	有

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

武 博 (PD) ※平成30年4月1日より早稲田大学・人間科学学術院・助教

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
551	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , Ken Ishibashi, <u>Bo Wu</u> , Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u>	Global Distribution Watches: A network analysis of trade relations	Proceedings of 2017 IEEE Conference on Data Mining Workshop	605-611	平成 29 年	有

原田 拓弥 (PD)

	著者名	論文表題	雑誌名 (巻)	ページ	発行年	査読
552	杉浦翔, 村田忠彦, <u>原田拓弥</u>	賃金構造基本統計調査に基づく合成世帯集団の労働者への所得の割当て	システム制御情報学会論文誌	70-79	平成 31 年	有
553	Tadahiko Murata, <u>Takuya Harada</u>	Synthetic Method for Population of Prefecture Using Statistics of Local Governments	Proceedings of 2018 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics	1175-1180	平成 30 年	有
554	<u>原田拓弥</u> , 村田忠彦, 柘井大貴	家族類型と世帯内の役割を考慮した SA 法による大規模世帯の復元	計測自動制御学会論文集	705-717	平成 30 年	有

### <学会発表>

石橋 健 (PD)

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
555	<u>Ken Ishibashi</u> , <u>Katsutoshi Yada</u>	Assessment of Effect of POP on Purchase Behavior: Comparison of Effectiveness of Eye-tracking Data and Shopping Path Data	5th Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering (APWC on CSE 2018)	Fiji	平成 30 年 12 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
556	<u>石橋健</u>	調査実験における視線追跡機能付き VR の利用可能性に関する研究	経営情報学会、PACIS2018 主催記念特別全国研究発表大会	神奈川、日本	平成 30 年 6 月
557	金子雄太, <u>石橋健</u> , <u>矢田勝俊</u>	視線追跡データを用いた消費者の店舗内購買行動の分析	経営情報学会、PACIS2018 主催記念特別全国研究発表大会	神奈川、日本	平成 30 年 6 月
558	<u>石橋健</u> , 中津功一朗, 弘田陽介	防災教育におけるバーチャルリアリティ (VR) の利用可能性の検討	日本保育学会第 71 回大会	宮城、日本	平成 30 年 5 月
559	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , <u>Ken Ishibashi</u> , Bo Wu, Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u>	Global Distribution of Watches: A Network Analysis of Trade Relations	The 2017 IEEE ICDM Workshop on Data Mining for Services	New Orleans, USA	平成 29 年 11 月
560	<u>Ken Ishibashi</u> , <u>Takuya Iwasaki</u> , <u>Shota Otomasa</u> , <u>Katsutoshi Yada</u>	Model selection for financial statement analysis: Comparison of models developed by using data mining technique	IEEE International Conference on System, Man, and Cybernetics	Banff, Canada	平成 29 年 10 月
561	<u>Ken Ishibashi</u> , <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Katsutoshi Yada</u>	Verification of effect on next purchase when many vice category products are brought	19th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems - KES 2015	Marina Bay Sands Hotel, Singapore	平成 27 年 9 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

金子 雄太 (PD)

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
562	<u>Yuta Kaneko</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Bayesian Hidden Markov Model for Evaluating the Influence of In-Store Stationary Time of Customers on their Purchase Behavior	The 2018 IEEE 5th Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering	Fiji Marriott Resort Momi Bay, Fiji	平成 30 年 12 月
563	<u>Yuta Kaneko</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u> , Wataru Ihara, Ryunosuke Odagiri	How Game Users Consume Virtual Currency: The Relationship Between Consumed Quantity, Inventory, and Elapsed Time since Last Consumption in the Mobile Game World	The 2018 IEEE 18th International Conference on Data Mining Workshops (ICDMW)	Resorts World Convention Centre, Singapore	平成 30 年 11 月
564	<u>Yuta Kaneko</u>	Data Science for Analysis of Path Data in Marketing	The 4th International Workshop on Innovative Algorithms for Big Data	Kansai University, Osaka	平成 30 年 11 月
565	<u>金子雄太</u> , 石橋健, <u>矢田勝俊</u>	視線追跡データを用いた消費者の店舗内購買行動の分析	経営情報学会、PACIS2018 主催記念特別全国研究発表大会	神奈川、日本	平成 30 年 6 月
566	<u>Rika Fujioka</u> , <u>Yuta Kaneko</u> , <u>Zhen Li</u>	日本におけるラグジュアリー市場の拡大と百貨店	日本商業学会 関西西部会	大阪市立大学 文化交流センター	平成 30 年 4 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
567	<u>Yuta Kaneko</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Do Sales Promotions Affect Dynamic Changes in Sales Outcomes: Estimation of Dynamic State of Product Sales	The 4th Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2017	Mana Island Resort and Spa, Fiji	平成 29 年 12 月
568	<u>Yuta Kaneko</u>	Fractal Analysis of Shopping Paths	The 3rd International Workshop on Innovative Algorithms for Big Data	The University of Tokyo	平成 29 年 11 月
569	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , Ken Ishibashi, Bo Wu, <u>Yuta Kaneko</u> , <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u>	Global Distribution of Watches: A Network Analysis of Trade Relations	The 2017 IEEE ICDM Workshop on Data Mining for Services	New Orleans, USA	平成 29 年 11 月
570	<u>Yuta Kaneko</u> , Shinya Miyazaki, <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	The Influence of Customer Movement between Sales Areas on Sales Amount: A Dynamic Bayesian Model of the In-store Customer Movement and Sales Relationship	21st International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems	Marseille, France	平成 29 年 9 月
571	<u>Yuta Kaneko</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	A Deep Learning Approach for the Prediction of Retail Store Sales	2016 IEEE 16th International Conference on Data Mining Workshops	World Trade Center Barcelona, Spain	平成 28 年 12 月
572	<u>Zhen Li</u> , Ken Ishibashi, <u>Yuta Kaneko</u> , <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Hiromi Shioji</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Vehicle Ownership and Economic Development	3rd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2016	Sofitel Fiji Resort & Spa, Denarau Island, Fiji	平成 28 年 12 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
573	<u>Yuta Kaneko</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Fractal Dimension of Shopping Path: Influence on Purchase Behavior in a Supermarket	20th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems, KES2016	York, United Kingdom	平成 28 年 9 月
574	<u>Yuta Kaneko</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Visualization System for Shopping Path	19th International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering Systems - KES 2015	Marina Bay Sands, Singapore	平成 27 年 9 月

李 振 (PD) ※平成 28 年 4 月 1 日より東洋大学・経営学部・専任講師

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
575	<u>Zhen Li</u> , Ken Ishibashi, <u>Keiji Takai</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Shop Area Visit Ratio, Stay Time, and Sales Outcomes: In-depth Analysis Based on RFID Data	2nd Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering	Fiji	平成 27 年 12 月
576	<u>Zhen Li</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Why Do Retailers End Price Promotions: A Study on Duration and Profit Effects of Promotion	15th International Conference on Data Mining Workshops - DMS 2015	Atlantic City, USA	平成 27 年 11 月
577	<u>Zhen Li</u> , <u>Katsutoshi</u> <u>Yada</u>	Why Do Retailers End Price Promotions: A Study on Duration and Profit Effects of Promotion	2015 IEEE International Workshop on Data Mining for Service	Atlantic City, NJ, USA	平成 27 年 11 月
578	<u>Zhen Li</u>	A Study on the Simultaneous Relationship Between Sales Volume and Customer Reviews in China's B2C Online Markets	2nd International Conference of Asian Marketing Associations	Waseda University, Tokyo	平成 27 年 10 月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

武 博 (PD) ※平成30年4月1日より早稲田大学・人間科学学術院・助教

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
579	<u>Bo Wu</u> , <u>Katsutoshi Yada</u>	The Effect of Crowding on Visit Ratio at an Product Area: Based on RFID Data in a Japanese Supermarket	4th Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering	Mana Island, Fiji	平成29年12月
580	<u>Pierre-Yves Donzé</u> , Ken Ishibashi, <u>Bo Wu</u> , Yuta Kaneko, <u>Kei Miyazaki</u> , <u>Keiji Takai</u>	Global Distribution Watches: A network analysis of trade relations	2017 IEEE Conference on Data Mining Workshop	New Orleans, USA	平成29年11月

原田 拓弥 (PD)

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
581	下田稜, 小山竜平, 杉浦孝典, 島田匠都, 村井詩音, <u>矢田勝俊</u> , <u>原田拓弥</u> , 李 皓	スーパーマーケットのPOS データに基づく消費者の購買行動モデル構築	計測自動制御学会 システム情報部門 第18回 社会システム部会研究会	沖縄	平成31年3月
582	<u>原田拓弥</u> , 村田忠彦	リアルスケール社会シミュレーションのためのWebによる仮想個票提供システムの構想	計測自動制御学会 システム情報部門 第18回 社会システム部会研究会	沖縄	平成31年3月
583	<u>原田拓弥</u> , 村田忠彦	出生コーホートを考慮した日本全国の仮想個票の合成	計測自動制御学会 システム情報部門 第18回 社会システム部会研究会	沖縄	平成31年3月
584	<u>原田拓弥</u> , 村田忠彦	世帯合成法における世帯構成員の年齢と役割を考慮した初期世帯と近傍解生成法の改良	計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会 2018	富山	平成30年11月



法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

	発表者名	発表表題	学会名	開催地	発表
585	<u>原田拓弥</u> , 村田忠彦	基本単位区集計を用いた位置情報属性追加手法の精緻化	計測自動制御学会 システム・情報部門 学術講演会 2018	富山	平成 30 年 11 月
586	Tadahiko Murata, <u>Takuya</u> <u>Harada</u>	Synthetic Method for Population of Prefecture Using Statistics of Local Governments	2018 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics	Miyazaki, Japan	平成 30 年 10 月

## &lt; 図書 &gt;

金子 雄太 (PD)

	著者名	書名	出版者	発行年	総ページ数
587	<u>Rika Fujioka</u> , <u>Zhen Li</u> , <u>Yuta Kaneko</u>	Global Luxury	Palgrave Macmillan	平成 29 年	287 (Chapter 12.担当)

## &lt; 研究成果の公開状況 &gt; (上記以外)

## シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

## ■平成 26 年度

## ●国際会議招待セッション

日程	平成 26 年 9 月 15 日-17 日
テーマ	Invited Session on “Data Science for Big Data” in KES2014
会場	Pomeranian Science and Technology Park in Gdynia, Poland
WEB サイト	<a href="http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~yada/conf/kes14/">http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~yada/conf/kes14/</a>

日程	平成 26 年 10 月 5 日-8 日
テーマ	Special Session on “Data Science for Big Data” in IEEE SMC 2014
会場	Paradise Point Resort & Spa, San Diego, CA, USA
WEB サイト	<a href="http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~yada/conf/smc14/">http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~yada/conf/smc14/</a>

## ●国際ワークショップ

日程	平成 26 年 12 月 14 日
テーマ	IEEE International Workshop on Data Mining for Service in ICDM2014
会場	InterContinental Hotel Shenzhen, Shenzhen, China
WEB サイト	<a href="http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~yada/conf/dms14/">http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~yada/conf/dms14/</a>

日程	平成 27 年 3 月 14 日、17 日
テーマ	1st Data Science International Workshop on Data Science in Business
会場	関西大学東京センター (14 日)、千里山キャンパス (17 日)、日本
WEB サイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/dslws2015.html">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/dslws2015.html</a>

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

## ■平成 27 年度

### ●国際会議招待セッション

日程	平成 27 年 9 月 7 日-9 日
テーマ	Invited Session on “Data Science for Big Data” in KES2015
会場	Marina Bay Sands Expo & Convention Centre, Singapore
WEB サイト	<a href="http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~yada/conf/kes15/">http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~yada/conf/kes15/</a>

### ●国際ワークショップ

日程	平成 27 年 6 月 30 日、7 月 4 日
テーマ	Data Science Workshop: "Frontiers of Digital Marketing"
会場	関西大学東京センター (30 日)、千里山キャンパス (4 日)、日本
WEB サイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/notice/dsws201506presentation.html">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/notice/dsws201506presentation.html</a>

日程	平成 27 年 11 月 14 日
テーマ	IEEE International Workshop on Data Mining for Service in ICDM2015
会場	Bally’s Atlantic City Hotel, Atlantic City, NJ, USA
WEB サイト	<a href="http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~yada/conf/dms15/">http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~yada/conf/dms15/</a>

日程	平成 28 年 3 月 15 日
テーマ	2nd Data Science International Workshop on Data Science in Business
会場	関西大学うめきたラボラトリ、大阪府、日本
WEB サイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2016/dsws2016/report.html">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2016/dsws2016/report.html</a>

## ■平成 28 年度

### ●国際会議招待セッション

日程	平成 28 年 9 月 5 日-7 日
テーマ	Invited Session on “Data Science for Big Data” in KES2016
会場	Park Inn by Radisson, City Centre, York, UK
WEB サイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2016/KES2016/index.html">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2016/KES2016/index.html</a>

日程	平成 28 年 10 月 9 日-12 日
テーマ	Special Session on "Information Systems for Design and Marketing" in IEEE SMC 2016
会場	Intercontinental Budapest, Budapest, Hungary
WEB サイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/category/workshop/conf/SMC2016/">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/category/workshop/conf/SMC2016/</a>

### ●国際ワークショップ

日程	平成 28 年 10 月 29 日
テーマ	The 2nd International Workshop on Innovative Algorithms for Big Data
会場	関西大学梅田キャンパス、大阪府、日本
WEB サイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2016/crest-dsws2016/index.html">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2016/crest-dsws2016/index.html</a>

日程	平成 28 年 12 月 12 日
テーマ	IEEE International Workshop on Data Mining for Service in ICDM2016
会場	World Trade Center, Barcelona, Spain
WEB サイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2016/ICDM2016/index.html">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2016/ICDM2016/index.html</a>

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

日程	平成 29 年 3 月 6 日
テーマ	3nd Data Science International Workshop on Data Science in Business
会場	関西大学千里山キャンパス、大阪府、日本
WEB サイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2017/dsws2017/index.html">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2017/dsws2017/index.html</a>
<b>■ 平成 29 年度</b>	
● 国際会議招待セッション	
日程	平成 29 年 9 月 6 日-8 日
テーマ	Invited Session on “Data Science for Big Data” in KES2017
会場	Faculté des Sciences, Aix Marseille Université, Marseille, France
WEB サイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2017/KES2017/">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2017/KES2017/</a>
日程	平成 29 年 10 月 5 日-8 日
テーマ	Special Session on “Information Systems for Design and Marketing” in IEEE SMC 2017
会場	Banff Center, Banff, Canada
WEB サイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2017/SMC2017/">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2017/SMC2017/</a>
● 国際ワークショップ	
日程	平成 29 年 11 月 18 日-21 日
テーマ	IEEE International Workshop on Data Mining for Service in ICDM2017
会場	The Roosevelt New Orleans Hotel, New Orleans, USA
WEB サイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2017/DMS2017/">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2017/DMS2017/</a>
日程	平成 29 年 11 月 30 日
テーマ	The 3 <sup>rd</sup> International Workshop on Innovative Algorithms for Big Data
会場	東京大学医科学研究所、東京、日本
WEB サイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2017/crest-dsws2017/">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2017/crest-dsws2017/</a>
<b>■ 平成 30 年度</b>	
● 国際会議招待セッション	
日程	平成 30 年 9 月 3 日-5 日
テーマ	Invited Session on “Data Science for Big Data” in KES2018
会場	Metropol Palace Hotel, Belgrade, Serbia
WEB サイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2018/KES2018/">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2018/KES2018/</a>
日程	平成 30 年 10 月 7 日-10 日
テーマ	Special Session on “Information Systems for Design and Marketing” in IEEE SMC 2018
会場	フェニックス シーガイア リゾート、宮崎市、宮崎県、日本
WEB サイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2018/SMC2018/">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2018/SMC2018/</a>

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

● 国際ワークショップ

日程	平成 30 年 7 月 13 日
テーマ	Data Science Laboratory Workshop: 小売業の新たな視角
会場	関西大学千里山キャンパス、吹田市、大阪、日本
WEBサイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/notice/ryutsuws2018/">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/notice/ryutsuws2018/</a>

日程	平成 30 年 11 月 17 日-20 日
テーマ	IEEE International Workshop on Data Mining for Service in ICDM2018
会場	Sentosa, Singapore
WEBサイト	<a href="http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2018/DMS2018/">http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/workshop/2018/DMS2018/</a>

■本研究プロジェクトの研究成果等により依頼を受けた招待講演等

- K. Yada, “Human Behavior and Marketing”, Keynote Session, The 2nd IEEE Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2015, Nadi, Fiji. (27/12/3)
- 矢田勝俊:「統計データ利活用に関する有識者会議」構成員、総務省主催・統計データ利活用に関する有識者会議、和歌山。(28/5/27)
- K. Yada, “Data Mining for Marketing in Real World”, Keynote Session, The 3rd Multidisciplinary International Social Networks Conference, New York, NJ, USA. (28/8/16)
- K. Yada, Conference General Chair, The 3rd IEEE Asia-Pacific World Congress on Computer Science and Engineering 2016, Denarau Island, Fiji. (28/12/4-6)
- 矢田勝俊:「データ利活用の魅力と落とし穴」、基調講演、ジャストシステム主催セミナー「データ活用で企業競争力を強化する」、大阪。(29/3/1)
- 「流通業におけるデータサイエンスとのつきあい方」日本流通産業株、大阪、(29/5/10)
- “Marketing and the Uses of Big Data” Asia Pacific for Computing and Information Technology (APSCIT2017) Hokkaido Japan, (29/7/30)
- 「境界を越えるデータサイエンスとマーケティングモデル」2017年度第3回オギノFSP研究会、山梨、(29/9/12)
- 「データマイニングのビジネス応用における諸問題」日本オペレーションズ・リサーチ学会、大阪、(29/9/13)
- 「データ分析とマーケティングモデルの発展」コープさっぽろ、北海道、(29/12/1)
- 「データ主導型研究の展開と現実」、大阪大学産業科学研究所、大阪、(30/6/25)

■インターネットでの公開状況

いずれの情報もホームページ (<http://www2.kansai-u.ac.jp/dslab/index.html>) にて公開している。

## 14 その他の研究成果等

### 14-1. メディアにおける紹介実績

#### 本研究プロジェクトを取り上げた紹介記事

本研究プロジェクトのビジネス分野へのデータサイエンスの応用について紹介した記事

- 「店舗における購買行動の可視化で購買意欲を向上させる店舗戦略を実現」、読売新聞、27/11/28。【別紙資料 P36】
- 「顧客動線データから視線の動きまでを収集 新たな価値を創造するための分析に挑む」、『一目でわかる！研究力が高い大学』、ANESTA、28/06/13。【別紙資料 P39～42】
- 「消費者の購入意欲をごく自然な形で促し、従来ほど景気に左右されることなく売上高を安定

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

化する』、『ビジネス情報記事「デジタル 365」第 4 回』、Microsoft 中堅中小規模向けビジネス・IT 支援情報局、29/02/02. 【別紙資料 P37～38】

#### 14-2. 企業との連携状況

##### 1) 食品日用雑貨業界における産学連携

食品日用雑貨業界における産学連携を推進するために、本研究プロジェクトでは様々な取組みを実施している。例えば、FSP (Frequent Shoppers Program) 研究会[\*248]は顧客の購買履歴データを活用し販売促進と売上活性化の仕組みを構築するための研究会である。国内の大手流通企業とほとんどのメーカーのマーケティング担当者が参加しており、本研究プロジェクトが多くの企業の関心を集めていることがわかる。

##### 2) その他の産学連携

その他にはプラスチック製造などの企業との共同研究のための研究打合せを重ねており、データ共有、企画立案の内容など詳細を検討中である。

#### 15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

##### <「選定時」に付された留意事項>

該当なし

##### <「選定時」に付された留意事項への対応>

該当なし

##### <「中間評価時」に付された留意事項>

該当なし

##### <「中間評価時」に付された留意事項への対応>

該当なし

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

## 16 施設・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 負 担	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他( 科研費 )	
平成 26 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	11,000	5,500	5,500				
	研究費	60,133	20,554	17,908		4,533	17,138	民間企業、財団法人等
平成 27 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	59,884	28,096	16,694		3,134	11,960	民間企業、財団法人等
平成 28 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	70,667	27,598	16,429		2,200	24,440	民間企業
平成 29 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	81,145	29,909	15,626		2,200	33,410	民間企業
平成 30 年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	81,673	31,417	16,966		3,000	30,290	民間企業
総 額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	11,000	5,500	5,500	0	0	0	0
	研究費	353,502	137,574	83,623	0	0	15,067	117,238
総 計	364,502	143,074	89,123	0	0	15,067	117,238	

※最終年度は予定額

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

- 17 施設・装置・設備の整備状況(私学助成を受けたものはすべて記載してください。)  
 《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。) (千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
経済・政治研究所 「ソシオネットワーク 戦略研究センター」 (改造工事)	14年度	1,509㎡	31室	35	241,992千円	120,235千円	私学助成

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m<sup>2</sup>

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。) (千円)

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置) 該当なし				h h h h h			
(研究設備) 該当なし				h h h h h			
(情報処理関係設備) 多次元・時系列データ サイエンスクラウド システム	平成26年度	G6X03A 747090-291 SSG-140-SH他	1式	37,392 h	11,000	5,500	私学助成

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1411034

## 18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	7,203	消耗品等	7,203
光熱水費	0		0
通信運搬費	28	郵券等	28
印刷製本費	68	印刷費	68
旅費交通費	9,970	一般出張旅費等	9,970
賃借料	144	賃借料	144
報酬・委託料	10,242	情報機器関係業務委託等	10,242
( 雑費 )	477	雑費	477
( その他 )	315	会議会合費等	315
計	28,447		28,447
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	871	事務補助	871
教育研究経費支出			
計	871		871
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	4,811	器具備品	4,811
図 書	0		0
計	4,811		4,811
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	4,333	研究支援	4,333
研究支援推進経費	0		0
計	4,333		4,333

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	2,750	消耗品等	2,750
光熱水費	0		0
通信運搬費	88	郵券等	88
印刷製本費	15	印刷費	15
旅費交通費	15,702	一般出張旅費等	15,702
賃借料	193	賃借料	193
報酬・委託料	10,031	情報機器関係業務委託等	10,031
( 雑費 )	794	雑費	794
( その他 )	54	会議会合費	54
計	29,627		29,627
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	1,173	事務補助	1,173
教育研究経費支出			
計	1,173		1,173
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	346	器具備品	346
図 書	0		0
計	346		346
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	13,644	研究支援	13,644
研究支援推進経費	0		0
計	13,644		13,644



		法人番号		271014	
		プロジェクト番号		S1411034	
年 度	平成 28 年度				
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳			
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消 耗 品 費	5,954	消耗品等	5,954	消耗品(1,060)、ソフトウェア(1,006)、消耗器具等(3,888)	
光 熱 水 費	0		0		
通 信 運 搬 費	35	郵券等	35	郵券(19)、支払運搬費(16)	
印 刷 製 本 費	0		0		
旅 費 交 通 費	15,127	一般出張旅費等	15,127	一般出張旅費(13,377)、交通費(1,750)	
賃 借 料	268	賃借料	268	クラウドサービス利用料(193)、会議室利用料(75)	
報 酬 ・ 委 託 料	8,888	情報機器関係業務委託等	8,888	情報機器関係業務委託(1,473)、人材派遣等(7,415)	
( 雑 費 )	863	雑費	863	その他の雑費(863)	
( その他 )	272	会議会合費等	272	会議会合費(132)、設備修繕費等(140)	
計	31,407		31,407		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人件費支出 (兼務職員)	2,054	事務補助	2,054	時給 900円、年間時間数 2,216時間 実人数 4人 超勤等60	
教育研究経費支出					
計	2,054		2,054		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	649	器具備品	649	ノートパソコン(408)、プリンタ(241)	
図 書	0		0		
計	649		649		
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント	0		0	学内0人、学外0人、外国0人	
ポスト・ドクター	9,917	研究支援	9,917	学内3人、学外0人、外国0人、学振0人	
研究支援推進経費	0		0	学内0人、学外0人、外国0人	
計	9,917		9,917	学内3人、学外0人、外国0人、学振0人	

		平成 29 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳			
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消 耗 品 費	6,804	消耗品等	6,804	消耗品(1,283)、ソフトウェア(342)、消耗器具等(5,179)	
光 熱 水 費	0		0		
通 信 運 搬 費	11	郵券等	11	郵券(9)、支払運搬費(2)	
印 刷 製 本 費	0		0		
旅 費 交 通 費	13,851	一般出張旅費等	13,851	一般出張旅費(12,922)、交通費(929)	
報 酬 ・ 委 託 料	7,996	情報機器関係業務委託等	7,996	情報機器関係業務委託(1,552)、人材派遣等(6,444)	
( 雑 費 )	483	雑費	483	その他雑費(483)	
( 会 議 ・ 会 合 費 )	11	会議会合費	11	会議会合費(11)	
( その他 )	23	諸会費	23	学術誌への投稿料(23)	
計	29,179		29,179		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人件費支出 (兼務職員)	1,974	事務補助	1,974	10月支払分まで900円×1,173時間、11月支払分から920円×994時間 実人数 3人 超勤等4	
教育研究経費支出					
計	1,974		1,974		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	738	器具備品	738	デスクトップパソコン(524)、プリンタ(214)	
図 書	0		0		
計	738		738		
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント	0		0	学内0人、学外0人、外国0人	
ポスト・ドクター	13,644	研究支援	13,644	学内3人、学外0人、外国0人、学振0人	
研究支援推進経費	0		0	学内0人、学外0人、外国0人	
計	13,644		13,644	学内3人、学外0人、外国0人、学振0人	

		法人番号		271014	
		プロジェクト番号		S1411034	
年 度	平成 30 年度				
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳			
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容	
教 育 研 究 経 費 支 出					
消 耗 品 費	8,304	ソフトウェア等	8,304	ソフトウェア(534)、消耗品(451)、消耗器具等(7,319)	
光 熱 水 費	0		0		
通 信 運 搬 費	37	郵券等	37	郵券(3)、支払運搬費(34)	
印 刷 製 本 費	0		0		
旅 費 交 通 費	11,622	一般出張旅費等	11,622	一般出張旅費(10,159)、交通費(1,463)	
賃 借 料	0	賃借料	0		
報 酬・委 託 料	10,669	情報機器関係業務委託等	10,669	情報機器関係業務委託(1,819)、人材派遣等(8,850)	
( 雑 費 )	536	雑費	536	その他雑費(536)	
( 会 議・会 合 費 )	12	会議会合費	12	会議に伴う弁当代(12)	
( 設 備 修 繕 費 )	324	設備修繕費	324	実験器具修理代(324)	
( 租 税 公 課 )	27	租税公課	27	実験器具輸入に係る輸入内国消費税(27)	
計	31,531		31,531		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出					
人 件 費 支 出 ( 兼 務 職 員 )	2,397		2,397	10月支払分まで920円×1,389.5時間、11月支払分から940円×1,114.5時間 実人数 3人 超勤等72	
教 育 研 究 経 費 支 出 計	2,397		2,397		
設 備 関 係 支 出 ( 1 個 又 は 1 組 の 価 格 が 5 0 0 万 円 未 満 の も の )					
教 育 研 究 用 機 器 備 品	2,953	器具備品	2,953	デスクトップパソコン4台(1,747)、プリンタ等(1,206)	
図 書	0		0		
計	2,953		2,953		
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出					
リサーチ・アシスタント	0		0	学内0人、学外0人、外国0人	
ポスト・ドクター	11,502		11,502	学内3人、学外0人、外国0人、学振0人	
研究支援推進経費	0		0	学内0人、学外0人、外国0人	
計	11,502		11,502	学内3人、学外0人、外国0人、学振0人	

※最終年度は予定額